

官報

號外

大正十四年三月十一日 水曜日

内閣印刷局

○第五十回衆議院議事速記第二十五號

大正十四年三月十日(火曜日)午後一時十九分開議

議事日程 第二十四號

大正十四年三月十日

午後一時開議

質問

一 港灣行政統一ニ關スル質問(三善清之君提出)

二 煙害防止水源涵養ニ關スル質問(武藤金吉君外一名提出)

第一 漁業財團抵當法案(政府提出)

第二 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

第三 印紙稅法中改正法律案(政府提出)

第四 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第六 中國鐵道株式會社所屬鐵道及東京電燈株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第七 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

大正十二年度第一豫備金支出ノ件

大正十二年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十三年二月及三月中豫備金外ニ於テ豫算超過

及豫算外支出ノ件

大正十三年三月中特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正十三年度第二豫備金支出ノ件

大正十三年度豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

大正十三年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十 治安警察法中改正法律案(山口政二君外二名提出)

第十一 恩給法中改正法律案(松實喜代太君外三名提出)

第十二 恩給法中改正法律案(淺川浩君外六名提出)

第十三 北海道農地特別處理法案(東武君外十一名提出)

第十四 家祿引直處分法案(岡田豐吉君外五名提出)

第十五 新聞紙法中改正法律案(賴母木桂吉君外五名提出)

第十六 染料關稅撤廢ニ關スル建議案(武藤金吉君外一名提出)

第十七 綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案(武藤金吉君外一名提出)

第十八 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案(關直彦君外一名提出)

第十九 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案(飯塚春太郎君外一名提出)

第二十 關稅改正促進ニ關スル建議案(太田信治郎君外一名提出)

第二十一 蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案(平野光雄君外一名提出)

第二十二 煉乳粉乳輸入關稅引上ニ關スル建議案(小池仁郎君外十七名提出)

第二十三 女子高等教育ノ振興ニ關スル建議案(內ヶ崎作三郎君提出)

第二十四 婦人參政ニ關スル建議案(松本君平君提出)

第二十五 市制及町村制改正ニ關スル建議案(高橋熊次郎君外四名提出)

第二十六 (特別報告第一三四號)舊龍野藩祿米不足分ニ關スル請願

第二十七 (特別報告第一三七號)谷川神社創建ノ請願

第二十八 (特別報告第一三八號)福母村神社八幡宮昇格ノ請願

第二十九 (特別報告第一三九號)宮崎神宮別宮狹野神社分立昇格ノ請願

第三十 (特別報告第一四〇號)畜犬繁殖、篋口並野犬撲殺ニ關スル請願

第三十一 (特別報告第一四二號)明治記念國立大公園設立ノ請願

第三十二 (特別報告第一四四號)石狩川ニ橋梁架設ノ請願

第三十三 (特別報告第一四七號)根室郡ニ種馬所設置ノ請願

第三十四 (特別報告第一四八號)和郵便局ニ集配事務開始ノ請願

第三十五 (特別報告第一四九號)東下村波崎ニ特設電話開通ノ請願

第三十六 (特別報告第一五〇號)藤澤村ニ無集配郵便局設置ノ請願

第三十七 (特別報告第一五一號)神戶村ニ無集配三等郵便局設置ノ請願

第三十八 (特別報告第一五二號)中愛別三等郵便局設置ノ請願

第三十九 (特別報告第一五三號)中津井郵便局ニ集配事務開始ノ請願

第四十 (特別報告第一五四號)朝鮮辯護士資格付與ノ請願

第四十一 (特別報告第一五五號)新十津川村ニ登記所新設ノ請願

第四十二 (特別報告第一五六號)常呂村ニ網走區裁判所出張所設置ノ請願

第四十三 (特別報告第一五七號)大間鐵道運成ノ請願

第四十四 (特別報告第一五八號)地下道開鑿ノ請願

第四十五 (特別報告第一五九號)邊別、美瑛驛間ニ停車場新設ノ請願

第四十六 (特別報告第一六二號)瀧内村大字古川所在鐵道跨線橋存置ノ請願

第四十七 (特別報告第一六三號)津山東町ニ停車場設置ノ請願

○副議長(小泉又次郎君) 諸般ノ報告ガアリマス

(書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

漁業財團抵當法案

登錄稅法中改正法律案

印紙稅法中改正法律案

長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

中國鐵道株式會社所屬鐵道及東京電燈株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

(以上三月七日提出)

行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律案

(以上三月九日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

醫師法中改正法律案

提出者

神部 爲藏君 山本 厚三君

小池 仁郎君 手代木隆吉君

淺川 浩君 澤田 利吉君

一柳仲次郎君

登錄稅法中改正法律案

提出者

猪野毛利榮君 湛層 庸一君

(以上三月七日提出)

大正十一年法律第六十號中改正法律案

提出者

増田 義一君 佐々木平次郎君

若尾 璋八君 堤 清六君

平井光三郎君

(以上三月九日提出)

日本勸業銀行法中改正法律案

提出者

砂田 重政君 横山勝太郎君

山口 義一君

北海道拓殖銀行法中改正法律案

提出者

砂田 重政君 横山勝太郎君

山口 義一君

農工銀行法中改正法律案

提出者

砂田 重政君 横山勝太郎君

山口 義一君

國立公園調査ニ關スル建議案

提出者

砂田 重政君 横山勝太郎君

山口 義一君

(以上三月十日提出)

多木久米次郎君

北海道甜菜糖業補助法制定ニ關スル建議案

提出者

小池 仁郎君 東 武君

淺川 浩君 岡田伊太郎君

神部 爲藏君 黒住 成章君

手代木隆吉君 松實喜代太君

澤田 利吉君 山本 厚三君

一柳仲次郎君

北陸ニ國立倉庫設置ニ關スル建議案

提出者

寺島 權藏君 荒井 建三君

高見 之通君

富山縣ニ鐵道局設置ニ關スル建議案

提出者

寺島 權藏君 高見 之通君

魚津漁港兼避難港修築ニ關スル建議案

提出者

寺島 權藏君

防石鐵道買收決定ニ關スル建議案

提出者

恩給法中教育職員ニ關スル事項改正ニ關スル建議案

提出者

加藤 知正君 荒川 五郎君

土井 權大君 袴 苗代君

北海道拓殖銀行資金充實ニ關スル建議案

提出者

松實喜代太君 東 武君

黒住 成章君 岡田伊太郎君

御料拂下地免租年期ニ關スル建議案

提出者

東 武君 岡田伊太郎君

黒住 成章君 松實喜代太君

鷺泊漁港修築ニ關スル建議案

提出者

淺川 浩君 澤田 利吉君

一柳仲次郎君 神部 爲藏君

山本 厚三君 小池 仁郎君

手代木隆吉君

高山富山間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

野村 嘉六君 上埜安太郎君

石坂 豐一君 高見 之通君

石原正太郎君 寺島 權藏君

荒井 建三君 (以上三月七日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

賣國的行爲取締ニ關スル質問主意書

提出者

米及初ノ關稅ニ關スル再質問主意書

提出者

多木久米次郎君

思想善導ニ伴フ特殊機關設置ニ關スル質問主意書

提出者

秋田寅之介君

(以上三月九日提出)

一去年七月政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

衆議院議員柏田忠一君提出在上海邦人經營諸紡績工場ニ於ケル同盟罷業ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員秋田寅之介君提出海事官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

ハ此ノ點ニ就キ如何ナル手段ヲ以テ善處セムトスルカ具體的御説明ヲ請フ

右及質問候也

大正十四年三月七日

内閣總理大臣 子爵加藤 高明

衆議院議長 柏田忠一君提出在上海邦人經營諸紡績工場ニ於ケル同盟罷業ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員柏田忠一君提出在上海邦人經營諸紡績工場ニ於ケル同盟罷業ニ關スル質問主意書ニ對スル答辯書

本年二月在上海邦人經營諸紡績工場ニ發生セル同盟罷業ハ單純ナル勞働爭議ニ非スシテ外部ヨリノ煽動ニ基ク疑アリ政府ハ右取締ニ關シ支那中央並地方官憲等ノ注意ヲ喚起スルト共ニ邦人ノ生命財產保護ニ關シ必要ノ措置ヲ講シタルカ幸ニシテ各工場共既ニ操業ヲ再開セリ

同盟罷業ガ勞働爭議ニ關スル限リ政府ハ當業者ニ必要ナル注意ヲ與ヘ勞資協調ノ實ヲ舉ケシムルニ努力スヘシト雖勞働者以外ノ者カ勞働者ヲ粧ヒ之ヲ煽動セルノ疑アル以上及フ限リ事實ヲ搜索シ適當ノ對策ヲ講セン

トス今日ニ於テ右對策ヲ具體的ニ聲明スルハ公共ノ利益ニ反スルモノト認ム

本件ニ關シテハ政府ハ質問ノ趣旨ト所感ヲ同ウス之ニ處スルノ手段ニ至リテハ前項答辯ヲ參照セラレムコトヲ望ム

右及答辯候也

大正十四年三月六日

外務大臣 男爵幣原喜重郎

海事官増員ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十四年二月二十七日

提出者 秋田寅之介

海軍官制員ニ關スル質問主意書

行政財政整理ノ爲メ冗員ヲ淘汰セラルルノハ當然ナリ而シテ一面國家トシテノ機能ヲ十分發揮シ且國運ノ隆昌ヲ促進スル上ニ於テ有ヨリ無ニ無ヨリ有ニ聲息相通ズル策ヲ講ゾルコトモ亦ヨリ以上割切ナル整理要項デアラネバナラヌト考フルノアリマス

我邦ニ於ケル船舶ノ管掌ハ各其ノ所屬ヲ一定セラレテ之ヲ擔任セル海軍官ガ直接船舶ノ検査ヲ司リ實際ノ事務ヲ取扱フテ居ラルノデアアル

私ノ茲ニ質問セントスル熊本通信局海軍部下關出張所ノ管轄區域ハ下關市門司市若松市八幡市其他山口福岡大分ノ三縣各地ニ跨リ且船舶、船舶ト言フモ鐵船アリ木船アリ西洋型日本型等千態萬狀デアアルガ此等多數船舶異動隻數等ヨリ打算シ海軍官ノ定員ガ甚タ少イノデアアル

此ノ海軍官ノ定員ハ何ノ標準ニ據リ決定セラレタルモノカ不明デアアルガ單ニ關門若倉ノミニテモ所謂出船千艘入船千艘デ古今名實共日本一デアリ附近又大小ノ船渠、造船所數多アリ從テ新造船多ク之ガ龍骨付ケヨリ進水ニ至ル迄及機關部ノ検査、定期、特別検査及海難衝突其ノ他ノ事故頻出到底現在定員ノ海軍官ノミヲ以テシテハ船舶、造船業者ノ要望ニ副フ能ハザルノミナラズ海軍官トシテノ職責ヲ盡ス上ニ於テモ甚タ遺憾ノ點ガ多カラウト想ハルノデアアル

船舶検査ノ精粗ハ一朝有事ノ場合生命財產ニ關係ヲ及ボスノミナラズ之ガ遲速奈何ハ海運界造船界ニ多大ノ影響ヲ與ヘ延イテ世界ノ通商貿易ニ甚カラザル波動ヲ及ボスコトハ敢テ贅言ヲ俟タザル所デアアル而モ法律ハ此等小數海軍官ノ検査ヲ經ザレバ如何ナル大船巨舶ト雖モ誤リニ之ヲ動カスコトヲ許サスノデアアル其ノ爲斯業者ノ蒙ル打擊即チ營業收入ノ減少、滯船料及其ノ他有形無形ノ損害ト苦痛トハ到底舉ゲテ數フコトガ出來ナイノデアアリマス

前述海軍部下關出張所ノ如キ海軍官少數ノ爲日曜祭日ノ區別ナク船渠、造船所及船舶業者漁業者カラ検査ヲ迫ラレ休息ノ時間モ無キ位繁劇ヲ極メテ居ルノデアアル此ノ事實カラ歸納シテ如何ニ海軍部下關出張所海軍官ノ人員不足デアルト云フコトガ想像ニ難クナイノデアアリマス

本員ハ國家經濟及通商貿易促進ノ上カラ相當海軍官ノ増員ヲ爲シ如上ノ缺陷ヲ補ハルルコトハ假令財政整理ノ際トハ申シ乍ラ少許國費ノ増加ヲ來スモ國家トシテ得ル所ハ其ノ失フ所ニ百倍千倍スルモノト確信スルノデアアリマス

前述ノ意味ニ於テ左ノ各項ニ付政府ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアアリマス
一 政府ハ海軍行政ノ實狀ニ鑑ミ其ノ機能ヲ十分ナラシムル爲熊本通信局海軍部下關出張所海軍官ノ増員シ事務ノ簡捷ト敏活ヲ圖ラルル御考ハアリマセンカ

二 萬一海軍官増員不可能トスレバ例ヘバ門司稅關ガ移島ノ如キ船渠造船業者ノ多數アル所ニ派出所ヲ設置シ特ニ内外船舶ノ利便ヲ計リ居レル如ク海軍官ヲ此ノ地ニ駐在セシメ兩兩相俟テ十二分ノ能率發揮ト斯業界ノ改善啓發ニ資セラルルノ御考ハアリマセンカ

三 財政其ノ他ノ御都合上海軍官増員ガ不可能トスレバ請願調査ノ制アル如ク民間ニ於テ之ガ増員ニ要スル經費ヲ寄附スレバ政府ハ此ノ國民ノ要望ヲ許容セラルルデアリマセンカ
四 稅關ガ日曜祭日又ハ開港時間前後臨時開港ヲ爲シ開港料ヲ徵收シ居レル如ク海軍部ニ於テモ之ト同様ノ方法ニ依リ國家及國民ノ福利増進ヲ圖ラルルノ御考ハアリマセンカ

五 灰間スル所ニ依レバ熊本通信局長崎海軍部ヲ門司ニ移轉セラルルトノコトナルガ事實デアリマス因果シテ事實トスレバ其ノ實現ノ時期ヲ承リタイ又此ノ場合下關出張所ノ存廢乃至

權限擴張ハ如何ヤウニナルノデアアリマスカ
右及質問候也
大正十四年三月七日
內閣總理大臣 子爵加藤 高明
衆議院議員秋田實之介君提出海軍官増員ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕
衆議院議員秋田實之介君提出海軍官増員ニ關スル質問ニ對スル答辯書

熊本通信局海軍部下關出張所ニハ現在相當數ノ検査官ヲ配置シ隨時管内各地ニ出張シテ常ニ検査ノ完全ト迅速トヲ期スルノミナラス必要ノ場合ニハ休暇日検査ヲモ執行スルコトセルヲ以テ同地方面ニ於ケル船舶検査上支障ナシト認ム而シテ將來假リニ同地検査官ノ増員ヲ必要トスルコトアリトスルモ船舶検査ノ如キ其性質上純然タル監督事務ニ從事スヘキ官吏ニ要スル經費ヲ民間ノ寄附ニ俟ツカ如キハ検査ノ嚴正公平ヲ期スル上ニ於テ頗ル考慮ヲ要スルコトト思考ス尙熊本通信局海軍部ハ追テ門司ニ移轉セシムル豫定ナルモ下關出張所ノ存廢ニ付テハ其ノ際諸般ノ事情ヲ參酌シ決定スル見込ナリ

右及答辯候也
大正十四年三月六日
遞信大臣 犬養 毅
一 今十日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ
衆議院議員松實喜代太君提出北海道拓殖政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員武藤金吉君外一名提出煙害防止水源油養ニ關スル質問ニ對スル答辯書
北海道拓殖政策ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十四年二月七日
提出者 松實喜代太
北海道拓殖政策ニ關スル質問主意書
北海道拓殖ノ促進ハ刻下帝國重要ノ國策

タル人口調節ト食糧充實ノ解決ニ資スルノ方策ナリ然ルニ近年移民頓ニ減退シ拓殖ノ業遲延トシテ進マズ斯ノ如キ所以ノモノノ畢竟拓殖事業ニ對スル政府ノ施設常ニ姑息退嬰ニ失スルニ職由セスムハ非ス拓殖ノ前途洵ニ寒心ニ堪ヘス加之既定計畫ハ大正十五年ヲ以テ將ニ終了ヲ告ケムトス宜シク此ノ時ニ方リ舊套ヲ擺脫シテ新計畫ヲ樹立シ停頓セル拓殖ノ局面ヲ展開シテ國家緊急ノ要求ニ策應セシムヘキナリ

左記事項ハ拓殖促進上緊要缺クヘカラサル施設ナリト信ス依テ之ニ對スル政府ノ所見ヲ問フ
一 北海道廳官制ヲ改正シ長官ノ地位ヲ昂上シ其ノ權限ヲ擴張シ以テ拓殖計畫ニ對シ自由手腕ヲ發揮セシムルノ意ナキヤ
二 北海道ニ特別會計制度ヲ布キ拓殖促進ヲ圖ルノ意ナキヤ
三 若前項ノ特別制度ヲ布クヲ不可ナリトセハ北海道ニ於ケル國庫ノ收入〔鐵道其ノ他特別會計ニ屬スルモノハ之ヲ除ク〕ハ之ヲ全部拓殖費ノ資源ニ充ツルノ意ナキヤ
四 政府ハ北海道事業公債ヲ發行シ拓殖費ノ資源ニ充テ其ノ促進ヲ圖ルノ意ナキヤ
五 政府ハ北海道大河川〔二十〇河川〕ニ對シ速ニ根本的治水計畫ヲ確立シ其ノ實行ニ著手スルノ意ナキヤ
六 政府ハ北海道ニ地代農地ノ制度ヲ實施シ自作農ヲ創設スルノ意ナキヤ
七 政府ハ北海道ニ於ケル灌漑溝幹支線ヲ國費支辨ト爲シ土地開墾及改良事業費ニ對シ開墾助成法ニ等シキ補助ヲ與ヘ且既設土功組合改修工事ニ適當ノ補助ヲ爲シ備セテ其ノ經營ニ苦シム者ニ對シ救済ノ途ヲ講スルノ意ナキヤ
八 政府ハ北海道ノ農業ヲシテ新生面ヲ打開セシムヘク有畜農業ヲ獎勵スルノ意ナキヤ

八 政府ハ北海道ノ農業ヲシテ新生面ヲ打開セシムヘク有畜農業ヲ獎勵スルノ意ナキヤ

九 政府ハ北海道ニ於ケル漁港修築ノ方策ヲ確立シ海田開發ノ促進ヲ圖ルノ意ナキヤ

十 政府ハ北海道移民招徠ニ對シ積極的方策ヲ立ツルノ意ナキヤ

十一 政府ハ北海道ニ於ケル銀行貯金保險掛金等中央流入ノ弊ヲ矯メ併セテ郵便貯金ハ之ヲ全部北海道ニ於テ低利資金トシテ貸出ヲ爲サシムルノ意ナキヤ

十二 政府ハ北海道拓殖銀行法ヲ改正シ其ノ機能ヲ擴張シ割増債券發行ヲ許シ貸出資金ヲ豐富ニシ且利率ヲ低下セシムルノ意ナキヤ

十三 政府ハ北海道ニ於ケル鐵道敷設法ニ依ル豫定線ヲ府縣ノ夫レト分離シ特別敷設法ヲ設定スルノ意ナキヤ

十四 政府ハ北海道ニ於ケル通信收益ハ之ヲ全部北海道ノ通信機關改善並擴張ニ充ツルノ意ナキヤ

十五 政府ハ北海道大學ニ法文理ノ各科ヲ增置シ速ニ綜合大學ヲ完成スルト共ニ高等學校及高等專門學校並高等師範學校ヲ新設スルノ意ナキヤ

十六 政府ハ北海道ニ於ケル各官廳所屬地ヲ整理シ其ノ不用ニ屬スル農耕地地ハ速ニ之ヲ解放スルノ意ナキヤ

右及質問候也

大正十四年三月十日

內閣總理大臣 子爵加藤 高明

衆議院議長 稻谷義三殿

衆議院議員松實喜代太君提出北海道拓殖政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

內務省圖書第四號

衆議院議員松實喜代太君提出ニ係ル北海道拓殖政策ニ關スル質問答辯書

一 北海道廳官制ハ目下改正ノ意思ナシ
二 現在ノ所北海道ニ特別會計制度ヲ設クルノ意思ヲ有セス
三 北海道ニ於ケル國庫ノ收入ハ各種ノ

四 關係ニ鑑ミ其全部ヲ舉ゲテ之ヲ拓殖費ノ資源ニ充當スルノ意思ナシ
政府ハ財界ノ現況ニ鑑ミ既定計畫ノ公債支辨事業スラ之ヲ打切り又ハ繰延フルコトトシ且ツ緊急已ムヲ得サルモノハ其ノ全部又ハ一部ヲ普通財源ニ依リ遂行スルコトトナシ極力新規公債發行額ノ減少ニ努メツ、アルヲ以テ現今ノ財政狀態ニ於テハ新ニ北海道事業公債ヲ發行スルノ意ナシ北海道重要河川二十六ヶ川ニ對シテハ既ニ一應調査ヲ了セルモ其ノ全體ニ互ル所要工費ハ頗ル巨額ニ上ルヲ以テ財政ノ許ス範圍ニ於テ右河川中拓殖上ニ至重ノ關係ヲ有シ且ツ急務ヲ要スル河川ノ改修ヲ期スルコトトシ漸次他ニ及ボス方針ノ下ニ事業ヲ進メツ、アリ

五 地代農地ノ制度ヲ實施シ自作農ヲ創設スルニ付テハ之ニ伴フ各種ノ保護施設ヲ以テスルニアラサレハ所期ノ目的ヲ達成スル能ハサルヲ以テ目下之カ方法等ニ關シ併セテ講究中ニ在リ

六 灌漑事業ニ對シテハ現ニ拓殖費ヲ以テ幹線工事費ノ四割ヲ補助シツ、アルモ北海道ニ於ケル水田造成ノ實狀ニ鑑ミ之カ助成ニ關スル方法ニ付テハ相當考慮ヲ要スヘキモノアリト認ム尙土地ノ開墾及改良事業ニ對スル助成ニ關シテハ開墾助成法ノ如キ開墾資金ニ對スル利子、補助ノ方法ニ依リテ可トスルカ若ハ工費補助ノ方法ニ依リテ適當トスルカハ大ニ考究ヲ要ス既設土功組合ノ補助又ハ其ノ經營ニ苦シム土功組合ニ對シ低利資金ノ供給其ノ他償還年限ノ延長等ニ依リ救済ニ關シテハ目下考慮中ニ在リ

七 農業ノ合理的經營ヲ有スルカ爲有畜農業組織ト爲スヲ必要ナリト認メ之カ獎勵ニ努メ居ルモ尙適切ナル獎勵方法ニ付銳意考究中ナリ

八 漁港ニ關シテハ其ノ重要ト認ムルモノニ付一應調査ヲ了セルモ之カ修築ニ就テハ他ノ事業トノ緩急並財源ノ關係等ヲ考慮シ努メテ其實現ヲ期セムトス

九 移民ノ招徠ニ關シテハ汽車汽船費ノ割引移民世話所ノ開設及新植民地ニ對シル醫師ノ配置特別教授所ノ設置等ノ外保護移住ノ實施並ニ之等移民ノ入地ニ便スル爲移民軌道ノ敷設ヲ圖リツ、アルモ、今後益進テ移住獎勵ニ努メムコトヲ期ス

十 政府ハ北海道ニ於ケル銀行貯金ノ中央ヘノ流入ニ付テハ成ル可ク之ヲ避ケシムル方針ナリ

十一 簡易保險積立金ノ運用ニ付テハ現ニ資金還元ノ趣旨ニ依リ投資シ全然其ノ弊ナシ又郵便貯金ニ付テハ之ヲ預金部資金トシテ有利確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用セムコトヲ期シ之カ爲公債地方債其ノ他ノ債券ヲ引受ケ又ハ買入等ノ方法ニ依リ運用シ居ル次第ニシテ郵便貯金ノ全部ヲ其ノ地方貸出ニ使用スルコトハ實行上困難ナリ然レトモ地方低利資金ノ潤澤ヲ圖ルコトニ付テハ常ニ最善ノ考慮ヲ拂ヒ今後ニ於テモ一層此ノ點ニ重キヲ措ク考ヘナリ

十二 現在北海道拓殖銀行ハ北海道及樺太ノ拓殖資金ノ供給ヲ目的トシテ長期資金(不動産貸付)及短期資金(普通銀行業)ノ融通ニ汎ク應ジツ、アリテ現行法上其ノ機能ノ發揮ヲ努力セル今日ニ於テハ此上法律ノ改正ヲ必要トセサルヘク又同行ニ割増金附債券ノ發行ヲ認ムルコトハ不可ナリト信ス

十三 鐵道敷設法中北海道ニ於ケル豫定線ニ付テハ政府ハ府縣ニ於ケル夫トハ全ク考慮ヲ異ニシ敷設實行計畫ニ就テモ沿道住民若クハ物資ノ多寡ヲ標準トセス專ラ地方拓殖ヲ以テ主眼トシツ、アリ故ニ故ラニ法律ヲ別ニ

十四 北海道ニ於ケル通信事業ノ收支ハ其ノ收入ハ支出ヲ償フニ足ラサル現狀ナルモ本道ニ於ケル通信機關改善擴張ノ急務ナルヲ認メ收支ノ如何ニ關セス豫算ノ許ス範圍內ニ於テ著々實行ニ努メツ、アリ

十五 北海道ニ於ケル高等教育機關ノ施設ニ關シテハ政府ハ財政ノ關係ト時勢ノ進退トニ鑑ミ漸次之カ整備ヲ期セントス

十六 北海道ニ於ケル各官廳所屬地ノ整理ニ關シテハ政府ハ銳意之カ促進ヲ圖リ其ノ不要ニ屬スルモノハ速ニ之ヲ解放シテ處分シツ、アリ其ノ農耕適地ニ付テハ可成其ノ目的ニ副フ様處分ヲ爲ス見込ナリ國有財産調査會モ亦國有財産整理促進ノ目的ヲ以テ設置セラレタルモノニシテ常ニ之カ整理ニ盡力シ居レリ

右及答辯候也
大正十四年三月九日

農商務大臣 高橋 是清
逋信大臣 犬養 毅
內務大臣 若槻禮次郎
文部大臣 岡田 良平
鐵道大臣 仙石 貢
大藏大臣 濱口 雄幸

煙害防止水源涵養ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十四年三月二日

提出者
武勝 金吉 青木 精一
煙害防止水源涵養ニ關スル質問主意書

一 栃木縣上都賀郡足尾銅山附近ニ其ノ水源ヲ發シ群馬縣山田郡新田郡邑樂郡及栃木縣西部一端ヲ灌漑スル渡良瀬川ハ逐年其ノ流水量減退シ灌漑用水ノ不足ヲ來スニ至レリ殊ニ大正十三年ノ大旱魃ニ

際シテハ果然未會有大渴水ヲ來シ旱害ノ慘禍ヲ被リ農村ノ死活問題トシテ今向人心恟々タルモノアリ渡良瀬川減水ノ原因タルヤ主トシテ尾尾銅山煙毒ノ爲メノ水源地域一帯ノ山林枯死荒蕪ニ歸シタルニ因ル政府ハ尾尾銅山ニ於ケル煙毒毒除害命令ノ施行ヲ怠レルモノニ非スヤ一政府ハ尾尾銅山煙毒毒除害命令ヲ履行スルト共ニ渡良瀬川水源涵養ノ爲メノ水源地域ニ於ケル於ケル荒蕪セル山林ノ保護復舊ノ方策ヲ實施シ且渡良瀬川上流沿岸ノ砂防工事ヲ實施完成シ以テ其ノ流域ニ於ケル農村ノ危機ヲ救済スルノ最急務ナルヲ認メサルヤ右及質問候也

大正十四年三月十日

內閣總理大臣 子爵加藤 高明
衆議院議長 柏谷義三君

衆議院議員武藤金吉君外一名提出煙害防止水源涵養ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員武藤金吉君外一名提出煙害防止水源涵養ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一政府ハ足尾銅山製煉所ヲ中心トスル渡良瀬川水源地域ノ荒蕪ニ關シテハ之カ除害設備トシテ從前煙煙ノ中和或ハ稀釋ヲ行ハシメタルカ更ニ除害上有効ナル電氣收塵裝置ヲ設置セシメ相當ノ效果ヲ收メツツアリ猶除害設備ノ操作ニ就テ常ニ監督ヲ懈ラス
一渡良瀬川水源涵養ニ關シテハ足尾銅山ニ於テ諸種ノ防止工事植樹ヲ行ヒ明治四十四年約大正十二年ニ至ル期間ニ之カ經費約四十七萬圓ヲ支出セリ今後引續キ此等ノ事項ヲ施行スル計畫ニシテ政府ハ常ニ其ノ施業ヲ監督シ履行ヲ圖レリ
國有林地ニ就テハ明治三十年以來政府ニ於テ禁止工業ヲ施行シ其ノ施設費トシテ既ニ七十九萬圓ヲ支出シ別ニ荒廢地復舊事業費トシテ約二萬圓ヲ支出セ

リ今後ニ於テモ引續キ工事實施ノ豫定ナリ
向渡良瀬川上流沿岸ニ對シテハ砂防工事施行ノ必要アリト認メ目下調査研究中ニ屬ス
右答辯候也
大正十四年三月十日

農商務大臣 高橋 是清
內務大臣 若槻禮次郎

一今十日內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
大藏省主稅局長 黑田 英雄
大藏省所管事務政府委員被仰付
〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一去七日裁判所構成法中改正法律委員畔田明君辭任ニ付其ノ補闕トシテ杉宜陳君ヲ明治三十二年法律第十七號中改正法律案外三件委員永井作次君辭任ニ付其ノ補闕トシテ佐藤重遠君ヲ教育ノ機會均等ニ關スル建議案委員中村四郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ倉元要一君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

一昨九日教育ノ機會均等ニ關スル建議案委員浦野謙朗君、西方利馬君辭任ニ付其ノ補闕トシテ丹下茂十郎君、若尾幾太郎君ヲ明治三十二年法律第七十號中改正法律案外三件委員下元鹿之助君辭任ニ付其ノ補闕トシテ森田茂君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ
一今十日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ第五部選出
決算委員 信太儀右衛門君(村山喜一郎君補闕)
一昨九日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ第一部選出
豫算委員 石坂 豐一君(佐々木平次郎君補闕)
第七部選出
豫算委員 川口 義久君(高木第四郎君補闕)
○副議長(小泉又次郎君) 是ヨリ會議ヲ開

キマス、諮問事項ガアリマス、第九部選出諮願委員吉良元夫君、常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其部ノ諸君ハ速ニ補闕選舉ヲ行ヒ、御届出アランコトヲ希望致シマス、議事進行ニ關シテ發言ノ通告ガアリマス
——田淵豐吉君

○田淵豐吉君 一寸簡單ニ十分間程——一昨日副議長ノ今ノ議長ニ議事進行ノ通告ヲシマシタガ、少シ皮肉デアッタノハ、私ノ不ハ居ラナカッタ、少シ皮肉ノヤウニ思ヒマセガ、其他ノ事ニ付テハ今日一寸尊タ時ニ御辯解ガアリマシタカラ、私モ此處デブウー言ハヌ方適當デアルト思ヒマスカラ言ヒマセヌ、一寸其點々責任ヲ明ニスル爲ニ私言ウテ置キマス、ソレデ私ハ小サイヤウニ諸君ハ思フカ知ラヌガ、重大ナ事デアルト思フ、是ハドウシトラ宜イカ知リマセヌガ、先ヅ議事進行ニ付テ私ハ述ベタイ、ソレハ表決ニ付テ一言シタイ、サウシテ議長ノ御考ヲ聽キタイ、又議員諸君ノ注意ヲ喚起シタイ、ソレハドウ云フコトヲ言フカト云フト、選舉ノ時ニハ大變エライ騒ギヲシテ、三十日モ、四十日モ掛テ選舉シテ出テ來ル所ガ此間鎖ト云フモノガアッテ、吾々ガ過激政府案ニ反對質問シテ居ル、而シテ尙ホ其上ニ反對ノ討論ニ通告モシテ居ッタ、所ガ途中デ打切ッテカラ、議場ノ閉鎖ニ遭ッテ僅々二十秒間位後レテ緋出サレタヤウナ次第、入ラウト思フモ入レナイト云フコトニナリマシタ、サウスルト片方デハ田淵ハ反對ヲシテ居ナガラ逃ダタト云フコトニナッテ居ル、非常ナ誤解ヲ招ク、又林田龜太郎君等モサウ云フヤウナコトニナッテ居ル(何故議長ニ居ラヌ「自分ガ居ラヌカラ惡イノダ」ト呼フ者アリ)聽イテ下サイ、私ノ事ダケヲ言フノデナイ、君等ノ間違テ居ルコトガ分ルカラ——ソコデ林田君モサウデス、投票ハ僅ニ十八票デアアルガ、少クトモ二十五票アルラシイノデアッタ、サウ云フヤウナコトデ唯、單ニ過激法案ダケデナイ、一年ニハ百人以上緋出サレテ居ラシイ、之ヲ如何ニスベキカト云フノガ私ノ問題デアル、是ハ根柢ハドウデアアルカト云フト、議員ノ選舉スル時ニハ非常ニエライ騒ギヲシテヤッテ來ル、所ガ議會デ重要法案ニ投票スル時ニハ、一分進イ一秒進イト云フノ緋出シヲ喰フ是ハドウ云フ譯デアアルカ、此規則ト云フモノヲ如何ニ改正スルカト云フトコトガ私ハ重大問題ト思フ、是ハ小サナ問題デナイ重大問題デアアル、仍テ一寸述ベタイ、議院規則ノ表決ノ部ニ第二百二十四條「表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス」議場ニ居ル者デナケレバ表決ニ加ハルコトヲ得ズト云フトコトニナッテ居ル、所ガ外ノ選舉ニ於テハ其時ニ行ハナクテモ、其日ノ何時カラ何時マデニ或ル一定ノ場所ニ表決セイト云フトコトニナッテ居ル、所ガ此處ハ官條式ニナッテ居ル、第二百二十四條デサウナッテ居ル、更ニ二百三十三條ニハ「點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ」ト云フ規則ガアリマス、ソレデ縛ラレテ居ルヤウナ次第、例ヘバ茲ニ記名投票ヲ行フ旨ヲ宣言シテ、贊成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ青票ト云ウツソレデ閉鎖ト來マスカラ、約一二分ノ間ニ於テ閉鎖サレテシマフト云フ状態ニナッテ居ル、外ニ居ル者ハ便所ニ行ッテ居ルモ投票スルコトガ出來ナイト云フ實ニ官條式ニナッテ居ル、所ガ諸君ニ一考ヲ煩シタイノハ、例ヘバ茲ニ此間ノ過激法案ノトキニモ私ハ再び反對ノ討論ニモ立ツベキ者デアッテ、サウシテマダ三四人殘ッテ居ルノデアアル、ソレヲ與黨諸君ガ有害ト思フ途申デ打切ッテシマフ、現ニ私ガ其處ニ居ルモ何時何十分頃ニ是ガシマフカト云フトコトハ分ライノデアリマス、分ライカラ多數黨ノ政府ハ時ニ橫暴ヲシマスカラ、他ノ反對ノ議員ガ少クナッタキニ投票シマス、斯ウ來マストドウドアルカ、又與黨ノ人ガ述ベテ居ッタ所ガ、其人ガ一時間モヤルヤウナ顔ヲシ

テ二十分位で打切テ、反對議員ノ少イトキニヤラレタラドウシマス、現ニ私ハ小泉サシノ田淵君一寸議場ニ居ラヌヲ知テ居テ、ソレニモ拘ラズ議事進行ニ付テ許スト言ハレタサウデアリマス、サウ云フヤウナ調子デ以テヤラレタ日ニハ、選舉シテ來ル時ニハ大騒ガヲシテ、此處デヤル時ニハ官條式ニヤツシマフト云フコトハ、穩當ナ事デハナカラウト思フ、成ベク此處ニ居ラナクテモ、此議院ノ中ニ居ル人ミガ其投票ヲナシ得ル時ヲ待ツトカ云フコトガ、私ハ適當ナル憲政上ノ必要ナル事項デハナカラウト思フ、元ハ一寸ノ名ガ違フ、ダカラ無効ダトカ、紙ガ薄カタカラ無効ダトカ何トカ言フテ、非常ナ裁判沙汰ニナルヤウナコトヲシテ諸君ガ出テ來テ居ル、然ルニ議場ニ於テハサウ云フヤウナ專制ノ遣方ヲヤツテ居ル、故ニ是ハ仕方ナケレバ仕方ガナイケレドモ、茲ニ私ノ言ハント欲スル所ハ、必シモ此議場ニ一時カラ六時、或ハ九時マデノベツマダラニ居ラレモノデハナイ、他ニ議場カラ出ル必要モ多ク起ルノデアリマス、時々ハ出ル、殊ニ演説ヲシタ後ナシカ苦シカラ退場スルコトガアルノデアリマス、故ニ此處ニ坐ラテ居ル人バカリガ議員デハナイ、少シ失禮ナコトヲ言ヒマシタケレドモ、ソレハ事實デアル、ソコデ私ハ思フニ、議長ハ此規則ヲ此儘ニ置イテ置キマシテモ、尙ホベルヲ鳴ラシマシテ各室ニ通ズルヤウニシ、三分間位前ニ此議院内ニ居ル者ニ知ラセルトカ、或ハ赤イ「ランブ」ヲ點ケルトカ云フヤウナコトヲシテ議員ヲ此處ニ滿タシテ、成ルベク必要ナル所ノ投票ヲヤラスト云フコトガ、最も私ハ必要デナカラウト思フノデアアル、故ニ私ハ議長ガベルヲ鳴ラシ、三分間位前ニ知ラセテ、其間ニ議員ガ集テ公正ニ投票ヲスルト云フコトガ矢張必要デアルト思フ中ニハ一人デ一時間モ二時間モ演説ヲシテ居ル人モアル、サウシテ何時打切ルカ分ラヌヤウナコトニナツテ居ル(發言者多シ)默テ御聽キナサイ、何時打切ルカ分ラヌニ、其處ニ居ナケレバ其權利ヲ失フト云フコトハ、立

憲政治ノ根本ニ反スルと思フ此事ハ外國ニモ其例ガアルト聞イテ居ル、是ハ何トカ改正シテ、此議員ガ集リ得ルヤウニシテ、公正ニ投票ガ出來ルヤウニスル、例ヘバ投決ヲ起立ニ問フ場合ニハ閉鎖シナイサウデアリマス、起立ト云フコトハ重要ナル所ノ法案デモ起立スルコトガ出來ルサウデス、必シモ閉鎖シナケレバナラヌト云フコトモナカラウト思フ、投票ノ嚴正トカ何トカ、秩序ノ點カラサウシタノデゴザイマセウケレドモ、是ハ何トカシテ改良スルコトガ必要デハナカラウト思フ、諸君ガ普通選舉ニナレバ出テ來ナイカモ知レヌガ、併シ此議院規則ヲ排ヘテ置イテ、慣例ヲ作ルト云フコトハ最も必要ナ事デハナカラウト思フ、故ニベルヲ以テヤルトカ、或ハ何カ適當ナル時間ヲ與ヘテ、十分ニ此國民ノ權利ヲ行使セシムルヤウニシタ方ガ、私ハ便宜デハナカラウト、又宜イデハナイカト云フコトヲ議長ノ御考ヲ聽イテ、サウシテ又諸君ノ御考ヲ聽キタイ、尙ホ私ノ意見ガ徹底シナイカモ知レカセヌガ、改メテモ一度來議會ニデモマルカモ知レカセヌケレドモ、今日ハ諸君ノ御注意ヲ喚起シ、議長ノ之ニ對スル御辯明ヲ聽イタ上デ來議會ニデモ之ニ就テ述ベタイト思ヒマス、一寸私ノ意見ヲ述ベマシタ次第デアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 田淵君ニ御答ヲ致シマス、投票ノ際、議場ノ入口ヲ閉鎖スルコトハ田淵君ノ今御話ノアツタ通り、議院規則第百三十條ガ之ヲ命ジテ居ルノデアリマス、議長ト致シマシテハ現在此法規ニ命ゼラレタル範圍ニ於テノ職務ヲ取扱フ外ニ策ハ無イト思フノデアリマス(ヒヤヒヤ)而シテ田淵君ノ御希望ノ三分前ニ振鈴セヨトカ、若クハ他ノ注意ヲシタラドウカト云フコトハ、取モ直サズ便宜ヲ與ヘテハドウカ、此規則以外ニ便宜ヲ與ヘテハドウカト云フヤウナ御質問ダト思ヒマスガ、議長ト致シマシテハ、現在此法律ノ命ズル所ニ依ツテ職務ヲ行フ外他ニ便宜ガ無イト思ヒマス、但シ田淵君ニ規則ノ改正ニ付テノ御希望アリト致シマスレバ、田淵君ハ相當

ノ手續ヲ取ラレンコトヲ希望スルノデアリマス(拍手)是ヨリ質問ニ入リマス、第一、港灣行政統一ニ關スル質問——三善清之君

一 港灣行政統一ニ關スル質問(三善清之君提出)

港灣行政統一ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十四年三月二日

提出者 三善 清之
贊成者 赤間嘉之吉
外三十人

港灣行政統一ニ關スル質問主意書
一通商貿易上ノ機關及其ノ行政事務ヲ統一シテ英國ノ如クニ内閣直屬ノ下ニ港灣行政廳ヲ特設シテ目下内務大藏兩省其ノ他地方廳等分掌ノ制度ヲ改廢シ其ノ便益ヲ企畫スルノ意思ナキヤ
一本邦ニ於テモ自由港制度ヲ設クルノ意思ナキヤ
一内地及殖民地ノ鐵道新線ノ完成ニ從ヒ交通網ノ變化ヲ來シ之カ連絡機關ニ供スル港灣ノ修補又ハ新設ハ國策上政府直轄國費ヲ以テ工事ヲ施行スルノ意思ナキヤ
一河川法及道路法鐵道法等ノ法規ハ既ニ具備セリ然ルニ我カ邦未タ港灣法ノ制定ナキハ行政上ノ一大缺陷ナリト認ム之ニ對スル政府ノ所見如何
右及質問候也
(三善清之君登壇)

○三善清之君 政府ニ向テ港灣行政ノ統一ニ關シマシテ質問ヲ致スノデアリマス、先ヅ第一ハ通商貿易上ノ機關及其行政事務ノ統一ヲ、英國ノ如クニ内閣直屬ノ下ニ港灣行政廳ヲ特設シテ、目下各省ニ分轄制據シテ居ル事務ヲ統一スルコトヲ便利ナリトシテ質問ヲ致スノデアリマス、第二ハ本邦ニ於キマシテモ自由港一二箇所設置スルノ必要ガアリハシナイカト斯様ナ質問デアリマス、第三ハ内地及殖民地ノ鐵道網ガ次第ニ擴張シマスルニ從ヒマシテ、交通網ガ變化致シマス、其變化ニ從テ是ガ聯絡機關

ニ供スル港灣ノ如キハ、政府直接ニ工事ヲ爲シ、國費ヲ以テ爲スベキモノデアラウト考ヘマス、此點ニ向テ政府ノ答辯ヲ煩ハス者デアリマス、第四ハ河川法、道路法、鐵道法等ハ既ニ具備シナイノハ、國家行政ノ上ニ於テノ缺陷デアリマス、此點ヲ政府ニ質問ヲ致スノデアリマス、由來我國ハ封建時代ニ於キマシテ大船主船ノ船造ヲ禁ジ、國民ノ海外通商貿易ヲ禁ジマシタ爲ニ、海事思想ガ非常ニ遲レテ居リマスルノデ、ソレガ現在ノ港灣行政ノ上ニモ大ナル缺陷ヲ來シテ居ルノデアリマス、此問題ニ付キマシテハ積年政府ニ於テモ研究ヲ致シテ居リマス、又民間ノ大ナル船舶業者及貿易業者ニ依ツテ政府ニ建言モ行ハレテ居ルノデアリマス、本員モ亦數年前ニ於キマシテ、政府ニ向テ建議ヲ致シマシタガ、未ダ實現ヲ致サナイデアリマス、仍テ本日此質問ヲ提出シタ譯デアリマス、要スルニ港灣ノ國家ノ港灣ト地方ノ港灣ガアリマス、港灣ノ港灣ハ國際上ノ機關デアアル、國際上ノ通商貿易ノ機關デアアル、又國內ニ於ケル商業經濟ノ大機關デアリマスカラ、其行政ガ現在ニ於キマシテハ或ハ通信省ニ或ハ農商務省ニ、或ハ大藏省ニ、或ハ内務省ニ——殊ニ内務省ニ屬スルモノハ多ク地方廳府縣知事ノ職權ニ屬シテ居リマス、ソレガ爲ニ港灣行政ノ統一ガ甚ダ複雑、甚ダ微妙ヲ缺イテ居リマス、出入船舶ガソレガ爲ニ平均ハ時間位ノ外國船ガ時間ニ於テスラ損ヲ致ス、斯様ナ不經濟ノ現狀デアリマス、一日モ早ク此行政機關ノ統一ヲシナケレバ相成ラヌ、隨テ大正十三年ニ於キマシテ此特別委員ヲ置キマシテ、委員長ニ水野鍊太郎君ガナリマシテ、政府ニ建議ヲ致シマシタ、其建議ニ依リマスルト、只今申シマシタ各省各個ニ分レテ居ル事務ヲ統一一致シマシテ、一等港即チ國ノ港灣ノ在所ニハ港灣行政廳ヲ英國ノ如ク置キタイ、其處デ總テノ事務ヲ總メタイ、斯ウ云フ既ニ建議ニナシタイモノデアルト考ヘマス、御承知ノ如

タ今ノ國家ノ港灣ト申シマスルモノハ横濱、神戸、下ノ關、敦賀、之ヲ以テ國ノ港灣トシテ居リマスケレドモ、其當時建議致シマシタノニハ大阪、名古屋ノ如キモ加テ居リマス、二等港灣トシテ國家ガ半額補助、或ハ三分ノ一ノ補助ヲシテ居ルモノハ十數箇所アル、是モ亦更ニ調査ノ上デ統一シナケレバ相成ラヌト考ヘルノデアリマス、是等ハ極メテ行政上必要ナ事デアリマスルカラ、政府ハ如何ナル所見ヲ持ッテ居ルカ、此答辯ヲ御願シタイノデアリマス、第二ノ自由港制度ハ世界ノ何レノ國ニモアルノデアリマセヌガ、歐洲各國ニ於テハ既ニ二三箇所アリマシテ、隨分或ル場合ニ於テハ是ハ便利ナモノデアリマセウ、本邦ニ於テモ一二箇所ハ設ケル方ガ、商業上或ハ通商貿易上利益デアルト考ヘマス、政府ハ如何ナル所見デアルカ、第三ノ問題ハ申スマデモナク、斯様ナ所ハ幾ラモアル、段々鐵道網ガ新ニ出來マシテ、隨テ海陸ノ連絡ガ變テ參ル、然ルニ其地方ニ依ッテハ地方費デ以テ半額補助ヲ得タ位デハ到底出來ナイト云フ場合ガ起ル、然レドモ今日マデ多ク從來ノ成行ニ任セテ、多少迂迴シテ時間ニ於テ一日位違フテモ、現狀デウツチャツテ置クト云フ有様デアアル、斯様ナ所ニ付テハ、港灣政策ノ上ニ於テ政府ハ注意ヲ拂フテ、其改革ヲヤラナケレバナラヌコトデアルト考ヘマス、之ニ就テ政府ハ如何ナル所見ガアルカ、第四ノ港灣法ハ既ニ政府ニ於テハ案件ヲ附シテ草案ガ出來テ居タノデアリマス、然ルニ前年港灣調査會ナルモノガアリマシテ、港灣調査會ハ多ク各省ノ官吏、即チ次官ノ如キ者ガ多ク之ニ委員デアリマシタ、矢張從來ノ因襲ニ因ハレテ各省事務ノ割據スル弊害カラ、遂ニ纏ラナカッタト云フコトデアリマス、甚ダ國策上ニ於テ遺憾デアリマス、港灣法ガ出來マシレバ自然一港灣、二等港灣ト云フモノ、區別ガ出來ル、即チ道路ニ於テモ國道ノ中ニ於テモ、國庫ガ全部負擔シテヤルベキ國道モアリ、或ハ國道ノ名ヲ存シテ居ッテモ今日ハ縣道ニ劣ルヤウナモノモアル、一ノ法案

ヲ作シテ、議會ニ於テ通過シタ其法律ニ依ッテ此統一ヲ圖ラナケレバイケン、現在ノ儘ニ在リマシテハ既ニ四十五アリマスルモノ、半額ノ補助ヲ受ケテヤル港灣ノ如キモノモ、何等國家ニ法規モ無イ、其地方ニ於ケル或ハ政黨ノ關係上、其運動ノ威力アルモノニ依ッテ效ヲ奏スルト云フガ如キハ、國家ノ爲ニ甚ダ憂フベキ事デアリマス、即チ法規ヲ設ケテ是ガ統一ヲスルコトハ刻下ノ急務デアルト考ヘマス、之ニ就キマシテハ色ノ意見モアリマスケレドモ、質問ハ是デ打切りマス

〔政府委員植原悦二郎君登壇〕

○政府委員(植原悦二郎君) 三善君ノ御尋ハ内務、大藏、鐵道、逓信、此四省ニ關係スルコトデアリマスガ、逓信省所管ニ關スル事ダケヲ御答致シテ置キタイト思ヒマス、逓信省所管ニ關スルコトデ、海軍部ト航路標識管理所ヲ港灣行政統一ノ部分ニ入レテハ如何カト云フ御趣意ト思ヒマス、御承知ノ如ク燈臺ハ港灣ガカリデゴザイマセヌ、日本ノ重要ナル岬や其他船舶ノ航行スル所ニ一般ニ在リマスノデ、港ノ在リマス所ノ一二箇所ノ燈臺ノミヲ、港灣行政ノ統一ノ中ニ入レテ管理致シマスコトニナリマシタナラバ、却テ航路標識ノ上カラウ申シマスレバ不便デナカラウカト云フヤウニ考ヘテ居リマス、又海軍部ノコトデアリマスガ、是ハ船舶ノ検査モ、亦船員ノ乗組モ、或ハ解雇ノ場合ヲ公認スルコトヲ致シテ居ルノデ、港ニ於ケル仕事ダケヲ掌ッテ居ルノデナイ、船舶ガ何所ニ於キマシテモ、航行中デアリマシテモ、碇泊中デアリマシテモ、如何ナル場合ノコトデモ海軍部デ之ヲ所管スルコトニナッテ居リマスカラ、三善君ノ御意見ノ如ク、是ガ實行出來マスカ出來マセヌカ、頗ル疑問ト致シテ居ルノデアリマスガ、折角ノ御質問モゴザイマシタカラ、十分ニ考慮致ス考デアリマス、其他ノ管掌ノ事ハ多分書面ヲ以テ御答ニナルコトドラウト思ヒマス

○三善清之君 私ノ質問ハ主トシテ内務省關係デアリマスガ、如何デゴザイマセウヲ作シテ、議會ニ於テ通過シタ其法律ニ依ッテ此統一ヲ圖ラナケレバイケン、現在ノ儘ニ在リマシテハ既ニ四十五アリマスルモノ、半額ノ補助ヲ受ケテヤル港灣ノ如キモノモ、何等國家ニ法規モ無イ、其地方ニ於ケル或ハ政黨ノ關係上、其運動ノ威力アルモノニ依ッテ效ヲ奏スルト云フガ如キハ、國家ノ爲ニ甚ダ憂フベキ事デアリマス、即チ法規ヲ設ケテ是ガ統一ヲスルコトハ刻下ノ急務デアルト考ヘマス、之ニ就キマシテハ色ノ意見モアリマスケレドモ、質問ハ是デ打切りマス

カ―ソレデハ他日ニ保留シテ置キマス、詳シク書面ヲ以テ伺ヒタイ

○副議長(小泉又次郎君) 質問第二ハ政府カラ答辯書ガ參ッテ居リマスカラ、日程ヨリ之ヲ省キマス

○作問耕逸君 質問者ノ意見ノ陳述ハ次ノ機會ニ譲ラレテ、此際直ニ議案ノ日程ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 作問君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ其通りニ決シマス、日程第一乃至第三ハ關聯セル議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシニ異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ日程第一、漁業財團抵當法案、日程第二、登錄稅法中改正法律案、日程第三、印紙稅法中改正法律案ヲ一括シテ第一議會ヲ開キマス、政府ノ趣旨辯明ヲ求メマス―堀切政府委員

第一 漁業財團抵當法案(政府提出)

第一議會

漁業財團抵當法案

第一條 漁業權者ハ其ノ登錄シタル貸借權ヲ有スル者、漁業ノ用ニ供スル登記シタル船舶ヲ有スル者又ハ水產物ノ養殖場ヲ有スル者ハ之ニ付抵當權ノ目的ト爲ス爲メ漁業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條 漁業財團ハ左ニ掲クルモノニシテ同一人ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

- 一 漁業權又ハ其ノ登錄シタル貸借權
 - 二 船舶並其ノ屬具及附屬設備
 - 三 土地及工作物
 - 四 地上權及土地若ハ水面ノ使用又ハ引水若ハ排水ニ關スル權利
 - 五 漁具及副漁具
 - 六 機械、器具其ノ他ノ附屬物
 - 七 物ノ賃借權
 - 八 工業所有權
- 前項ノ權利ニシテ其ノ移轉ニ付行政廳

ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ許可又ハ認可ヲ、賃借權ニ付テハ貸與人ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ漁業財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

第三條 漁業權又ハ其ノ登錄シタル貸借權ヲ漁業財團ニ屬スル場合ニ於テハ抵當權ハ其ノ船舶ノ屬具ニ及ブ

前二項ノ規定ハ設定行為ニ別段ノ定アルトキ又ハ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行為ヲ取消スルコトヲ得ル場合ニハ之ヲ適用セス

第四條 漁業權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタルトキハ其ノ處分ヲ爲シタル行政官廳ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セザリシモノト看做ス

前四項ノ規定ハ水產物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アル場合、公益上害アル場合又ハ錯誤ニ依リ漁業ノ免許カ與ヘラレタル場合ニ於ケル漁業免許ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五條 前條第一項ノ規定ハ漁業權ノ登錄シタル貸借權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタル場合ニ之ヲ適用ス

第六條 漁業財團ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ及罰則ヲ除クノ外工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス但シ工

場抵當法第十七條及第四十五條ノ規定ノ準用ニ付テハ漁業權又ハ其ノ登錄シタル貸借權ハ其ノ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃、漁業ノ用ニ供スル登記シタル船舶ハ其ノ船舶港ヲ以テ其ノ所在地ト看做ス

附則

本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二 登錄稅法中改正法律案（政府提出）

登錄稅法中改正法律案

第三條ノ五 漁業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一
三 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

四 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一

五 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金一圓

第十九條第一項第五號中「漁業組合又ハ漁業組合聯合會」ヲ「漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合」ニ、

「產業組合又ハ漁業法」ヲ「產業組合、漁業法、重要輸出品工業組合又ハ輸出組合」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム

第三 印紙稅法中改正法律案（政府提出）

印紙稅法中改正法律案

第四條第十號中「產業組合聯合會」ヲ「產業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要

輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合」ニ改ム

輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○政府委員（堀切善兵衛君） 漁業財團抵當法案提出ノ理由ヲ說明シマス、從來我ガ水産業ニ關シマスル金融ハ甚ダ圓滑ヲ缺イテ居リマス、水産業者ノ被ル不便不利ハ甚ダ多ク、デアリマス、是ガ改善ヲ圖リマスルコトハ斯業ノ發展上誠ニ急務ト致スノデアリマス、惟フニ水産金融ノ圓滑ヲ缺キマスル其事由ハ多クアルベシト雖モ、就中擔保物件ノ他ノ如キ産業ニ比ベマシテ甚ダ貧弱ナルコト、其主要ナル一原因ト見ラレルノデアリマス、仍テ成べく其内容ヲ充實セシメ、以テ漁業上ノ障礙ヲ除キ、其輕減ヲ圖ルハ極メテ緊要ト考ヘマス、殊ニ漁業上ノ主要ナル擔保物件タル漁業權、漁船及水產養殖場等ニ付テハ、其性質上是ト離レベカラザル諸設備、漁具、副漁具、漁舟、其他ノ物件ト共ニ集團の財團トシテ茲ニ初テ十分ナル價值ヲ認メル、デアリマス、又單獨ニテハ擔保物件トシテ適當ナリ是等ノ漁具、副漁具、漁舟等ノ諸設備モ亦斯ノ如クシテ、十分其擔保物件トシテノ價值ヲ發揮スルコトガ出來ルノデアリマス、仍テ之ヲ包括シテ一箇ノ財團トシ、之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲シ得ル途ヲ開クノガ漁業金融改善上極メテ必要ナル方策ナリト考ヘマス、是レ本案ヲ提出シタル所以デアリマスカラ、何卒御協賛ヲ下サランコトヲ切望スル次第デアリマス

○副議長（小泉又次郎君） 早速政府委員（政府委員早速整頓君） 提案ノ理由ヲ簡單ニ說明ヲ致シマス登錄稅法中改正法案、此法案ノ内容ハ只今農商務省ノ政府委員カラ說明ヲセラレマシタル漁業財團抵當法ノ制定ニ伴ヒマシテ、登錄稅法中ノ工場財團、又ハ工業財團等ノ登記ニ準ジテ、漁業財團ノ登記ニ關スル規定ヲ設ケマスルノト、又過日協賛ヲ得マシタル重要輸出品工

業組合、及輸出組合法ニ於キマシテ、組合及聯合會ノ設立事務所ノ施設、又ハ移轉及解散等ノ場合ニハ、ソレノ登記ヲ爲スベキコトヲ規定シテ居リマスガ、是等ノ登記ニ付キマシテハ、產業組合聯合會等ト同様ニ、登錄稅ヲ課セザルコトニ致シタイト考ヘルノデアリマス、何卒御協賛アラシコトヲ希望致シマス、次ニ印紙稅法中改正法律案——是モ洵ニ簡單ナル法案デアリマシテ、是ハ過日御協賛ヲ得マシタル重要輸出品工業組合、及輸出組合法ノ制定ニ伴ヒマシテ、是等ノ組合及聯合會ノ發スル出資證券ニ三錢ノ印紙稅ヲ課スルコトニ致シタイト考ヘルノデアリマス、何卒御協賛ノ上御協賛アラシコトヲ希望致シマス

○副議長（小泉又次郎君） 日程第一ニ對シ質疑ノ通告ガアリマス、高草美代藏君

○高草美代藏君 只今上程ニナリマシタル漁業財團抵當法ニ付キマシテハ、私ハ誠ニ結構ナル案ト存ジマシテ、賛成ヲスル一人デアリマスガ、併シ此案ニ賛成ヲスルト同時ニ私共茲ニ十分ニ御尋ラヌル事ガアルノデアリマス、私ハ頗ル簡單ニ御尋ラヌル三致シタイト考ヘルノデアリマス、御承知ノ通りニ近來食糧問題ガ非常ニヤカマシクナリマシタガ、私ハドウ致シマシテモ日本人ノ主要食物タル米ノ解決ヲ爲スト同時ニ、一方ニ於テハ水產物ノ解決ヲセナレバナラスト云フ議論ヲ始終持テ居ル者デアリマス、而シテ此水產物ハ皆様モ御承知ノ通りニ、其漁獲高ニ於テ、又其漁場ノ範圍ノ廣キ上ニ於テ、或ハ又其營養價值ノ高イ上カラ言ヒマシテモ、或ハ又之ヲ海外ノ貿易ノ上カラ言ヒマシテモ、實ニ我國產物中ノ重大ナルモノト致サナレバナラスノデアリマ

ス、而シテ世界ニ於テ海國ト致シマシテハ、西ニ英吉利アリ東ニ日本アリ、同ジヤウナ海國デアリナガラ、一方英吉利ニ於テハ其航海ノ實ニ旺ナル、其漁業ノ實ニ旺ナル、連モ日本ノ類デハナイノデアリマスガ、我ガ日本ハ水產國デアリナガラ、是ガ發達ノ遅タタル所以ヲ考ヘテ見マスルト、成程水

產物ハ陸上ノ物トハ違ヒマシテ、眼ニ見ルコトガ中々困難デアリ、手ニ取ルコトガ極メテ難事デアリマスルガ故ニ、隨テ調査研究ガ容易ナ事デアリマセヌ、是ガ實ハ水産業ノ發達ヲ妨ゲル所以デアラウト思フノデアリマス、而シテ一方ニ於キマシテハ、英吉利ニハ御承知ノ通りニ諺ガアリマス、英吉利國ハ浪ノ主デアアル（即チ英吉利國ハ波濤ノ主デアアル、波濤ノ主タル者ハ天下ニ主タリ）此信念ヲ持チ、此考ヲ持テ之ヲ教育ニ施シ、之ヲ産業ニ應用シ、之ヲ特色ノ事ニ應用致シマシテ、實ニ斯ウ云フ信念ヲ以テ總テノ水産ニ對シ、航海ニ對シ、水ノ上ノ働ニ對シテ、非常ナ活動ヲ致シテ居ルト云フコトガ、是ガ大體日本ト非常ニ違フ所以下私共考ヘテ居リマス、日本人ハ勇敢ダト言ヒマス、成程勇敢ナ人モアリマス、併ナガラ大抵ノ人ハ海ヲ恐れ、水ヲ恐レル國民性ト云フコトハ——出來ヌカモ知レマセヌケレドモ、確ニ其傾向ハ私ハアルト思フノデアリマス、陸上ニ於テハ恰モ脱兎ノ如ク活動スル人ヲ、之ヲ一タビ海上ニ伴レテ行キマス、恰モ處女ノ如キ狀態デアリマス、是ガ餘程水產物——海ノ上ノ働ヲ阻礙スル一ツノ惡イ癖ト云ヘマスカ何ト云ヒマスカ、サウ云フコトガ原因ニナレバ居ラウト思フ、水産ヲ發達シヤウトスルニハ、要シマスルニ教育方面ト技術ノ方面ト、而シテ經濟的ノ方面ト、此總テノ方面カラ之ヲ研究スル要ガアルノデアリマス、成程教育ノ上カラ申シマス、是ハ中々永遠ナル方法デアリマスケレドモ、ドウシテモ是ハヤラナレバナラス仕事デアリマスガ、只今一番行詰テ居ルノハ何カト云ヒマス、即チ金融デアリマス、金融ガ一番行詰テ居ルノデアリマス、ソレ故ニ吾々ハ先年同志ト共ニ、水産業ニ對シ獨立シタル金融機關ト致シマシテ、水産銀行ノ設立ノ提案致シマシテ、既ニ二度三度モ本院ヲ通過ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、未ダ其實現ノ時機ニ至ラヌト云フコトハ、頗ル吾々共遺憾ト致シテ居リマス、而シテ斯ノ如キ事ガ現在ニ於テマデ出來ヌト云フコトニナリマスレ

バ、已ムヲ得ヌ、今日提案ニナリマシタ所ノ此抵當法案ノ如キハ、是ハ頗ル一方カラ言ヒマスト緊要ナ事ト存ジマス同時ニ、私共ハ茲ニ二三ノ質疑ヲ致シタイト考ヘマス、第一此法案ガ成立致シマシタ曉ニ於キマシテハ、果シテ水産資金ノ圓滿ナル融通ヲ圖ルコトガ出來ルヤ否ヤ、是ガ私ガ政府ニ御尋スル第一條デアリマス、ソレカラ第二ノ質問ト致シマシテハ、水産資金ハ如何ナル銀行ヲシテ之ニ當ラシムル御見込デアアルカドウカ、ソレカラ第三ト致シマシテハ、例ヘバ私ガ第二ニ於テ質問ヲ致シマシタ事ヲ、特殊銀行タル勸業銀行ノ如キデ之ヲ行ハシムルカ、或ハ又農工銀行ノ如キデ是ガ融通ヲサセルカ、斯ウ云フコトニ御意思ガアルト假定ヲ致シマスルト、私ハソレニ付キマシテ段々此特殊銀行ノ中ノ勸業銀行ノ規定ヲ調ベテ見マスルト、隨分水産業者ニ對シテ金融ヲ圖ルコト云フ條項ハ多クアリマス、アリマスルガ併シ今日マデハ實際ニ於テ之ヲ應用シテ居ラス、之ヲ銀行ガ實行シテ居ラヌ、ソレ故ニ此法案ガ通過致シマシテ、斯ノ如キ特殊銀行、或ハ農工銀行其他ニ取扱ハサスコトニ假定ヲ致シマシテ、又是ト同様ナ所謂空文ニ失スルノデハナイカト云フ私共杞憂ヲ懷クノデアリマスガ、此邊ニ付テ政府ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ第四ノ質問ト致シマシテ、御承知ノ通りニ農業者ニ對シテハ耕地整理組合ニ對シマシテ、無擔保貸付ノ制度ガアリマシテ、盛ニ政府ハ之ニ金ヲ融通致シテ居リマス、然ルニ漁業組合ニ對シマシテハ、斯ノ如キ事ハ今日マデハ無イノデアリマスガ、政府ハ此農業者ノ所謂耕地整理組合ニ無擔保貸付ケルト云フヤウナ事ト、同ジヤウナ意味ニ於キマシテ、將來漁業組合ニ對シテモ是ト同様ノ實現ヲサスルト云フ御意思ガ果シテ有ルカ無イカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、ソレカラ第五ト致シマシテハ、一體漁業組合ト云フモノハ法ノ規定ガ極メテ窮屈千萬デアリマス、ソレ故ニ其活動ノ範圍ガ頗ル狹隘デアリマスルカラ、私ハ此漁業組合ノ規定ヲシテ所謂産業化セシ

メ、今少シ經濟化セシムルヤウニ改正ヲセラル、ト云フ御意思ガ有ルカ無イカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、同時ニ第六ノ質問ト致シマシテ、只今ノ此提案ハ頗ル結構ナ案デアアリマスルケレドモ、是ハ吾等ノ考カラ言ヒマス、是ハ消極的ナ方法デアリマスルガ故ニ、今少シ積極的ニ二三度本院デ可決致シマシタル通りニ、水産銀行所謂水産ノ專門ノ銀行ヲ、御立テニナル將來御意思ガ有ルカ無イカト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、以上質問ヲ致シマスルカラ、ドウカ銀行ニ關スル件ハ、幸ニ此處ニ大藏省ノ早速政務次官ガ御出席ニナラテ居リマスルカラシテ、ドウカ同次官カラ御答ヲ願ヒタイト存ジマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 堀切政府委員(議長「議長」ト呼フ者アリ)
○副議長(小泉又次郎君) 堀切政府委員ニ發言ヲ許シマシタ

〔政府委員堀切善兵衛君登壇〕

○政府委員(堀切善兵衛君) 只今高草君カラノ御質問ニ御答申上ダマスルガ、農商務省關係ト致シマシテハ、金融ノ方ノ是ハ借ルル方ヲ主トシテ考慮致シテ居ルノデアリマス、即チ此財團ヲ作テ、而シテ今マデ擔保ニ供スルコトノ出來ナカッタモノモ、今後ハ出來ルヤウニ致サセタイ、此趣意デアリマス、而シテ果シテ之ニ大ニ融通ヲ圖リテ吳レルカドウカ、此點ハ此特殊銀行其他ノ銀行、金融業者ノ責任デアリマス、而シテ之ニ對シマシテハ、只今御質問ノ如ク大藏省ノ政府委員ヨリ御説明申上デルノガ本筋ダラウト思ヒマスルノデ、私ハ深ク之ニ對シテハ、意見ヲ申上ダセメノデアリマス(第一ニ資金ノ圓滿ナル授受ガ此法ニ依リテ出來得ルカドウカ、從來甚ダ不圓滿デアリマシタノガ、此抵當法ノ出來マスルニ依リテヨリ圓滿ニ授受ガ出來ラウ、出來ルニ相違ナイト私共ハ確信シテ此法案ヲ出シタ次第デアリマス、又如何ナル銀行ガ融通ヲスルカ、今日マデノ所專ラ融通ノ任ニ當リテ居リマシタノハ北海道殖産銀行、農工銀行等ガ、或ル程度マデ水産事業ニ對シ融通

ヲ致シテ居タノデアリマス、將來モ恐ラクハ左様デハナイカト思フ、併ナガラ一般ノ銀行或ハ私人ノ金融業者等モ、此財團法ガ成立致シマシタル以上ハ、從來ヨリモヨリ便利ニ金融ノ途ヲ圖リテ吳レルニ相違ナイト信ズルノデアリマス、ソレカラ其次ノ特殊銀行ニ對シテハ、勸業銀行法第十五條、農工銀行法第七條等ニハ、割増金附ニ依リテ得タル金ノ貸付範圍ヲ制限致シテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ此漁業財團抵當法ノ成立ノ上、出來得ルナラバ、此制限ヲ私共ハ擴張致シタイ考デアリマス、是ハ大藏當局トモ目下交渉中ニ屬スルノデアリマス、其御意見等ハ矢張大藏省ノ政府委員ヨリ御説明ヲ申上デル方ガ適當ナリト認メマス、漁業組合法ヲ改正スル意思ハナイカドウカ、從來アリマシタ所ノ組合法ノ總テノ關係ニ於テ、經濟界ノ進歩時代ノ推進ニ伴ヒマシテ、不備ノ點ハ漸次之ヲ改正致スノガ當然デアアラウト考ヘマス、漁業組合法等ニ付テモ政府ハ慎重ニ考慮調査ヲ致シテ居ルノデアリマス、無擔保貸付ハ如何デアアルカ、是ハ第四ノ御質問デアリマシテ、此財團法ニ依リマシテハ、遺憾ナガラ未ダ無擔保貸付ヲ認ムル程度ニ至ラテ居ナイノデアリマス、最後ノ水産銀行ノ件、是ハ左様ナモノガ出來レバ洵ニ結構ト思ヒマスケレドモ、果シテ其成立ヲスルモノガアルヤ否ヤ、之ヲ許シヤ否ヤ等ハ、是亦大藏省所管ニ屬スルノデアリマス、私ノ關係スル範圍ニ於テ簡單ニ御答申シマス

○三善清之君 議長——議長

○副議長(小泉又次郎君) 少シ御待テ下サイ、早速政府委員

〔政府委員早速整爾君登壇〕

○政府委員(早速整爾君) 御尋ニ御答致シマス、此水産業ノ金融ト云フコトニ關シマシテハ、隨分久シイ間ノ問題トナッテ、當局ニ於テモ相當ニ慎重ニ考慮ヲ費シテ居ルノデアリマス、今回此漁業財團ニ關スル法案ガ提出ニナリマシタノモ、即チ水産業者ノ金融上ノ便宜ヲ圖ルト云フ目的カラ起タノデアリマシテ、政府モ之ニ依リテ水産業

者ニ對スル金融ノ便宜ガ益、加ハテ行クト云フコトヲ期待致シテ居ルノデアリマス、唯、水産業ノ性質上、今茲ニ特殊ノ銀行ヲ設ケルカ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、政府ハ未ダ具體的ノ考案ヲ持テ居リマセヌ、今日マデノ經過ニ依リマスレバ、水産銀行ナルモノヲ設ケルト云フヨリモ、現在ニ在ル機關十分ニ利用セシムル方法ヲ講ズルノガ急務デハナイカ、即チ今回ノ此法案ニ依リマシテ、相當便宜ヲ圖ルト云フコトニ相成リマスレバ、現存ノ特殊銀行ヲ利用スルト云フコトニ付テ、相當ノ途ヲ開クコトガ出來ルデアアラウト信ズルノデアリマス、然ラバドウ云フ風ニヤルカト云フコトハ是カラ後ノ問題デアアルノデアリマシテ、特殊銀行ト水産業者ノ間ノ關係ガ密接ニナルニ從ヒ、此金融上ノ便宜ヲ圖ルト云フコトニ付テハ、相當ノ途ヲ開クト云フ必要アルノデアリマスケレドモ、政府ト致シマシテハ御尋ノ如ク、今水産銀行ナルモノ、如キ特殊ノ機關ヲ設ケルト云フ考ハ持シテ居ラヌノデアリマス

○三善清之君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 三善君、何デスカ

○三善清之君 本員ガ政府ニ質問致シマシタル港灣行政統一ノ問題ハ、積年政府ニ於テモ議論ヲシテ居ル問題デアアル、國家通商貿易上ニ於テ重大ナ問題デアリマス、此問題ヲ政府ニ質問シテ、本日第一ノ日程ニ上ラテ居ルニ拘ラズ、政府委員ガ出席ヲシナイト云フコトハ、此質問ニ對シテ甚ダ不埒千萬デアリマス、將來ニ對シテ政府ニ十分ニ警告ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス、甚ダ不都合デアアル

○副議長(小泉又次郎君) 日程第四、右三案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 各案ヲ一括シテ、委員ノ數ヲ九名トシ、議長ヨリ指名セラレンコト

ヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フモノアリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス。日程第五、第六同一議案デアリマスカラ、一括シテ議題ト爲スニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フモノアリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、日程第六、中國鐵道株式會社所屬鐵道及東京電燈株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案ヲ一括シテ、此第一讀會ヲ開キ、政府ノ趣旨辯明ヲ求メマス。一俟政府委員

第五 長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案 (政府提出)

長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案 第一讀會
長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

第六 中國鐵道株式會社所屬鐵道及東京電燈株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案 (政府提出)

中國鐵道株式會社所屬鐵道及東京電燈株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案 第一讀會
中國鐵道株式會社所屬鐵道及東京電燈株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

〔政府委員係孫一君登壇〕

○政府委員(係孫一君) 長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ヲ御說明申上デマス、長州鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ國有鐵道線及長門線ニ相連ナリマシテ、

由陽山陰方面ニ於ケル重要ナル線路デアリマス、小串瀧部間ノ國有線ノ建設ニ伴ヒマシテ、買收シテ運輸ノ統一ヲ圖リマスル必要ガアリマス、然ルニ長州鐵道ノ終點小串瀧部間ハ、本年七月ニ完成開通スルノ運ビニ至リマスノデ、茲ニ長州鐵道買收スルノ必要ニ迫ラレタリマス、仍テ是ガ買收費ニ充ツル爲ニ、公債ヲ發行スル所ノ法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ中國鐵道株式會社及東京電燈株式會社所屬鐵道ノ補償ニ關スル件ノ御說明ヲ申上デマス、中國鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ開始ニ伴ヒマシテ、之ニ接近並行ノ關係ニ在ルノデアリマス、隨テ此運輸營業ニ依テ大ナル打撃ヲ受ケテ、營業ヲ繼續スルコトハ能ハザルニ至リタノデアリマス、又省線ノ瀧川沼田間ノ運輸ヲ開始致シマスニ伴ヒマシテ、又之ト並行ノ關係ニ在ル東京電燈株式會社所屬鐵道買收ノ已ムヲ得ザルニ至リタノデアリマス、仍テ法規ニ基キマシテ之ガ補償ヲ爲ス爲ニ、公債發行ノ法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、ドウゾ御審議ノ上協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス。高草美代藏君

〔高草美代藏君登壇〕
○高草美代藏君 私人中國鐵道株式會社ニ對シマシテ質問致シタイト考ヘルノデアリマス、頗ル簡單デアリマス、中國鐵道株式會社ハ、備前ノ岡山市カラ作州津山ノ間ニ敷設致シタル鐵道デアリマシテ、御承知ノ通り津山ハ岡山市ニ於テハ岡山市ニ亞グノ第二ノ都會地デアリマシテ、此都會地ト都會地ヲ通ジテ居ル鐵道デアリマスルガ故ニ、岡山市ニ取テモ極メテ重要ナル線デアリマス、同時ニ只今吾等致シテ居リマスル所ノ政府ノ伯美線、三津線、因美線、斯ノ如キ線ハ既ニ著手セラレテ居リマシテ、ザウシテ最モ之ガ陰陽ヲ聯絡致シマスル重要ナル線

デアリマス、又近ク何レ著手ニナリマセウカ、津山姫路間ノ所謂姫津線モ亦近キ將來ニ於テ出來ルノデアリマシテ、此外四國ノ連絡モ之ニ關聯致シマスル極メテ重要ナル鐵道デアリマスルガ故ニ、産業ノ上カラ言ヒマシテモ必要デアリ、又殊ニ四國並ニ山陰山陽ヲ連絡致シマスカラシテ所謂軍事上ノ關係カラ言ヒマシテモ頗ル重要ナル鐵道デアリマス、此意味ニ於キマシテ、先年既ニ二回モ本院ニ於テ滿場一致決可決ヲ致シマシテ、此中國鐵道ヲ政府ガ買收スルト云フ所ノ案ガ可決セラレタノデアリマス、政府ハ今日何故斯ノ如キ重要ニシテ、而モ本院ニ於テ二回マデモ全會一致決可決致シマシタルニモ拘ラス、此中國鐵道ノ全線ヲ買收シナイノデアリマセウカ、尤モ買收スル御意思ハアツテモ、財政其他ノ關係デ未ダ其時機ニ達セヌト云フ御意思デアリマス、此點ニ付キマシテ御審議シタイト思ヒマス、ドウカ明確ナル御答辯ヲ煩シタイト思ヒマス

○副議長(小泉又次郎君) 俟政府委員

〔政府委員係孫一君登壇〕

○政府委員(係孫一君) 只今御話ノ中國鐵道全線ニ互ル所ノ買收ノ問題ハ、成程以前ヨリ色々議會ノ問題ニナツテ居リマシタノデアリマス、是ハ目下直ニ其全線ノ買收ヲスルト云フベキ、マダ時機ニ當局者ノ調査ガ至ツテ居リマセス、只今此提案シマシタモノハ、省線ノ營業上其營業ヲ繼續スル能ハザル所ノ、最モ已ムヲ得ザルモノダケヲ買收スルト云フコトニシテ提案ヲ致シタノデアリマス、其他ノ中國鐵道全線ノ問題ニ付キマシテハ特ニ研究ヲシタ上デ、將來ニ於テ相當ノ考慮ヲ致ス外アリマセス

○副議長(小泉又次郎君) 井出繁三郎君

〔井出繁三郎君登壇〕

○井出繁三郎君 私人極ク簡單ニ此九州鐵道買收法案ニ付テ、政府當局ニ二御尋ヲシテ見タイト思フノデゴザイマス、諸君モ既ニ御承知ノ如ク、此國有鐵道ノ當時除外サレタ所ノ十五鐵道買收ノ事ニ付キマシテハ、本院ニ於テ殆ド滿場一致ヲ以テ買收ス

ベシトノ建議案ガ可決セラレタノハ、四十幾議會デゴザイマシタカ既ニ諸君ノ御承知ノ事ト存ジマス、殊ニ只今中國鐵道ノ事ニ付キマシテ、高草君カラモ御話ノアル通り、中國鐵道ヲ至急買收スルヤウニ單獨ノ建議案モ可決セラレタノデゴザイマス、此十五鐵道ノ中成田、中越ト云フモノハ其後ニ買收セラレマシタカラ、殘ル所ノ十三鐵道ガ今日未ダ買收セラレズニ居ル次第デアリマス、御承知ノ如ク本院ガ滿場一致ヲ以テ可決セラレマシタ其建議案、ソレヲ除外シタ所ノ長州鐵道、是ハ十三鐵道ニ這入テ居リマセス、其長州鐵道ヲ何故ニ今日買收セネバナラヌカト云フコトハ、是ハ一ツ只今俟政府委員カラノ御說明ニ依ルト、長州鐵道ノ終點カラ近ク國有鐵道ガ開業スルニ付キマシテ、之ヲ連絡スル上ニ於テ之ヲ買收セネバナラヌト云フ御說明デアッタヤウニ思ヒマス、然ラバ此十三鐵道ノ中ノ水戸鐵道、只今申上デタ中國鐵道、ソレカラモウ一ツ此十三鐵道以外デゴザイマス、ケレドモ陸奥鐵道、是等ハ今同一ノ狀態ニ在ルノデゴザイマス、今日長州鐵道ヲ買收スルナラバ、同時ニ買收スル必要ガアラウト思ヒマス、デ今申上デタヤウニ、長州鐵道ノ終點カラ近ク國有鐵道ガ開業スト云フコトデ、之ヲ買收スル、或ハ又此國有鐵道ノ建築材料デモ運搬スルト云フ必要ガゴザイマスナラバ、益、同一狀態ニ在ル陸奥鐵道、水戸鐵道、中國鐵道ト云フモノハ今日之ヲ急遽ニ買收セネバナラヌコト、信ジマス、若シ又此直通通轉ガ出來ナイ、國有鐵道ガ開業シテモ、長州鐵道ト直通運轉ガ出來ナイト云フコトノ理由ヲ以テ之ヲ買收スルト云フナラバ、之ヲ法規ノ命ズル所ニ依テ、會社ヲシテ此改良工事ヲ施行セシムルト云フコトガ出來得ルノデアリマス、果シテ鐵道當局ガ會社ニ斯ノ如キ事ヲ交渉シタカト云フコトヲ承リタイ、若シ又交渉シナイト、云フナラバ、速ニ會社ニ交渉シテ、會社ヲシテ此改良工事ヲ施行セシメテ、直通運轉ヲ爲サシムルト云フコトガ最モ當得タ話デアアルマイカ、而シテ少額ト雖モ

現政府が公債發行ト云フコトヲ非常ニ御嫌
デアルナラバ、假令百萬圓二百萬圓ノ少額
ノ公債デモ、斯ノ如ク不必要ナ場合ニ於テ
發行シテ、此鐵道ト云フモノヲ買収セバ
ナラス必要ハ無イダラウト思フ、此點ニ對
シテ鐵道當局ニ明瞭ニ御答ヲ願ヒタウゴザ
イマス

○副議長(小泉又次郎君) 俵政務次官

○政府委員(俵孫一君) 井出君ノ御尋ハ、

此際最も重要ナル地方鐵道ヲ何故ニ買収シ
ナイカ、斯ウ云フ事デアリマスルガ、先刻
中國鐵道ノ買収ノ御尋ニ對シテ御答申シマ
シタ通りニ、此際一番ノ重要ナル地方鐵道
ヲ買収スル問題ハ、是ハ財源ノ關係上其他
ノ關係上驚ト考慮シテ、後日ニ於テ更ニ是
ガ考慮ヲ運ラスノ外ナイノデアリマス、然
ラバ何故ニ此長州鐵道ヲ買収シタカ、斯ウ
云フコトデアリマスルガ、是ハ先刻申シマ
シタ通りニ、此線ハ省線ト連絡シタ重要ナ
連絡線デアリマス、ノミナラズ只今モ井出
君ガ御話ノ通りニ、此長州鐵道ト云フ現在
ノ線路ノ狀態ガ甚ダ不完備デアリマス、其
不完備ノ例ヲ申シマスト云フト、例ハ巴軌
條ガ甚ダ小サイ、其他「ホーム」ノ高サガ非
常ニ低イ、斯ウ云フ風ナ關係カラシテ、省
線トノ直通運轉ガ出來マセヌノデアリマ
ス、ソレハ直通運轉ガ出來ヌデモ構ハヌデ
ハナイカト云フコトデアリマスルガ、直通
運轉ガ出來ヌトナリマスルト云フト、荷物
モ旅客モ悉ク其線ニ入ルト乗換ヘナケレバ
ナラヌト、斯ウ云フ不便ガアリマス、是ハ
旅客ノ不便ハ姑ク措キマシテ、貨物ノ點ニ
關シマス、甚シク積換ノ失費ヲ要スルト
云フコトガ、其地方ノ經濟上甚ダ不便ニ陷
ルト云フコトニナツテ來ルノデアリマス、然
ラバ之ヲ會社ヲシテ改良セシメタラ宜イデ
ヤナイカト云フコトデアリマスルガ、是ハ若
シ會社ニ之ヲ今日改良ヲ命ズルト云フト、
命ズル途モ無論アリマス、アリマスガ、此
際會社ガ改良ヲシタ所ノ其金額ハ、後日更
ニ何レノ時カ之ヲ買収シナケレバナラス、
其買収スル際ニ於テ甚シク經濟上不利ニ陷

ルノデアリマス、ソレ故ニ寧ろ會社ニ命ジ
テ是ガ改良ニ當ラシムルヨリハ、國家目ラ
之ニ當シテ、後日ノ買収費ノ甚シキ不經濟
ニ陷ル前ニ、此際寧ろ買収シテ、之ニ對ス
ル所ノ方法ヲ執ツタ方ガ、鐵道經濟上有利
デアラウト云フ見地カラ、此際買収スルト
云フコトニ致シタ譯デアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 日程第七、右議

案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト

致シマス

第七 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員

ノ選舉

○井本常作君 各案ヲ一括シテ、清水留三

郎君外四名提出、大間々長野原間鐵道建設

ニ關スル建議案外十一件ノ委員ニ併セ付託

セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ

御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決

シマシタ、日程第八、大正十二年度豫備金

支出ノ件外七件ノ承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト

致シ、政府ノ趣旨辯明ヲ求メマス——早速

政府委員

大正十二年度第一豫備金

支出ノ件

大正十二年度特別會計第

一豫備金支出ノ件

大正十三年二月及三月中

豫備金外ニ於テ豫算超過

及豫算外支出ノ件

大正十三年三月中特別會

計豫備金外ニ於テ豫算超

過及豫算外支出ノ件

大正十三年度第二豫備金

支出ノ件

大正十三年度豫備金外ニ

於テ豫算外支出ノ件

大正十三年度特別會計第

二豫備金支出ノ件

大正十三年度特別會計豫

備金外ニ於テ豫算外支出

ノ件

於ケル一般會計第一豫備金支出、特別會計
第一豫備金支出、大正十三年二月及三月
中豫備金外支出、特別會計豫備金外支出、
大正十三年ニ於ケル一般會計第二豫備金及
豫備金外支出、特別會計第二豫備金及豫備
金外支出ニ關スル事後承諾ヲ求ムル爲メ、
茲ニ此案ヲ提出致シマシタルニ付キマシ
テ、其大體ノ説明ヲ致サウト思ヒマス、大正
十二年度一般會計第一豫備金ノ豫算額ハ六
百萬圓デアリマス、大正十二年勅令第三
百二十二號ニ依リ補充致シマシタル主ナル事
項ハ國際聯盟事務局費分擔金、傳染病豫防
費補助、市町村交付金、刑務所收容費、染料
及火藥爆發原料製造獎勵金等デアリマス
テ、何レモ必要缺クベカラザル豫算ノ不足
ニ對シテ充用シタルモノデアリマス、其總
額ハ六百萬圓デアリマス、又朝鮮總督府其
他ノ特別會計ニ於テキマシテモ、各其第一
豫備金ヲ以テ豫算超過ノ支出ヲ爲シタルモ
ノガアリマス、次ニ大正十三年一月三十一
日、第四十八帝國議會ガ解散セラレマシ
タル結果、大正十二年度内ニ於テキマシテ支
出ヲ要スル費途ニ對シ、政府ハ已ムヲ得ズ
同年二月及三月中一般會計ニ於テ、歲計剩
餘金及公債金ノ繰入ヲ以テ、豫算超過及豫
算外ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、其
事項ノ主ナルモノハ外務省所管ノ電信料、
ソレカラ警察費、連帶支辨金、復興局經費
軍事費補足、衆議院議員臨時總選舉檢察費、
震災ニ因リ貸付金及復興事業費補助等デ
アリマス、其總額ハ三千六百六十四萬四千八
百二十二圓デアリマス、特別會計ニ於テキマシ
テモ、其歲計剩餘金或ハ歲入金ヲ以テ、豫
算超過及豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノガア
リマス、大正十三年度ニ於ケル一般會計第
二豫備金ノ施行豫算額ハ八百萬圓、追加豫
算額ハ三百萬圓、合計千一萬圓デアリマシ
テ、國際阿片會議參列費、橫濱港復興費、
臨時警察費、主力艦解體諸費、其他各省所
管ニ互ル震災、火災、風水害等ニ因ル廳舍、
官舎、其他ノ復舊費等ノ緊急已ムヲ得ザル
費途ニ對シ、豫算外ニ支出ヲ爲シタル總額
ハ千五百五十五萬三千三百五十五圓デアリマス、一

般會計第二豫備金、施行豫算拂切リトナリ、
追加豫算ノ成立ヲ俟ツ能ハザルガ爲メ、政
府ハ已ムヲ得ズ歲計剩餘金ヲ以テ豫算外ノ
支出ヲ爲シタルモノガアリマス、其事項ノ
主ナルモノハ國際勞働會議參列費、第四十
三潛水艦救難費、大學及學校圖書館費其他
ノ補助保險會社出捐助成金、米國渡航援助
費及各省所管ニ互ル職工解僱特別手當、
震災、火災、風水害ニ因ル復舊費等ガアリ
マシテ、其總額ハ九千四百七十七萬四千八百
二圓デアリマス、尚ホ右ノ外各特別會計ニ
於テキマシテモ、第二豫備金及豫備金外ニ於
テ其歲計剩餘金、或ハ歲入金ヲ以テ豫算外
ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、茲ニ
ハ其説明ヲ省略シマス、以上十分御審議
ノ上承諾ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス
(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 日程第九、右八

案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト

致シマス

第九 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員

ノ選舉

○井本常作君 本案ハ委員ノ數ヲ特ニ十八

名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望

ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ

御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決

シマシタ

○作間耕逸君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 作間耕逸君

○作間耕逸君 議事日程變更ニ關スル緊急

動議ヲ提出致シマス、即チ政府提出行政整

理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等

ニ交付スル公債發行ニ關スル法律案、並ニ

同ジク政府提出、船舶無線電信施設法案ヲ

此際特ニ逐次上程シテ議題ト爲シ、前者ニ

付テハ其第一讀會、後者ニ付テハ其第一讀

會ノ續ヲ各、開カレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成(ト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ

御異議ナイト認メマス、仍テ日程ハ變更セ

月ノ經常費ニ依テ、日本ノ海岸ニ三十箇所ノ方向探知機ノ設備ヲ出來ルノデアアル、我國ニ於テハ仁川ニ一箇所アルノミデアアル、故ニ政府ハ無線電信法ヲ船舶ニ強要スル以上ハ、此僅カノ金額ニ依テ出來ル「デレクション・フラインダー」ノ設備ヲ敢テスル御意思ナキヤ否ヤト云フコトガ第一ノ質問デアリマス、ソレカラ第二、即チ無線電信ノ技術デアリマス、無線電信ノ技術ハ、御承知ノ通り中學ヲ卒業スルカ卒業シナイカノ人ガ、僅ニ一箇年カ一箇年半電信協會ニ於テ養成サレテ、是ガ最高學府タル東京商船學校卒業生ノ殆ド倍額ノ給料ヲ取テ居ルノデアリマス、即チ非常ニ人員ガ缺乏シテ居ル、而モ諸般等ニ於テハ船舶經濟ヨリ算盤ヲ採テ、即チ運轉士、機關士等ニ此無線電信技術ヲ兼任セシメテ居ル、我國ニ於テモ此無線電信ニ依ル費用ヲ節約スルガ爲ニ、今後商船學校ニ於テ運轉士若クハ機關士ヲ養成スルニ當テ、五箇年半ノ課程デアリマスカラシテ、此五箇年半ノ課程中ニ於テ此位ノ養成ハ出來ルト思フ、即チ無線電信技術ノ養成ヲ今後商船學校ニ依頼シテ、運轉並ニ機關ノ技術ト共ニ研究セシムル御意思ハナイカト云フノガ第二問デアリマス、ソレカラ施行期日ノ點デアリマスガ、只今委員長ノ報告デハ、政府ハ一箇年後ニ施行セシムル御意思ト御言明ニナクサウデアリマスガ、只今マデ此無線電信技術ハ非常ニ缺乏シ、漸ク昨今需要供給ガ相一致シヤウナ次第デ、殊ニドナラカト申セバ粗製濫造ノ傾ガアツタノデアリマス、仍テ政府ハ此無線電信技術ノ優秀ナル者ヲ送ル爲ニ、且ツ殊ニ船舶界ハ不況ノ下底ニ在ル今日デアリマス、且ツ船舶ハ世界中ヲ航海シ、假令一千噸位ノ船舶モ、印度等ニ長ク航海シテ居ルモノモアリマスカラ、一概ニ無線電信ヲ何時々マデニ附ケト云フテモ、中々之ヲ附ケルコトガ出來ナイノデアリマス、現ニ東京ニ於テ電話電信ト申シテモ、政府ガ御自身デオヤリニナル電信電話デモ、中々容易ニ其設備ガ出來ナイコトニ政府自ラモ思フ運ラサ

レマシテ、之ニ對シテ二箇年位ノ餘格ヲ以テ完備スル御決心ハナイノデアリマスカ、即チ完備スルマデニ二箇年ノ餘格ヲ與ヘル御意思ハ無イノデアリマスカ、此三ツニ付テ御答ヲ願ヒマス

○副議長(小泉又次郎君) 犬養進信大臣(國務大臣犬養教君登壇) 第一ノ御尋ノ方向探知ノ設備デアリマス、是ハ通信省ニ於キマシテモ全ク御同感デアリマス、政府モ是ハ設ケナクテバナラヌト思フ、ソレ故ニ財政ノ許ス範圍ニ於テ、出來ルダケ早ク之ヲ設ケタイト存ジテ居リマス、全ク御同感デゴザイマス、ソレ故ニ第一ノ御問ニ對シマシテハ全ク内田君ト同ジ考デアリマス、通信省ハ成タケ早ク此設備ヲ、財政ノ許ス限リ最モ急イデ之ヲ造リタイト存ジテ居リマス、ソレカラ燈臺ノ事ヲ附ケテ御問デアリマシタガ、燈臺モ御承知ノ通り實ニ不完全デアアル、毎年通信省ハ是ガ増加ノ計畫ヲ立テマシテ度々計畫致シマシタガ、何時モ財政逼迫ノ爲ニ延ビタニナシテ居ルノデアリマス、是モ財政ノ許ス限リ最モ早ク造リタイト考ヘテ居リマス、全ク是モ同感デアリマス、第二ノ商船學校ヲ卒業スルマデニ無線電信ノ技術ヲ教ヘル、無論是デ出來スルリマシテ、通信省ノ試験ニ應ジテ合格スルダケノ者デアレバ、何時デモ是ハ許スノデアリマス、商船學校デモ矢張之ヲ教ヘナケレバナラヌト云フコトニナシテ、ソレニ若手スルサウデアリマスガ、勿論合格スル者ガ段々出來テ參ラウト存ジマス、是モ合格シサヘスレバ、通信省ハ其成タケ多イコトヲ希望致スノデアリマス、ソレカラ只今ノ法案デハ、御承知ノ通り早クモ一箇年後ト云フコトデアリマスガ、ソレヲ二箇年後マデニ延ベヌカト云フ御求メデアリマスガ、是ハ尙ホ十分考慮致シマシテ、實際ニ支障ノ無イ、差支ノ無イヤウニ出來ルダケノコトヲ考ヘテ見マス、是ダケヲ御答致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ガナイト認マヌ、依テ本案ハ第二議會ヲ開クニ決シマシタ

○作間耕逸君 直ニ第二議會ヲ開キ、第三議會ヲ省略シテ委員長ノ報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ御異議ガナイト認マヌ、依テ直ニ第二議會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

船舶無線電信施設法案 第二議會(確定議)

○副議長(小泉又次郎君) 別ニ御發議モナイヤウデアリマス、第三議會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ——先刻後廻シニスルト宣告致シマシタル日程ヲ議題ト致シ政府ノ趣旨辯明ヲ求メマス——早速整備爾君

行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一議會

行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律案

今日ノ行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官若ハ退職シタル者、休職ヲ命セラレタル者、現役ヲ退カシメタル者、解職若ハ解備セラレタル者等ニ特別ノ獎金又ハ手當トシテ交付スル爲政府ハ額面五千萬圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員早速整備爾君登壇) 議題トナリマシタル、行政整理又ハ軍備整理ニ際シ、退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律案ニ付キマシテ、簡單ニ説明ヲ致シマス、今回政府ガ行政整理又ハ軍備整理ヲ致シタニ付キマシテハ、短期間ニ多數ノ退

官、退職者ヲ生ズル次第デアリマス、而シテ今日一般經濟界不況ノ時機ニ際致シマシテ、是等多數ノ人々ガ一時ニ其職ヲ去リマスニ付キマシテハ、之ニ適當ノ待遇ヲ與ヘルコトノ必要ナルハ申サマデモナイコトト考ヘマシテ、先例ニモ鑑ミ、退官退職者等ニ對シテソレ——特別ノ獎金又ハ手當ヲ支給スルコトニ計畫致シマシタ、此特別ノ獎金又ハ手當ハ財政計畫上、其一部ヲ除クノ外ハ公債ヲ以テ交付スルコトニ致シマシタ、之ヲ時價ニ依リ換算致シマスレバ、總額約五千萬圓ノ公債ノ發行ヲ要スルコト、ナルノデアリマス、仍テ此公債發行ニ關スル法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉案ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉案ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニハ御異議ガナイト認マヌ、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○作間耕逸君 更ニ議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ日程第二十六以下ノ諸願特別報告ヲ此際特ニ繰上ゲテ一括シテ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

(賛成) 賛成ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニハ御異議ガナイト認マヌ、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第三十六乃至四十七ハ諸願特別報告ナルニ依リ、一括シテ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——長田桃藏君

第二十六(特別報告第一三四號)舊龍野藩祿米不足分ニ關スル諸願

(委員長報告)

官報號外 大正十四年三月十一日 衆議院議事速記第二十五號 船舶無線電信施設法案 第二議會(確定議) 日程變更ノ緊急動議

五九五

第二十七 (特別報告第一一三七號) 谷川神社創建ノ請願 (委員長報告)

第二十八 (特別報告第一一三八號) 福母村神社八幡宮昇格ノ請願 (委員長報告)

第二十九 (特別報告第一一三九號) 宮崎神宮別宮狹野神社分立並昇格ノ請願 (委員長報告)

第三十 (特別報告第一一四〇號) 畜犬緊留、飲口並野犬撲殺ニ關スル請願 (委員長報告)

第三十一 (特別報告第一一四一號) 明治記念國立大公園設立ノ請願 (委員長報告)

第三十二 (特別報告第一一四二號) 石狩川三橋架設ノ請願 (委員長報告)

第三十三 (特別報告第一一四三號) 根室郡二種馬所設置ノ請願 (委員長報告)

第三十四 (特別報告第一一四四號) 和郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第三十五 (特別報告第一一四五號) 東下村波崎ニ特設電話開通ノ請願 (委員長報告)

第三十六 (特別報告第一一四六號) 藤澤村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十七 (特別報告第一一四七號) 神戶村ニ無集配三等郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十八 (特別報告第一一四八號) 中愛別三等郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十九 (特別報告第一一四九號) 中津井郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十 (特別報告第一一五〇號) 朝鮮辯護士資格付與ノ請願 (委員長報告)

第四十一 (特別報告第一一五一號) 新十津川村ニ登記所新設ノ請願 (委員長報告)

第四十二 (特別報告第一一五二號) 常呂村ニ網走區裁判所出張所設置ノ請願 (委員長報告)

第四十三 (特別報告第一一五三號) 大間鐵道速成ノ請願 (委員長報告)

第四十四 (特別報告第一一五四號) 地下道開鑿ノ請願 (委員長報告)

第四十五 (特別報告第一一五五號) 邊

別、美瑛驛間ニ停車場新設ノ請願 (委員長報告)

第四十六 (特別報告第一一五六號) 龍内村大字古川所在鐵道跨線橋設置ノ請願 (委員長報告)

第四十七 (特別報告第一一五七號) 津山東町ニ停車場設置ノ請願 (委員長報告)

請願特別報告第一三四號 (委員長報告)

意見書

請願文書表第三三七號

舊龍野藩祿米不足分ニ關スル請願

兵庫縣保保郡龍野町龍野ノ二十五番地森田桂藏外四名呈出 (紹介議員員土井權大君)

右請願ノ要旨ハ兵庫縣保保郡龍野藩ハ大正四年四月秩祿ニ關スル法律發布ニ基キ各藩同時ニ祿米不足分下賜相成度旨大藏省ニ數願中ナルモ出願以來七箇年ノ今日未タ其ノ恩典ニ浴セズ依テ舊龍野藩祿米不足分ヲ速ニ下賜セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一三七號

意見書

請願文書表第四六五號

谷川神社創設ノ請願 三重縣安濃郡新町大字古河四百六十四番地商富田謹三外二名呈出 (紹介議員小室光雄君)

右請願ノ要旨ハ贈從四位谷川士清大人ハ寶永六年伊勢國安濃郡新町ニ生レ夙ニ垂加神道ヲ究明シ國史國語ニ精通シタルヲ以テ日本書紀通證和訓栞等ノ大著述ニ依リテ一世ヲ裨益シタルノミナラス常ニ勤王ノ志厚ク國體ヲ闡明シテ尊王ノ大義ヲ高唱シ永ヘニ皇道ヲ恢宏セリ先年畏クモ御贈位アリテ天恩枯骨ニ及フ然ルニ斯ル大人ノ爲國家ハ未タ一祠ヲモ遺立セズ國民崇敬ノ實ヲ舉ケサルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ依テ政府ハ速ニ國幣ヲ供進シテ其ノ靈ヲ祀セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一三八號

意見書

請願文書表第四九〇號

福母村神社八幡宮昇格ノ請願 佐賀縣福母郡大町村大字福母二千九百九十五番地士族官吏中尾彦呈出 (紹介議員西英太郎君外一名)

右請願ノ要旨ハ佐賀縣福母郡大町村大字福母村神社八幡宮ハ景行天皇御自ラ筑紫熊襲ノ餘類タル肥前高來郡ノ土蜘蛛及肥前杵島郡嬬子山ノ八十女ヲ討平アラセラレタル御禮歟トシテ 國常立尊始メ五神ヲ敬祭アラセラレシヨリ由緒極メテ深ク鎌倉幕府及鍋島藩府ノ崇敬社ト爲リ明治維新ノ際村社ニ列セラレ以テ今日ニ及ヘリ而シテ同社ハ時價一万七千餘圓ニ該當スル社產アリテ神職ノ俸給其ノ他祭典費等ノ不足ヲ來スコトナキノ狀況ニ在ルヲ以テ氏子ヲシテ益神威ヲ崇敬セシムル爲速ニ郷社ニ昇格セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一三九號

意見書

請願文書表第五〇六號

宮崎縣宮崎郡宮崎神社分立並昇格ノ請願 宮崎縣宮崎郡宮崎神社小林町長赤木通茂外二十三名呈出 (紹介議員陣軍吉君外一名)

右請願ノ要旨ハ宮崎縣宮崎郡宮崎神社ハ神武天皇御降誕ノ靈蹟ニシテ宮崎縣西諸郡高原村ニ鎮座シ 孝昭天皇御宇ノ御造營ニ係リ歷代天皇ノ崇敬篤ク明治六年縣社ニ列セラレタリト雖斯ノ如キ由緒深キ御靈蹟モ僅ニ別宮トシテ縣社ノ社格ニ過キサルハ御神靈ニ對シ誠ニ恐懼ニ堪ヘサルコトコナルヲ以テ速ニ宮崎神社ヨリ分立セラレ更ニ官幣社ニ列セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一四〇號

意見書

請願文書表第四五六號

畜犬緊留、飲口並野犬撲殺ニ關スル請願 東京府豐多摩郡野方町上沼

袋二十五番地醫師吉植精逸外十四名呈出 (紹介議員吉植庄一郎君外一名)

右請願ノ要旨ハ現在畜犬並野犬ニ關スル規則ハ全國統一ノモノナク各府縣ニ於テ區々ニ分レ其ノ取締極メテ不完全ナル爲東京府ノ如キハ狂犬病ノ被害者日々十數人ヲ算スルノ狀態ナリ然ルニ歐米諸國ノ如キ其ノ取締極メテ嚴ナル爲殆ト狂犬病等ノ被害者ヲ見ス依テ我が國ニ於テモ畜犬ノ緊留飲口並野犬撲殺ニ關シ速ニ適當ナル取締方法ヲ講セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一四二號

意見書

請願文書表第四九七號

明治記念國立大公園設立ノ請願 長岡市觀光院町九百七十五番地野本恭八郎呈出 (紹介議員山田又司君外一名)

右請願ノ要旨ハ明治天皇ノ聖德鴻業ヲ永遠ニ奉頌セムカ爲富士山ヲ中心トシ其ノ周圍數十里ニ亘レル山水ノ自然ヲ失ハサル範圍ニ於テ人工ヲ施シ以テ地上ノ最大樂園タル明治記念國立大公園ヲ設立セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一四四號

意見書

請願文書表第五三二號

石狩川ニ橋梁架設ノ請願 北海道樺戸郡月形村公吏植松通外二百二十三名呈出 (紹介議員松實喜代太君外三名)

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡月形村ハ石狩川ノ流域ニ在リテ農耕地二千五百二十九町步各種生産年額八十萬圓ヲ算シ今後農耕地トシテ開拓スヘキモノ優ニ三千町步ヲ有スルモ交通不便ニシテ最寄函館本線峯延驛ハ四里石狩川ニ既設セラレタル橋梁ハ上下共八里乃至九里ノ遠距離ニシテ物資ノ搬出ハ主トシテ渡船ニ依ルノ

他ナシ然ルニ當地住民ノ生活並生産ニ要スル物資ハ對岸トノ交通ニ據リ供給ノ目

請願特別報告第一四七號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道根室國ハ原野廣闊、滋草豐富、夏涼冬暖實ニ天與ノ畜產地タル條件ヲ具備ス然トモ莫ニ官設牧場ヲ拂下

採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一四八號

意見書

和郵便局ニ集配事務開始ノ請願 北海道雨龍郡北龍村和農長江半右衛門

右請願ノ要旨ハ北海道雨龍郡北龍村和郵便局ハ大正五年十一月設置セラレタルモ未タ集配事務ノ取扱ナキ爲郵便物ハ留船

得サル所ナリ依テ速ニ前記和郵便局ニ集

配事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一四九號

意見書

東下村波崎ニ特設電話開通ノ請願 茨城縣鹿島郡東下村波崎漁業條塚安次良外百二十名呈出

右請願ノ要旨ハ茨城縣鹿島郡東下村波崎ハ縣下樞要ノ漁業地ニシテ其ノ年産額百二十萬圓ニ達シ藤表ノ製造亦盛ニシテ年

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五〇號

意見書

右請願ノ要旨ハ埼玉縣人間郡藤澤村ハ所澤町、豐岡町ノ中間ニ近ク停車場モ新設セラレムトシ且織物及製茶業盛ナルノミナラス農産物ノ産額亦頗ル増加シ村勢ノ發展著シキモノアルニ拘ラス通信機關ノ不備ナルハ誠ニ遺憾ナリ依テ前記藤澤村ニ無集配郵便局ヲ設置セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五一號

意見書

右請願ノ要旨ハ岡山縣上房郡中津井地方ハ近時産業交通教育其ノ他百般ノ施設發達シタルニ拘ラス郵便集配事務ハ未タ皆部郵便局ノ管ニ屬スル爲通信上村民ノ蒙ル不便甚大ナリ依テ中津井村、中井村ヲ中津井郵便局ノ管轄ト爲シ速ニ同局ニ集配事務ヲ開始セラレタシト謂フニ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五二號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五三號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

在リ衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五四號

意見書

朝鮮辯護士資格付與ノ請願 清南道公洲郡公洲面本町三百五十四番地外山喜右衛門外一名呈出

右請願ノ要旨ハ請願人等ハ朝鮮統監府施政時代ヨリ十數年來引續キ一事件毎ニ裁判所ノ許可ヲ受ケ彼ノ理事官ノ許可ヲ受ケタル訴訟代理業者ト均シク朝鮮ノ訴訟事務ニ從事シ來レリ然ルニ訴訟代理業者ニ對シテハ大正八年制令第十三號ヲ以テ朝鮮辯護士資格ヲ付與セラレタルニ拘ラス其ノ性行學力、實績ニ於テ何等後者ト差等ナキ請願人等ニ對シテ其ノ資格ヲ付與セラレサルハ失當ノ處置ナリ信ス依テ前記請願人等ニ對シテモ適當ナル方法ニ依リ朝鮮辯護士資格ヲ付與セラレタシト願フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五五號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五六號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五七號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五八號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五九號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一六〇號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一六一號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一六二號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一六三號

意見書

右請願ノ要旨ハ北海道樺戸郡新十津川村ハ石狩川ノ右岸ニ位シ東西十一里南北六里人口一万三千九百餘ノ一大農村ニシテ大正十二年度ニ於テ新十津川村ノ登記申請ハ實ニ二千八百餘件ヲ算シ然ルニ該村ノ管轄區裁判所龍川出張所ハ石狩川ノ隔テ一里半乃至九里半ノ遠距離ニシテ村民ノ不便甚大ナリ依テ新十津川村ノ中央部ニ岩見澤裁判所新十津川出張所ヲ新設セラレタシト謂フニ在リ

採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五六號

意見書

請願文書表第四八七號

當呂村ニ網走區裁判所出張所設置ノ請願 北海道常呂郡常呂村大字常呂村東一線十七番地農務西淺吉外百名呈出(紹介議員小池仁郎君)

右請願ノ要旨ハ北海道常呂郡常呂村ハ農耕地三千三百七十餘町歩生産年額約七十萬圓ニ及ヒ産業ノ前途益隆盛ニ嚮ヒツツアルモ交通不便ニシテ殊ニ冬季間ハ暴風雪等ノ爲交通杜絶スルコトアリテ住民ノ不便尠カラズ加之新開地ノ特微トシテ住民ノ來往經濟的變調激シク登記事件ノ如キ夥シキ多數ニ上リツツアルニ拘ラス所管登記所遠隔ナル爲地方民ノ不利甚ナナルモノアリ依テ廳舎並附屬建物ハ之ヲ寄附スヘキニ付常呂村內ニ網走區裁判所出張所ヲ設置シ以テ北海道開發ニ資セラレタシト謂フニ在リ

請願特別報告第一五七號

意見書

請願文書表第四六三號

大間鐵道速成ノ請願 青森縣下北郡田名部町大字田名部二百四番戸商河野榮藏外五十六名呈出(紹介議員小泉辰之助君)

右請願ノ要旨ハ青森縣下北郡大間港ハ北海道函館港僅ニ二十哩以内ノ近距離ニ在リテ兩港ノ交通ヲ完全ナラシムルコトハ北海道本州間ノ連絡上最モ緊要ナルノミナラス産業ノ振興並國防上ノ見地ヨリモ亦必要缺クヘカラサルモノナリ依テ其ノ目的ヲ達スル爲東北線田名部驛ヨリ大間港ニ至ル鐵道確立線ヲ速ニ敷設セラレタシト謂フニ在リ

請願特別報告第一五八號

意見書

請願文書表第四六六號

地下道開鑿ノ請願 神奈川縣足柄下郡上府中村長神野作十郎外三名呈出(紹介議員平川松太郎君外一名)

右請願ノ要旨ハ東海道線下曾我驛北方構内ノ線路ヲ橫斷スル村道ハ該停車場以西數箇村ニ通スル主要ナル道路ナルモ大正十一年五月下曾我驛新設ノ際地上ケノ爲平地ヨリ約十五尺ノ高地トナリ一般通行人ノ危險多ク且車馬ノ通行困難トナリ殊ニ貨車ノ停車長時間ニ亙ル時ハ交通全ク杜絶ノ狀態ニテ現在ハ幸ウシテ迂迴路ニ依リ其ノ便ヲ完ウスルモ其ノ不便ナルコト言フ俟タサルナリ依テ該驛北方構内ニ地下道ヲ開鑿シ以テ地方民ノ便ニ備ヘラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一五九號

意見書

請願文書表第四六八號

邊別、美瑛驛間ニ停車場新設ノ請願 北海道上川郡神樂村西御料地宇邊別東一番通第三十七號農大西定吉外九名呈出(紹介議員淺川浩君外一名)

右請願ノ要旨ハ石狩國上川郡神樂村御料地ハ沿道物資ノ集散地トシテ近年産業著シク發展シタルモ最寄停車場遠キ爲地方民ノ不利不便甚大ナリ殊ニ附近ノ山林ニハ木材、鑛物等ヲ無盡ニ藏スルモ空シク放任スルノ現狀ナルハ實ニ遺憾ナリ依テ之カ富源ヲ開發シ以テ産業ノ振興ヲ期セムカ爲邊別、美瑛驛間ニ停車場ヲ新設セラレタク向停車場敷地建築費等ハ寄附スヘキニ依リ速ニ之ヲ實現セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一六二號

意見書

請願文書表第四九二號

瀧内村大字古川所在鐵道跨線橋存置ノ請願 青森縣東津輕郡油川町長西田源藏外九名呈出(紹介議員工藤鐵男君)

右請願ノ要旨ハ青森縣東津輕郡瀧内村大

宇古川ハ舊松前道ノ要路ニ當リ現在東北本線及奥羽鐵道ハ此ノ松前道ヲ橫斷スルカ爲當局ニ於テハ此ノ橫斷點ニ踏切ヲ設ケテ危險ヲ防止シ通行人馬ノ安全ヲ計ラレタリ然レモ隣接町村ノ産業發展シ物資ノ運搬益繁劇ヲ加フルニ至リ當局モ危險ヲ慮リ踏切ヲ他ニ移シ同時ニ該踏切ハ廢止セラレタリ是ニ於テ從來ノ踏切通行者ハ新道迂迴ノ煩瑣ヲ厭ヒ時間ノ經濟上危險ヲ顯ルノ迫ナク鐵道構内ヲ橫斷スル者續出シ一層ノ危險ニ陥リ構内ノ取締不可能ト爲リタリ故ニ鐵道當局モ大ニ鑑ミルトコロアリ大正五年現在ノ跨線橋ヲ架シ交通ノ安全ヲ計リタルヲ以テ關係沿道ハ八箇年ヲ經過セル今日非常ナル發展ヲ遂ケタリ然レモ今同青森驛操車「ヤード」新設ノ關係上本跨線橋ハ廢止ノ運命ニ在リト聞クモ上磯地方各町村ト青森市トノ交通ハ頗ル煩瑣ヲ極メ新縣道一路ノミニ依ルコト能ハス現在舊縣道及該跨線橋ニ依リ僅ニ人馬ノ往來ヲ調節シ來リタルモ之カ廢止セラレムカ人馬往來調節ノ機能ハ減却セラレ同地ヨリ青森市ニ至ルニハ八十二町迂迴ノ餘儀ナキニ至リ殊ニ冬季風雪ノ場合又ハ暴風雨等ノ際ニハ其ノ困難時間ノ浪費莫大ニシテ住民ノ不便ハ勿論沿道民モ廢業ノ止ムナキニ至リ實ニ該地方ノ死活問題タルヘシ依テ當局ニ於テ現在ノ古川跨線橋ヲ存置セラレ以テ地方發展ト交通圓滑トヲ期セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

請願特別報告第一六三號

意見書

請願文書表第五二二號

津山東町ニ停車場設置ノ請願 岡山縣古田郡津山東町長千田勇外一名呈出(紹介議員土居通憲君)

右請願ノ要旨ハ岡山縣古田郡津山東町ハ作備線津山驛ノ東部ニ接シテ縣道ニ沿ヒ交通ノ要衝ニ當リ近年人口ノ増加ニ伴ヒ生産工業著シク發達シ停車場ノ新設セラレムコトハ地方民ノ切望スルコトナリ依テ因美線鳥取津山間鐵道工事ニ着手セラルトキハ前記津山東町ニ停車場ヲ設置セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

(長田桃藏君登壇)

○長田桃藏君 只今一括議題トナリマシタ請願特別報告二十二件、是ハ請願委員會ニ於テ慎重審議致シマシタ結果、全部採擇スルコトニ決定ヲ致シマシタ、其委員會ノ內容ハ例ニ依リマシテ委員會會議錄ニ讓リ、茲ニ報告スルコトヲ省キマス、適當ナル御審議ヲ請ヒマス

○作間耕逸君 委員長報告ノ請願特別報告ハ、一括シテ共ニ採擇セラレントヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍チ一括致シテ採擇致シマス、總テ委員長報告ノ通り採擇スルコトニ決シマシタ(拍手)日程第十、治安警察法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者山口政二君

第十 治安警察法中改正法律案(山口政二君外二名提出) 第一讀會

治安警察法中改正法律案

治安警察法中左ノ通改正ス

第五條第五號ヲ削リ第六號ヲ第五號ニ第七號ヲ第六號ニ改ム

(山口政二君登壇)

○山口政二君 只今議題トナッテ居リマスル治安警察法中改正法律案ニ付キマシテ、是ガ提案ノ趣旨ヲ辯明致シマス提案ノ要旨ハ極メテ簡單デアリマス、治安警察法第五條第一項、即チ政治上ノ結社ニ加入スルコトノ出來ナイ者ノ中カラ女子ヲ除キマシテ、女子ニ對シ政治結社加入ノ自由ヲ得セシメタイト云フデアリマス、抑モ治安警察法中特ニ女子ニ關スル規定ノ改正法律案ハ、屢、本院ニ提出セラレタノデアリマス、即チ同法第五條第二項中、女子ノ部分ヲ削リマシテ、女子ニ對シテ公衆ヲ會同スル政談集合ニ會同シ、若ハ其發起人タルコトヲ得セシメタイト云フ趣旨ノ改正案ハ、遠ク第二十三議會ニ提案セ

ラレ、而モ本院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、其後同趣旨ノ改正案ハ、第四十五議會ニ於キマシテ遂ニ兩院ヲ通過シタノデアリマス、試ニ第四十四議會ノ同案特別委員長ノ報告ノ一節ヲ朗讀致シテ見マスルト云フト、治安警察法第五條第二項ノ一部ヲ削除シテ、女子ヲシテ政談集會ニ會同シ、若クハ其發起人タルコトヲ得セシムルハ、要スルニ今日女子ノ教育ガ大ニ進歩發達ヲ致シマシテ、男子ト政テ大ナル差異ガナイヤウニ至ッタノデアアル、隨テ又女子ニ對シテモ政治上ノ諒解ヲ得セシメルト云フコトハ立憲治下ノ國民トシテ必要デアアル、斯様ナ趣旨カラシテ此「女子及」ト云フ文字ヲ削テ、女子ニ對シテ開放ヲシヤウト云フ趣旨デアルノデアリマス、即チ此解禁ト申シマスノハ、女子ニ對シマスル政治的ノ一進歩ナリト云フコトハ明ニ申スコトガ出來ルノデゴザイマシテ、曉テ是ガ女子ニ對シテ參政權ヲ認メマスル所ノ出發點ト相成ルモノデアリマス、ト斯ウ言ウテ居ルノデアリマス、而シテ本案ト同一内容ヲ有スル議案ノ本院ニ初メテ出マシタノハ第四十二議會ト心得テ居リマス、爾來舊國民黨ノ諸君ハ、殆ド毎議會ニ同一内容ノ議案ヲ本院ニ提出シテ居ルノデアリマスルガ、不幸ニシテ未ダ一回モ通過致サナカッタノデアリマス、其理由トスル所ハ只今引用シマシタ、第四十四議會ノ委員長ノ報告ニ依ッテ見マスルト、大略斯ウ云フコトニナッテ居リマス、即チ「成程女子ノ教育ハ今日大ニ進歩發達シテ居ルニハ相違ナイ、併ナガラ未ダ男子ト同一ノ取扱ヲ受クルマデニ進歩シテ居ルト認メルコトガ出來ナイ、加之女子ニ對シテハ女子ノ本分ガツレ」有ルノデアアル、良妻賢母ト致シマシテ、家事ヲ料理シテ男子ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムヘキ天職ト云フモノガ女子ニハ有ルノデアリマス、徒ニ男子ト轡ヲ聯ベテ、政治上ニ狂奔スルト云フコトハ國家ノ幸福デモナイ、又一家ノ利益ト云フコトモ出來ナイノデアアル、隨テ女子ガ今日政治上ノ結社ニ加入スルコトハマダ其時機デナカラウ、ト言ウテ居ル

ノデアリマス、併ナガラ諸君、本案提案ノ趣旨ハ女子ヲシテ政治上男子ト角逐セシメルトカ、又ハ轡ヲ並ベテ男子ト狂奔セシメルト云フヤウナモノデアアリマセヌ、苟モ政治即チ國民生活デアアル以上、議會ノ豫算案デアルトカ、又法律案デアルトカハ、總テ是レ國民ノ竈ト密接ナル關係ガアルノデアリマスカラ、眞ニ賢母タリ良妻タルガ爲ニハ、徒ニ夫ヲ天ト仰ギ、返ス々々モ背クヘカラズト云フダケデハ宜シクナイ、宜シク進ンデ男子ト共ニ政治上ノ理解ヲ十分ニ持ッテ云フコトデナケレバナラヌト信ジマス（拍手）、尙ホ之ヲ女子本來ノ立場カラ考ヘテ見マシテモ、或ハ女子ノ社會上ノ地位ヲ高メルトカ、法律制度上ノ地位ヲ改善スルトカ、或ハ又女子特有ノ社會問題、別シテ女子ノ勞働問題、職業問題ヲ解決スルトカ、一轉シテ女子教育問題ヲ研究スル等、女子自カラ眞劍ニ考ヘナケレバナラヌ幾多ノ問題ガ山積シテ居ルノデアリマス、固ヨリ是等ノ問題ハ國家ノ施設ト男子ノ協力トニ依ッテ解決セベキコトハ申スデモナイノデアリマス、然レドモ、併ナガラ同時ニ女子自ラノ政治的自覺ニ俟ツベキモノ甚ダ多シト信ズルノデアリマス、左様ナ譯デアリマスカラ、女子ニ對シテ政治結社加入ノ自由ヲ認メシムルト云フコトハ、女子ヲシテ濫ニ空理政談ニ耽ラシメルトカ、或ハ家事ヲ忘レテ政界ニ狂奔セシムルト云フ爲デハナクテ、寧ロ家庭ニ入ッテハ眞ニ賢母タリ良妻タルガ爲ニ、又社會ニ出マシテハ堅實ナ教養アル婦人タル爲ニ、専ラ政治上ノ理解ヲ得セシメヤウト云フ趣旨デアリマス、今ヤ國民ノ多年望ンデ止マナカッタ普通選舉法ノ實現モ近ク眼ノ前ニ在リマス、又既ニ申上ダマシタ通り女子ニ對スル第一ノ門戸ハ、第四十五議會ニ於テ開カレタノデアリマス、此時ニ方リマシテ女子ニ對シ、右様ノ趣旨ヲ以テマシテ第二ノ門戸ヲ開放スルト云フコトハ、恐ラクハ賢明ナル諸君ノ御賛成ヲ吝マレザル所デアリマセウ、願クハ諸君慎重御審議ヲ賜ハリマシテ、本案ヲシテ是非トモ成立セシメマスヤウ御協賛

ヲ仰グ次第デアリマス（拍手）
○井本常作君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレムコトヲ望ミマス
○副議長（小泉又次郎君） 井本君ノ動機ハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十一及第十二ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長（小泉又次郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ延期ヲ許可スルコトニ決シマシタ、日程第十三、北海道農地特別處理法案ノ第一讀會ヲ開キ、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——東武君
第十三 北海道農地特別處理法案（東武君外十一名提出） 第一讀會
北海道農地特別處理法案
第一條 北海道地方費ハ北海道拓殖ノ爲自作農業者ヲ扶植シ土地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ私人ノ所有スル土地ヲ買收シ三十年以内ノ年賦支拂方法ニ依リ之カ賣拂ヲ爲スコトヲ得
第二條 本法ニ依リ買收スル土地ノ代金ニ充ツル爲北海道地方費ハ總額一億萬圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコトヲ得
第三條 本條ニ依リ處理スヘキ土地ノ選定買收價格土地ノ整理改良又ハ賣拂等ハ農地特別處理委員會ニ付議シテ之ヲ決定ス
農地特別處理委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 本法ニ依リ賣拂ヲ爲ス土地ノ面積ハ一戸十五町步以内トス
第五條 本法ニ依ル土地ノ買受人ノ資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六條 土地ノ買受人カ土地代金ノ一割以上ノ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ所有權ヲ取得ス但シ殘額支拂ノ擔保トシテ該土地ニ抵當權ヲ設定スヘシ
第七條 土地ノ買受人カ買受條件ニ違反シタルトキ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ直ニ土地ヲ返還セシメ又ハ土地代金ノ殘額ヲ一時ニ支拂ハシムルコトヲ得
第八條 土地買受人ハ買受代金ノ金額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ其ノ土地ヲ他人ニ貸付又ハ讓渡スルコトヲ得ス但シ行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 本法ニ依ル土地ノ買收及賣拂ニ付テハ印紙稅及登録稅ヲ免除ス
第十條 政府ハ本法ニ依リ買收スル土地代金ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ北海道地方費ニ補給スルコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔東武君登壇〕
○東武君 只今上程ニナリマシタ北海道農地特別處理法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ極メテ簡單ニ説明スル考デアリマス、併シ此問題ハ議員提出ノ法律案ト致シマシテ、可ナリ重要ナ問題ト考ヘテ居ルノデアリマスガ、極ク簡單ニ申上ダゲル積リデアリマスカ、十分間位ノ時間ハドウシテモ御願申サナケレバ其趣旨ヲ述ベルコトガ出來ナイノデアリマス、此案ハ北海道農地處理法案ト云フ極メテ妙ナ名前ニナッテ居リマスルガ、一言ニシテ申シマスレバ、北海道ニ自作農制ノ法案ヲ施行致シタイ、斯ウ云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、而シテ此法案ハ四十五議會以來我黨ノ議員ヨリシテ三回許リ議會ニ提出致シマシテ、本院ハ可決ヲ致シテ居ル、唯モ名前ガ地代農地法、地代農地法ト稱シタコトモアリマスルシ、或ハ自作農制ト稱シタコトモアリマスルノデアリマスカ、今回提出シタル此特別處理法ト云フノト異股同體デアアルノデアリマシテ、内容ハ同ジクナッテ居ルノデアリマス、自作農ノ維持創定ニ付キマシテハ我國ニ自作農ヲ創定シヤウト云フコトハ、殆ド農界ヲ通ジテノ識者間ニ於ケル確定的ノ議論デアアル、議論デアアルガ、今日マデ未ダ曾テ我國ノ自作農

シタルトキ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ直ニ土地ヲ返還セシメ又ハ土地代金ノ殘額ヲ一時ニ支拂ハシムルコトヲ得
第八條 土地買受人ハ買受代金ノ金額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ其ノ土地ヲ他人ニ貸付又ハ讓渡スルコトヲ得ス但シ行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 本法ニ依ル土地ノ買收及賣拂ニ付テハ印紙稅及登録稅ヲ免除ス
第十條 政府ハ本法ニ依リ買收スル土地代金ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ北海道地方費ニ補給スルコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔東武君登壇〕
○東武君 只今上程ニナリマシタ北海道農地特別處理法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ極メテ簡單ニ説明スル考デアリマス、併シ此問題ハ議員提出ノ法律案ト致シマシテ、可ナリ重要ナ問題ト考ヘテ居ルノデアリマスガ、極ク簡單ニ申上ダゲル積リデアリマスカ、十分間位ノ時間ハドウシテモ御願申サナケレバ其趣旨ヲ述ベルコトガ出來ナイノデアリマス、此案ハ北海道農地處理法案ト云フ極メテ妙ナ名前ニナッテ居リマスルガ、一言ニシテ申シマスレバ、北海道ニ自作農制ノ法案ヲ施行致シタイ、斯ウ云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、而シテ此法案ハ四十五議會以來我黨ノ議員ヨリシテ三回許リ議會ニ提出致シマシテ、本院ハ可決ヲ致シテ居ル、唯モ名前ガ地代農地法、地代農地法ト稱シタコトモアリマスルシ、或ハ自作農制ト稱シタコトモアリマスルノデアリマスカ、今回提出シタル此特別處理法ト云フノト異股同體デアアルノデアリマシテ、内容ハ同ジクナッテ居ルノデアリマス、自作農ノ維持創定ニ付キマシテハ我國ニ自作農ヲ創定シヤウト云フコトハ、殆ド農界ヲ通ジテノ識者間ニ於ケル確定的ノ議論デアアル、議論デアアルガ、今日マデ未ダ曾テ我國ノ自作農

ノ制定案ヲ實行スル機運ニマデ到達シナイ
ト云フコトハ、我が農業界ノ爲メ、農業社
會ノ爲ニ甚ダ遺憾ヲ禁ズル能ハザルモノガ
アルノデアリマス、我國ノ自作農ノ維持創
定ニ付キマシテハ、屢々學者或ハ論客ニ依
テ議論ヲサレテ居ルノデアリマスガ、我國
ノ自作農ハ近年遽減ヲ致シテ居ルコトハ諸
君御承知ノ通りデアリマス、大正元年ヨリ
大正九年マデノ間ニ、我國ノ自作農ノ減少
シタコトハ約九萬戸ニ達シテ居ル年々一萬
戸以上ノ自作農ト云フモノガ減少シ、其影
ヲ失ヒツ、アルト云フ事實デアアルノデア
リマス、是等ノ事實ハ之ヲ我國ノ社會的現象
トシテ如何ニ見ルカト云ヒマスレバ、是ハ
吾々ハ國家ノ大患デアルト實ハ考ヘテ居ル
ノデアリマス、丁度大正元年ニハ「パーセ
ンターデ」カラ申シマスレバ三二四四デア
リマシタモノガ、大正九年ニハ三二四四デ
アセント、六八マデニ遽減致シテ居ルノデア
リマス、戸數ハ即チ百七十萬戸ノモノガ、
大正九年ニハ百六十八萬戸トナリテ居ルト
云フヤウナ減少率ヲ示シテ居ルノデアリマ
ス、若シ私共ガ卒直ニ申シマスレバ――
國家ノ大體ノ國策カラ申シマスレバ、
此我國ノ自作農制ト云フ、吾等ガ今提案
シタ法案ヲ日本全國ニ行ヒタイト云フ考
ヲ持テ居ル、ケレドモ、此事ハ非常ナ
勇斷ヲ以テ、雄大ナル政策ヲ行フニ非ズン
バハ、是ハ容易ニ行フコトハ出來ナイ、農
商務省ノ當局者ヲ調査ニ依リマスレバ、
四十五機關ノ金ヲ以テ、百六十五年間ニ日
本ノ全部ノ小作農ヲ無クスルト云フ調
査ガ出來テ居ルコトヲ吾々ハ承テ居ルノ
デアリ、是ハ諸君モ御存ジノ如ク、斯様ナ
自作農制定ト云フ案ガ出來テモ、百年河清
ト云ヒマスレドモ、百年河清以上ノ永遠
ヲ期サナケレバ此ノ理想ハ實現スルコトハ
出來ナイノデアリマス、ソコデ吾々ガ色々
考ヘタ結果ニ依リマシテ、兎ニ角日本ニ於
テ自作農ノ此制定ト云フコトハ、朝野ノ國
論ニナツテ居リマスガ、先ツ此前提テ致シ
マシテ、之ヲ最も行ヒ易イ所ノ北海道ニ之
ヲ行ヒタイ、斯様ナ案ガ即チ今回吾々ガ提

案シタル所ノ此特別處理法案ノ内容デア
ルノデアリマス、何故ニ北海道ニ此事ヲ行
ハ實現シ易イカト申シマスルト、此自作農
制定ニ反對スル所ノ論者ハ、内地府縣デ
ヤラウト致シマシテモ地價ガ高イ、田畑
ノ地價ガ高イカラシテ、ドウシテモ是ハ内
地府縣ニ行ナツテモ、小作人ガ年賦償還ノ
方法ニ依テ之ヲ完全ニ所有權ヲ移轉ヲス
ルト云フコトニ付テハ、多大ノ負擔ガ重ク
ナルカラシテ出來ナイ、斯ウ云フノデア
リマス、即チ勸業銀行ナドノ調査ニ依リマ
スルト、内地ノ田ノ一段歩ノ價ガ六百二十圓
細ガ一段歩ノ價ガ三百六十圓ト云フコト
ガ、是ガ普通ノ地價ニナツテ居ル、之ヲ國
家ガ買上ヲシテ分割ヲシテモ、小作人ハ到
底此小作料以上ノ負擔ヲシナケレバ出來ナ
イト云フノデ、是ハ到底不能デアアル、斯様
ナ議論ニ依テ自作農制定ト云フモノニ反
對サレテ居ル、然レテ北海道ト如何カト考
ヘテ見マシタル、北海道ノ田畑ハ勸業銀行
ノ調査ニ依リマスルト百二十圓、サウシテ
畑ハ三十圓デアアル、又北海道ニハ非常ニ大
地主ガ多イノデアリマス、日本ノ五十町
歩以上ノ大地積ノ所有者ガ總計三千二百二
十軒アルノデアリマスガ、其内ニ北海道ハ
約三分ノ一、即チ一千六十軒ト云フモノハ
北海道ガ此大地積ヲ持テ居ル所ノ大地主
ガ占有シテ居ルト云フ、斯様ナ事實ニナ
チ居ルノデアリマス、故ニ北海道ニ自作農
制ヲ布クト云フコトハ、サマデノ苦痛ガナ
クシテ、非常ナ自作農ニナル、小作者ノ負
擔ガ増加セズシテ、自ラ之ヲ自作農ニスル
コトガ出來ル見込ガ立ツノデアアル、是ニ於
テ北海道ハ百二十町歩許リノ小作面積ガ
アリマスガ、此内ニデス、今農家ガ幾アル
カト申シマスルト十七萬戸アル、十七萬七
千三百五十戸ト云フモノニナツテ居リマス
ガ、是ガ小作人ト地主、大地積ヲ持テ居
ル地主ト小作人トドウ云フ比例ニナツテ居
ルカト申シマスルト、自作者ノ百分率ノ三
十七ト云フモノハ自作者デアツテ、アトハ
自作兼小作、純小作ガ六十二「パーセント」
即チ約七割ノ小作人ガ北海道ノ地面ヲ耕作

シテ居ルト云フコトノ現狀ニナツテ居ルノ
デアリマス、北海道ニ移住ヲ獎勵シテ――
國家ハ色々保護特典ヲ與ヘテ北海道ニ移
住ヲ獎勵シテ、其行ク者ハ自分ノ墳墓ノ
地ヲ捨テ、北海道ニ移テ悉ク是ガ小作人
ニナルト云フコトハ、如何ニシテモ社會狀
態トシテ甚ダ感服シナイ、此制度ノ誤、テ
居ルコトハ既住ノ大地主ヲ保護シ、或ハ家
族保護ニ依テ土地ノ占領ヲサシタト云フ
コトヲ、其制度ノ宜シカラザルト云フコト
ハ、今日カラ是ハ非難ヲスレバ相當ノ議論
ガアリマスケレドモ、非難ヲシテ見テモ是ハ
到底何ノ役ニモ立タナイ狀況デアアルノデア
リマス、是ハ小作者ガ七割以上ヲ占メ
テ、此土地ノ非常ニ多イ所ニ於テ、七割
以上ノ小作人デ、サウシテ土地ニ安定ヲ
シ、土著シテ生産能力ヲ増加スルト云フコ
トハ、到底是ハ不能ナ事實デアアル、故ニ吾
等ハ北海道ノ此廣キ面積ニ於テ、墳墓ノ地
ヲ遠ク移住シタル所ノ農家ノ全體ガ、約七割
ハ小作人デアアルト云フヤウナコトハ、眞ニ
北方開發、北海道開發ノ眞ノ事情トシテ
ハ、甚ダ不満足ノ點ヲ免レヌモノト考ヘ
テ居ルノデアアル、此自作農制ヲ北海道ニ行
クト云フコトハ、一見非常ナ理想或ハ空想
ノ如ク見エマスレドモ、決シテ吾々ハ左
様ニハ考ヘテ居ラナイ、此事ニ付キマシテ
ハ人間ハ――此故國ニ生レタ人間ハ何人ニ
テモ土地ヲ所有スル所ノ權利ヲ持ツト云フ
コトハ、是ハ丁抹ノ偉人ガ既ニ此事ハ唱ヘ
テ居ツテ、此丁抹デハ獨立農ノ獎勵ト云フ
コトニ依リマシテ、今日ノ世界ノ獨立農
業模範國ヲ作り出シテ居ルノデアリマス、
又英國ノ農政學者「アトサーヤンク」ハ即
チ所有權ハ如何ナル砂礫モ黃金ニ爲セルト
云フコトハ、是ハ千古ノ金言デアアル、小作
人ニ於テ土地ヲ改良シ、或ハ開發シテ眞ニ
生産ノ能率ヲ上ゲルト云フコトハ、是ハ求
メルコトハ出來ナイ、デアアルカラシテ此點
ニ於テ此所有權ヲ與ヘ、所有慾ヲ満足セシ
メ、又所有慾ノ満足スルト同時ニ、其生産
ハ必ズ倍加シテ參ツテ、此食糧政策ノ上ニ於
テモ多大ノ貢獻ガアルト云フコトハ、是ハ

疑ナイ事實デアアル、故ニ歐羅巴各國、亞米
利加大洲、其他ニ於キマシテモ世界全國ヲ
通ジテ、自作農制定ノ爲ニ國家ガ色々保
護政策ヲ執ラヌ國ハ無イノデアアル、英國ニ
於キマシテハ諸君御承知ノ通り、英國ニ小
地主條例ト云フモノガアリマス、是等ニ付
テ矢張大キナ土地ヲ分利シテ、或ハ牧場デ
アルトカ、狩獵地デアルトカ、或ハ貴族ノ
所有地デアルト云フヤウナモノヲ開放シ
テ、サウシテ「スモールゼンガム」ト云フ
此小作條例ニ依テ英國ガ此農業復興ヲ圖
テ居ルト云フコトモ是モ事實デアアル、又獨
逸ノ如キハ內國植民ト稱シテ、殆ド今ヨリ
五六百年前カラシテ此制度ヲ行テ居ルノ
デアアル、南獨逸カラ北獨逸ヲ開發シテ、內
國植民ト稱シテ之ヲ獨逸ガ多年ヤツテ成績
ヲ擧ゲテ居ツタ、此農業立國ノ基礎ヲ作シ
テ居ルト云フコトモ、是モ顯著ナル事實デア
ル、又獨逸ノ是ハ私ハ能ク存ジマセヌガ、
「レンテンギユーター」ト稱シテ、地代農地
ト稱シテ古クカラ此法制ヲ行ツテ、土地ヲ
分割又讓與致シテ、サウシテ自作農制度ヲ
行ツテ居ル、又亞米利加ノ如キ此大キナ面
積ヲ持ツテ、日本ノ十倍以上ノ大面積ヲ持
テ居ル所ノ亞米利加ニ於テスラ――一個ノ
單位ノ面積ハ、殆ド亞米利加ハ日本ト違
テ、日本ハ一町一反歩デアアルガ、亞米利加
ハ五十町以上ノ單位デアアル、斯ウ云フ大キ
ナ面積ヲ持テ居ル亞米利加デスラ、是デ
モ矢張各州ニ於キマシテ自作農制定ノ上ニ
於テ國家ガ保護政策ヲ執リ、之ニ就テ種々
ナ法制ヲ以テ矢張今日行ヒツ、アル、又丁
抹ノ事ハ是ハ申スニ及バズ、丁抹ハ國ヲ舉
ゲテ、即チ國家ノ國策ト致シテ、サウシテ
此自作農制定、所謂獨立ノ保護ニ付テハ徹
底的ニヤツテ居ル、此丁抹ハ國ヲ舉ゲテ國
策ノ力ヲアラン限リヲ舉ゲテ大地主ノ分割
ヲシ、サウシテ貴族或ハ其他ノ大面積ヲ分
割致シテ、サウシテ建築家屋或ハ土地ノ買
收費ニ、日本ノ邦貨ニ致シマスルト二萬圓
以上ノモノヲ、一個ノ單位ニ貸付ヲ致シ
テ、之ヲ自作農ニ引直シテ居ルト云フ、之
ニ依テ世界ニ丁抹ノ如ク農業ノ眞ニ發達

シタル國ハ無イト云フコトニナッテ居ルコトハ諸君御承知ノ通りデアル、又澳洲、新西蘭、是等ノ方面デス様ナ大キナ面積ヲ持ッテ、一方哩ニ僅ニ二六七八人シカナヤウナ所ニ於テスラモ、此制度ヲ行ヒツアル、日本ハ今農業ガ行ツタト稱スルガ、農業ノ行ツタ眞ノ原因ハ何處ニ在ルカト言ヘバ、或ハ企業ノ上ニ於テ一ツノ企業ヲ個人ガ單位デヤツテモ、其利益ノ收支ガ合ハスト云フノガ普通ノ狀態デアル、況ヤ農業ハ收支ノ計算ガ合ハナイモノデアル、其單位デヤツタ企業ニ對シテ、其利益ヲ地主ト小作デ兩分スルト云フノデアルカラシテ、到底農業ノ計算ガ合フ譯ガナイ、故ニ小作爭議ガ起リテ來ル、利益ヲ一人デ取ツテモ尙ホ十分ニ收益ノ満足ヲスルコトガ出來ナイ者ガ地主ニ半分ヤル、勞働スル者ガ地主ニ他代利益ヲ拂ッテ行クノデアルカラ、到底日本ノ如キ此島國、帶ノヤウナ長イ火山國、土地ノ面積ノ少イ國デ立行ク譯ハナイ、故ニ永遠ノ策ヲシテ種々ナル方法ヲ講ジナケレバナラスガ、差當リ此國策トシテ自作農制定ノ案ヲ作ルコトハ、國家ノ國本トシテハ諸君ト共ニ大ニ研究スル價ガアルモノデアルト吾々考ヘテ居ルノデアル、故ニ吾々ハ、先ヅ取敢ヘズ北海道ニ此自作農制定ノ方針ヲ立テ、サウシテ著々日本ノ本州ニ於テモ之ヲ實現ヲ致シタイ、世界各國ノ農業趨勢ヲ見マシテモ、斯様ナル日本ノ如ク五十年モ十年モ議論ヲシテ議論倒レニナッテ居ル國ハ何處ニモ無イ、各國皆行ッテ居ルノデアルカラ、我國ニ於キマシテモ是等ノ點ニ付テハ政府當局者モ、少シク遠眼達識ニ依ッテ國策ヲ考ヘル必要ガアルト吾々ハ考ヘテ居ル、又其意味ニ於キマシテ我國ニ其自作農ノ制定ヲシテ、幾分デモ農業經濟ノ上ニ農業社會政策ノ上ニ、農業文化ノ上ニ、勞働問題、人口問題、食糧問題ト云フモノハ是ヨリ出發シテ是等ノ解決ヲ見ナケレバナラヌコト、考ヘテ居ルノデアル、故ニ吾々ハ此法案ヲ提出シタノデアリマスガ、此北海道ノ農地、所謂自作農制定ニ對シテハ、之ヲ國家ニ要

求シテモ——國家ガ之ヲ五千萬圓乃至一億萬圓ノ金ヲ國家ニ出セト言フテモ出シヤウガナイ、故ニ主體ハ國家ニ要求セズシテ、北海道ガ主體トナッテハハヤル案デアル、北海道ガ主體トナッテドウ云フコトヲスルカト云ヘバ、是ハ金ハ要シナイ唯、北海道ガ道債ヲ起セバ——北海道ノ法人ニ依ッテ道債ヲ起ス、道ガ公債ヲ發行シテ、サウシテ地主ノ不良土地、所謂未開ノ土地ヲ諸リ任意ニ買収ヲ致シテ、サウシテ買収ニ應ジタ者ニ對シテハ、諸リ此北海道債ヲ交付スルノデアルカラシテ、金ハ要ラナイ、何ニモ金ハ要ラナイ、此案ハ一億萬圓デ約三十萬町歩許リヲ開放スルト云フ案ニナッテ居ルノデアリマスガ、是ハ一億萬圓デアツテモ、一億萬圓ヲ一年ヤ二年デヤルコトガ出來ナイ、二十箇年ニ亘ッテ之ヲヤルコト云フノデアルカラシテ、年々五萬萬圓カ乃至三萬萬圓カノ公債ヲ北海道ガ發行致シ、其發行シタ其公債ヲ地主ニ渡シテヤツテ、サウシテ地主ハ其公債ヲ受取ルト同時ニ利子ヲ受取ル、小作人ハドウデアルカト云ヘバ、又一割ノ益金ヲ出セバ速ニ抵當權ヲ設定スル所ノ權能ヲ與ヘテ、サウシテ地主ハ小作人ニ所有權ヲ渡シテシマフ、サウスル紙ノ上ノ取引ガ行ハレル、紙ノ上ノ取引デアツテ現金ヲ要シナイ、唯、北海道ガ公債ヲ募集スルコトサヘ出來レバ、此仕事ハ出來テ行クノデアラ、唯、茲ニ吾々ガ此法案ヲ提出シタニ付テ、國家ニ要求スル點ガ一ツアル、是ダケノ事業ハ國家事業デアル、國家ガ當面ヤルベキモノヲ北海道ノ法人ガヤルノデアルカラシテ、之ニ對スル公債ノ金額ニ付テ五分ノ補給ヲシテ呉レ、斯ウ云フ案ニナッテ居ル、五歩ノ補給ヲスレバドレダケノ金ガ要ルカト申シマス、是モ五歩ノ補給デハ大シタ金ハ要セナイ、唯、初年ニハ十萬圓、ソレカラ十五萬圓、二十萬圓ト云フダケノモノデアツテ、此發行價格ニ對シテモ五歩ノ國家ガ補給ヲ——補助ヲスルト云フコトガ、諸リ國家ニ御厄介ニナルト云フ法案ニナッテ居リマスガ、詳シイ事ハ尙ホ委員會ニ於テ提案者ヨリ説明ヲスル等デアリマス、私

ハ大體ニ於テ此提案ノ理由ヲ説明スル譯デアリマスガ、滿場ノ諸君ニ於ケラレマシテモ、是ハ私ハ可ナリ重大ナ問題デ、我が帝國ノ國策ノ上ニ重大ナル問題ト考ヘテ居ルノデアル、全ク是ハ地主ノ保護デモナイ、小作者ヲ救護シ、社會ヲ安定スルト云フ案デアルト思フ提案シテ居ルノデアリマス、昨年即チ十三年度ノ貿易ハ、我國ハ六億四千萬圓ノ輸入超過ヲシテ居ル、六億四千萬圓ノ輸入超過ノ中デモ、何カ金額ガ多イカタ云ヘバ、食糧ノ缺乏デアル、私ノ調査シタ所ニ依ルト、此食糧ノ爲ニ海外ヨリ輸入シタル所ノモノハ小麥ガ七千萬圓、米及初粕ガ七千八百萬圓、豆類ガ六千萬圓、鶏卵ガ千五百二十萬圓、砂糖ガ六千三百萬圓、油糧品ガ約一千万圓、之ヲ合スルト三億四千萬圓ト云フモノヲ、我が帝國ハ海外ニ食糧品ヲ仰イデ居ルノデアル、如何ニ輸出組合ヲ設ケテモ、貿易振興ノ策ヲ樹テヤウトシテモ、口舌ノ下ニ於テハ此輸出入ノ逆調ヲ防グコトハ出來ナイ、國際ノ關係ヲ滑ニシテ、サウジテ我國ガ輸出超過ニナラナクトモ、此國際貿易ノ平調ヲ保ツト云フコトニ付テハ、何ガ一番當面ノ急務デアルカト云ヘバ、取リモ直サズ食糧ノ充實ト云フコトガ一番急務デアルコトハ是ハ申スマデモナイ、是ハ議論ヲシテ徒ニ空論ヲシテモ國家ヲ救ウコトハ出來ナイ、眞ニ國家ヲ愛フル者ハ、貿易ノ狀況ヲ見レバ明デアル、我國ハ海外ヨリ三億圓以上ノ食糧品ヲ輸入シテ居ル、如何ニ百萬圓議論ヲ聞ハシテモ、何等國家ニ貢獻スルコトハ出來ナイ、故ニ吾々眞ニ國家ヲ愛フル者ハ、此貿易ノ平調ヲ滑ニシテ輸出入ノ平均ヲ取ツテ、之ヲヤルニハ一段歩デモ一町歩デモ耕作ヲ獎勵シテ、サウシテ之ニ依ッテ農產物ヲ多ク生産スル方法ヲ講ズレバ、ソレダケ一畝デモ國家ノ爲ニ貢獻スルノデアリ、ソレデナケレバ此狀態ヲ見テ御互ニ肌ヲ寒カラシメタルコトハドウシテモ出來ナイノデアラ、故ニ吾々ガ農業振興ヲ叫ビ、成ハ農地整理ノコトヲ叫ブト云フコトハ決シテ空論

デハナイ、國家ハ之ニ依ッテ救済スルヨリ外ニ途ガ無イト信ジテ疑ハヌノデアリマス、然ルニ當局者等ハ其日ノ政務ニ忙シイカ、刺那主義、其日主義——ホンノ其日主義ニ送ッテ、サウシテ國家ノ永遠ノ大策ト云フコトニ付テハ餘リニ多クノ考慮ヲ費シテ居ラナイコトヲ、吾々ハ平素遺憾ニ思フテ居リマスカラ、諸君ト共ニ此議會ニ於テ四百六十人ノ代議士諸君ト共ニ、或ハ普選問題モ必要デアル、又婦人參政權モ必要デアリマスアレドモ、國家ノ當面ノ急務ト致シマシテハ、是等ノ事ニ付テ少シ眼光ヲ輝カシテ、眼孔ヲ此點ニ注入シテ、サウシテ國家ノ永遠ノ經綸、大策ヲ樹立スルト云フコトハ是非非常ニ必要ナ事ト考ヘテ居ル次第デアリマス、一言以テ私ハ提案ノ理由ヲ述ベル次第デアリマス(拍手)

○井本常作君 本案ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第十四、家祿引直處分法案ノ第一讀會ヲ開キ、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者隅田豐吉君

第四十 家祿引直處分法案(隅田豐吉君外五名提出) 第一讀會

家祿引直處分法案

第一條 明治二年藩政改革ノ爲減額ヲ受ケタル舊和歌山藩士族中同年十二月二日ノ太政官布告ノ祿制率ヨリ多額ノ減額ヲ受ケタル者ハ祿制ノ率ニ引直シ其ノ不足額ヲ明治三十年法律第五十號第一條ニ準據シテ給與ス

第二條 本法ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 本法ニ規定ナキモノハ明治三十年法律第五十號ノ規定ヲ適用ス

(隅田豐吉君登壇)

○隅田豐吉君 提案者ノ一人ト致シマシマテ、本案提案ノ趣旨ヲ簡單ニ說明致シマス、提案ノ要旨ハ明治二年二月十五日ニ和歌山藩が其藩政改革ニ當リマシテ、一大英斷ヲ以テ士族ノ處分ヲ致シマシテ爲ニ、祿制ノ大改革ヲ致シタノデアリマス、而モ其祿制ノ改革ハ寧ろ苛酷峻嚴ト稱セラル、程非常ニ減祿ヲ致シタノデアリマス、從來ノ祿高ノ十分ノ一、甚シキハ二十分ノ一ニ減祿致シタモノデアリマシテ、本案ハソレヲ明治二年十二月二日朝廷ニ於テ旗本士族ノ祿高ノ整理ヲ致シタ爲ニ祿制ヲ公布セラレタ、其太政官ノ布告千百四號ニ準據致シマシテ、引直シテ處分ヲ致シテ貴ヒタイト云フ趣意ナノデアリマス、御承知ノ如ク、徳川幕府ガ倒レマシテ王政ガ復古シ、明治ノ新政府ニナリマシタ當時ニ於テ、廟堂ニ於ケル所ノ我が政治家ガ、何ニ心ヲ痛メ、頭ヲ悩マシタカト申シマス、申スマデモナク、各藩ノ藩政ノ改革乃至士族ノ處分デアッタノデアリマス、其當時ニ於キマシテハ東北即チ奥羽、北海道ニ於テハ戰塵ガ尙ホ熄ンデ居リマセヌ、人心恟々甚ダ不安ノ裡ニ國政ヲ執リテ居ッタノデアリマス、ソコデ廟堂ニ於ケル所ノ政治家、即チ岩倉公、三條公ノ如キハ、如何ニシテ此王政復古ノ實ヲ舉グル爲ニ藩政ノ大改革ヲ爲シ、士族ノ處分ヲ致スベキカト云フコトヲ審議セラレタニ於テ、先以テ徳川親藩ノ一タル所ノ紀藩ニ命ジテ其大改革ヲ爲サシメ、而シテ他藩ニ模範ヲ示サセウヂヤナイカト云フコトニ端緒ヲ發シマシテソコニ廟議ガ一決致シマシテ、慶應四年十二月二十九日、即チ明治元年十二月二十九日ニ朝廷ヨリ紀州侯ノ先代徳川茂承侯ニ向テ敕旨ヲ降シテ、貴藩ハ他藩ニ先シ、先ヅ藩政ノ大改革ヲセヨト云フ嚴命ヲ下サレタノデアリマス、其勅旨ヲ奉戴致シマシテ、紀藩ニ於テハ大英斷ヲ以テ改革ニ著手シ、前ニ申上ダマス通りニ士族ノ大減祿ヲ致シタルモノヲ以テ茲ニ郡縣ノ制ヲ布キ、更ニ徵兵令ヲ布キ、而シテ遠ク獨逸ヨリ士官ヲ聘備致シマシテ、今日ノ陸軍ノ兵制ヲ布イタノデアリマス、左様ニ致シマシテ尙ホ大砲二百門、小銃二萬挺ト云フモノヲ、其後ニ於テ陸軍ニ獻納致シタ事實モアルノデアリマス、斯ノ如ク紀藩ハ大犧牲ヲ拂ッテ大改革ヲ爲シテ、ソレニ依リマシテ朝廷ニ於キマシテハ他藩ニ命ジマシテ、即チ明治二年六月二十五日ニ他藩ノ改革ヲ爲サシメタ次第デアリマス、其他藩ノ改革タルヤ、士族ノ處分ニ付テハ減祿ハ二分ノ一乃至四分ノ一デアリマシテ、之ヲ紀藩ノ士族處分ニ比較致シマスト、非常ナル懸隔ガアッタモノデアリマス、他藩ノ改革ハ區々デアリマシタガ、其後ニ於キマシテ旗本士族ノ處分ヲスベク、即チ明治十二年十二月二日ニ祿制ヲ布カレタモノデアリマス、其祿制ニ依リマシテモ、尙ホ紀藩トハ大懸隔ヲ有シテ居ルモノデアリマス、所デ其後ニ於キマシテ、明治三十年ニ法律第五十號ヲ以テ一明治三年九月十一日以後ニ於テ家祿賞典祿ノ錯誤處分ニ對シテハ、其明治三十年ノ法律第五十號ヲ以テ救済セラル、ト云フコトニ相成タモノデアリマス、併ナガラ紀藩ガ大英斷ヲ以テ、天下國家ノ爲ニ爲シタル所ノ減祿ノ此改正ニ付キマシテハ、明治三十年ノ法律第五十號ハ、明治三年ノ太政官布告ニ準據シナイト云フ意味ニ依ッテ、其恩典ニ浴スルコトガ出來ナカッタ次第デアリマス、然ルニ紀藩ノ大改革ニ付テハ前ニ申上ダマシタ通り、國家ノ爲メ非常ニ犧牲ヲ拂ッテ居リマス次第デアリマス、故ニ、此家祿ノ不公平ナル所ノ處置ニ對シテ引直シテ貴ヒタイト云フ所ノ意見ハ、明治三十二年ヨリ三十三年ニ互リマシテ本院ニ現レマシタ、而シテ三十三年ニハ本院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、更ニ近ク第四十五議會乃至第四十六議會ニ於キマシテハ、此法案ト一字一句モ相違ナキ所ノ法案ガ、滿場一致ノ御可決ノ下ニ本院ヲ通過致シマシタ次第デアリマス、尙ホ遺憾ナガラ貴族院ニ於テハ審議ノ餘リガ無イト云フコトノ爲ニ、提議シノ運命ニ遭遇シテ居ル所ノ不幸ナル法案デアルノデアリマス、幸ニ諸君ハ

シテ、今日ノ陸軍ノ兵制ヲ布イタノデアリマス、左様ニ致シマシテ尙ホ大砲二百門、小銃二萬挺ト云フモノヲ、其後ニ於テ陸軍ニ獻納致シタ事實モアルノデアリマス、斯ノ如ク紀藩ハ大犧牲ヲ拂ッテ大改革ヲ爲シテ、ソレニ依リマシテ朝廷ニ於キマシテハ他藩ニ命ジマシテ、即チ明治二年六月二十五日ニ他藩ノ改革ヲ爲サシメタ次第デアリマス、其他藩ノ改革タルヤ、士族ノ處分ニ付テハ減祿ハ二分ノ一乃至四分ノ一デアリマシテ、之ヲ紀藩ノ士族處分ニ比較致シマスト、非常ナル懸隔ガアッタモノデアリマス、他藩ノ改革ハ區々デアリマシタガ、其後ニ於キマシテ旗本士族ノ處分ヲスベク、即チ明治十二年十二月二日ニ祿制ヲ布カレタモノデアリマス、其祿制ニ依リマシテモ、尙ホ紀藩トハ大懸隔ヲ有シテ居ルモノデアリマス、所デ其後ニ於キマシテ、明治三十年ニ法律第五十號ヲ以テ一明治三年九月十一日以後ニ於テ家祿賞典祿ノ錯誤處分ニ對シテハ、其明治三十年ノ法律第五十號ヲ以テ救済セラル、ト云フコトニ相成タモノデアリマス、併ナガラ紀藩ガ大英斷ヲ以テ、天下國家ノ爲ニ爲シタル所ノ減祿ノ此改正ニ付キマシテハ、明治三十年ノ法律第五十號ハ、明治三年ノ太政官布告ニ準據シナイト云フ意味ニ依ッテ、其恩典ニ浴スルコトガ出來ナカッタ次第デアリマス、然ルニ紀藩ノ大改革ニ付テハ前ニ申上ダマシタ通り、國家ノ爲メ非常ニ犧牲ヲ拂ッテ居リマス次第デアリマス、故ニ、此家祿ノ不公平ナル所ノ處置ニ對シテ引直シテ貴ヒタイト云フ所ノ意見ハ、明治三十二年ヨリ三十三年ニ互リマシテ本院ニ現レマシタ、而シテ三十三年ニハ本院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、更ニ近ク第四十五議會乃至第四十六議會ニ於キマシテハ、此法案ト一字一句モ相違ナキ所ノ法案ガ、滿場一致ノ御可決ノ下ニ本院ヲ通過致シマシタ次第デアリマス、尙ホ遺憾ナガラ貴族院ニ於テハ審議ノ餘リガ無イト云フコトノ爲ニ、提議シノ運命ニ遭遇シテ居ル所ノ不幸ナル法案デアルノデアリマス、幸ニ諸君ハ

第四十五議會乃至第四十六議會ニ於テモ通過致シテ居ル法案デアリマス、故ニ、無論御協賛ヲ願ハル、コト、存ジマス次第デアリマス、詳細ノ點ハ委員會ニ於テ申述ヘル次第デアリマス、尙ホ本案ニ關シテ係致シテ居ル所ノ事ハ、色々錯綜致シテ居リマスガ爲ニ、此處ニ此關係ノ書類ヲ採テ致シテ居リマスガ、議長ノ許可ヲ得テ速記録ニ登載ヲ致シタイト存ジマス、故ニ、ドウカ御許シテ願ッテ置キマス(拍手)

(參照)

紀藩祿制大改革

明治二年巳年二月十五日

一御國政大改革津田又太郎ハ御委任ニ付粗平均祿出法ニ準シ祿制改革セラル職制改正モ連帶發布ト雖モ職制ノ部ニ分記シ發ニ省ク

御意書(明治元年十二月二十九日 太政大臣)

天下ノ大勢一變シ門閥ニ不拘人才ヲ登庸致府藩縣一治ノ制度相立候様

天朝被仰出候付テハ御趣意謹テ奉體一新更始自今後領地高二十分ノ一ヲ我等若シ方宛ト相定メ

朝廷ノ職務並治民ニ付テノ用度之外ハ一切右二十分ノ一ヲ以テ費用ニ供ス可シ就テハ家中ノ者共ト別帳割ノ通無役高相定文武ノ職ニ居ル者ハ別段定ノ通役高ヲ遣ス可シ抑領地五十万石ハ勤王治民ノ爲メ所賜ニシテ敢テ一人ノ私スヘキニアラサレハ其方共ニ於テモ受來ノ知行高ハ即チ我等ガ勤王治民ヲ佐クル爲メニテ敢テ私スヘキ者ニアラサルノ理ヲ辨ヘ各其ノ職分ヲ盡シ我等ト共ニ

天朝ノ御趣意ヲ遵奉可仕事

明治二年十二月二日(布)(太政官)第千四百

一先般各藩大義名分ノ素懷ヲ正シ海外諸國ノ形勢ヲ察シテ其ノ封土ヲ奉還ス依テ大イニ公論衆議ヲ被爲盡府藩縣一途ノ政令ニ歸シ天下ト共ニ綱紀ヲ更張

被遊度御主意ニ付更ニ知藩事ニ被任隨テ家祿之制被爲定藩々ニ於テモ維新ノ御政體ニ基キ追々改正可致就テハ中下大夫士以下ノ稱被廢都テ士族及卒ト稱シ祿制相被定候爾後各其地方官ニ於テ可爲貴屬皆被仰出候條舊ト御主意ヲ奉體シ銘々命ヲ守リ其職ヲ可盡候事

但知行所同上地被仰付總テ廢米ヲ以テ賜候事

一 大夫士以下之面々今般家祿御定相成候ニ付テハ其家來共三代以上相恩ノ者ハ相應ノ御扶助可被下候間姓名並ニ從前ノ祿扶持米等取調早々可申出

但舊主ニ於テ扶助致シ候儀ハ可爲勝手事

規則

一 祿制二十一等ニ分チ士族ハ十八等ニ止候事

但士族ノ元高十三石ニ滿タス卒ノ元高八石ニ滿タサル者ハ是迄通ノ事

一 元祿ハ現今被施行候高ヲ以テ定候事

一 舊來同心ノ輩ハ卒ト可稱事

一 祿制ハ總テ現石高ヲ可稱事

一 祿制當年ハ是迄之通來春ヨリ可減事

一 祿ハ都而廢米ニテ賜候間其餉頭ニテ取糺大藏省ヘ可申出

祿制

元祿	現米
一 元祿万石未滿九千石迄	二百五十石
一 同九千石未滿八千石迄	二百廿五石
一 同八千石未滿七千石迄	二百石
一 同七千石未滿六千石迄	百七十五石
一 同六千石未滿五千石迄	百五十石
一 同五千石未滿四千石迄	百三十五石
一 同四千石未滿三千石迄	百二十石
一 同三千石未滿二千石迄	百五十石
一 同二千石未滿一千五百石迄	九十石
一 同一千五百石未滿一千石迄	七十五石
一 同一千石未滿八百石迄	六十五石
一 同八百石未滿六百石迄	五十五石
一 同六百石未滿四百石迄	四十五石
一 同四百石未滿三百石迄	三十五石
一 同三百石未滿二百石迄	二十八石

一 同二百石未滿百五十石迄 二十二石
一 同百五十石未滿百石迄 十六石
一 同百石未滿八十石迄 十三石
一 同八十石未滿六十石迄 十一石
一 同六十石未滿四十石迄 九石

明治十二年十二月布告 舊和歌山藩減祿比較表

元高知行免二ツ五分 本藩知行免四ツ二引 現米 高 現米 高 差額 不足額

一萬石未滿九千石迄 六千二百五十石未滿 二百五十石 自二百五十石 至二百九十石 〇 三十一石迄

八千石迄 五千石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

七千石迄 四千石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

六千石迄 三千七百五十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

五千石迄 三千二百二十五石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

四千石迄 二千五百石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

三千石迄 千八百七十五石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

二千石迄 千二百五十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

一千石迄 九百三十七石五斗迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

六百石迄 三百七十五石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

四百石迄 二百五十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

三百石迄 二百五十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

二百石迄 二百二十五石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

一百五十石迄 九十三石七斗迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

百石迄 六十二石五斗迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

八十石迄 五十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

六十石迄 四十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

四十石迄 三十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

三十石迄 二十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

二十石迄 十石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

十石迄 〇 石迄 二百二十五石 二百石 〇 二十五石

以上三等辛トス八石以下是迄ノ通

明治九年八月五日

一 同四十石未滿三十石迄 八石
一 同三十石以下是迄ノ通 〇 石

但免二ツ五分四拾五入ノ法ヲ以テ計ニ 切リ上ダ可申事 以上

但表中何石迄トアルハ前行未滿何 石迄ノコト但末段迄ハ此限ニ非ス

金祿元高賞典祿アル者ハ家祿ヲ合計シ 元高トス

年限

一 萬圓以上ヨリ千圓以上迄ヲ略ス

千圓未滿九百圓以上 七箇年八分五厘

九百圓未滿八百圓以上 八箇年二分五厘

八百圓以上 八箇年二分五厘

七百圓以上 八箇年二分五厘

六百圓以上 八箇年二分五厘

五百圓以上 八箇年二分五厘

四百圓以上 九箇年二分五厘

三百圓以上 九箇年二分五厘

二百圓以上 九箇年二分五厘

一百圓以上 十箇年二分五厘

五十圓以上 十箇年二分五厘

三十圓以上 十箇年二分五厘

二十圓以上 十箇年二分五厘

十圓以上 十箇年二分五厘

五圓以上 十箇年二分五厘

三圓以上 十箇年二分五厘

一圓以上 十箇年二分五厘

五十圓未滿四十圓以上 十二箇年分

四十圓未滿三十圓以上 十三箇年分

三十圓未滿二十五圓以上 十三箇年分

廿五圓未滿二十圓以上 十四箇年分

二十圓未滿十五圓以上 十四箇年分

十五圓未滿十圓以上 十四箇年分

十圓未滿五圓以上 十四箇年分

五圓未滿三圓以上 十四箇年分

三圓未滿一圓以上 十四箇年分

終身祿ノ分ハ右永世祿年限十分ノ五ヲ 給ス但利子ハ永世祿ノ割合ニ同ジ

〇 井本常作君 本案ハ村山喜一郎君提出、 所得稅法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セ テ付託セラレシコトヲ望ミマス

〇 副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ ハ御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シ マス——四程第十五、新聞紙法中改正法律 案ノ第一讀會ヲ開キ、提出者ノ趣旨辯明ヲ 許シマス——石川安次郎君

第十五 新聞紙法中改正法律案(賴母 木桂吉君外五名提出) 第一讀會

新聞紙法中改正法律案

新聞紙法中左ノ通改正ス

第二條第四號中「又ハ執行猶豫中」ヲ削ル

第四條第七號ヲ左ノ如ク改メ第八號ヲ削リ第二項中「持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル」ヲ削ル

七 發行人ノ氏名年齡

第五條中「又ハ持主、編輯人、印刷人」及但書ヲ削ル

第八條第一項中「若ハ編輯人」及「若ハ假編輯人」、第二項中「及「編輯人」及「及假編輯人」ヲ削ル

第九條中「編輯人ノ責任」ヲ「發行人ノ責任」ニ改メ第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號ニ第三號ヲ第二號ニ改ム

第十條中「編輯人、印刷人」ヲ削ル

第十五條中「又ハ編輯人」ヲ削ル

第十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項ヲ削ル

新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後日刊新聞紙ニ在リテハ第五回迄ノ發行ニ於テ、日刊ニ非サル新聞紙ニ在リテハ第二回迄ノ發行ニ於テ正誤シ又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載スルコトヲ要ス但シ其ノ正誤辯駁書長文ニ互ルトキ、其ノ要旨ヲ掲載スルコトヲ得正誤又ハ正誤書辯駁書ハ原記事ト同一面ニ掲載スルコトヲ要ス

第十七條ノ二 發行人ハ左ノ場合ニ限り正誤又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載ヲ拒ムコトヲ得

一 正誤力却テ事實ニ反スル確證アルトキ

二 日刊新聞紙カ同一事項ノ續報トシテ次ノ發行ニ於テ同一面ニ依リ明確ニ正誤シタルトキ

三 掲載ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキ

第十九條 新聞紙ハ豫審ノ終結決定前豫審判事ノ爲シタル審問事項中當該判事ノ差止メタル部分ヲ掲載スルコトヲ得ス委託ニ依リ記事ノ掲載ヲ差止メタル場合委託裁判所カ右差止ヲ解除シタル

ルトキハ受託裁判所カ解除ヲ爲ササ
ルトキト雖新聞紙ニ對シテ效力ヲ生ス
第二十條中「掲載スルコトヲ得ス」ノ下ニ
「但シ慣例ニ依リ支障ナキモノハ此ノ限
ニ在ラス」ヲ加フ

第二十三條 內務大臣ハ左ノ場合其ノ新
聞紙ノ發賣額布ヲ禁止シ必要アルトキ
ハ之ヲ差押ヘ爾後同一事項ノ掲載ヲ禁
止スルコトヲ得
一 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル事項ヲ掲ケ
タルトキ

一 作戰及動員ニ付陸海軍大臣カ命令
ヲ以テ差止メタル事項ヲ掲ケタル
トキ

三 目的及方法ヲ指示シテ直接暴動ヲ
煽動スル事項ヲ掲ケタルトキ
四 著シク風俗ヲ害スル事項ヲ掲ケタル
トキ

前項ノ命令ハ其ノ新聞紙ノ版別アルモ
ノニ付テハ版別ヲ表示シ且當該事項中
ノ違反箇所ヲ指示スヘシ

本條ノ命令及之ニ依リ行政官廳ノ處分
ヲ不當ナリトスルトキハ行政裁判所ニ
出訴シ命令及處分ノ取消並直接被リタル
損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二十四條中「安寧秩序ヲ害シ又ハ風俗
ヲ害ス」前條第一項ニ該當ニ改ム

第二十七條 削除

第二十八條中「又ハ編輯人」及「三月以下
ノ懲役又ハ」ヲ削リ

第二十九條中「三百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第三十條中「二百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第三十一條中「及編輯人」ヲ「五十
圓」ニ改ム

第三十二條中「二百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第三十三條中「及編輯人」ヲ「五十
圓」ニ改ム

第三十四條中「三百圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第三十五條中「第二項」ヲ削リ「編輯人」
ヲ「發行人」ニ改ム

第三十六條中「編輯人」ヲ「五百圓」ヲ「發
行人」ヲ「五十圓」ニ改ム

第三十七條中「編輯人」ヲ三月以下ノ禁錮

又ハ二百圓」ヲ「發行人」ヲ「五十圓」ニ改ム
第三十八條中「第四十三條ニ依リ禁止ノ
裁判」ヲ削リ「編輯人」ヲ六月以下ノ禁錮
又ハ三百圓」ヲ「發行人」ヲ「二百圓」ヲ
「百圓」ニ改ム

第三十九條中「六月以下ノ禁錮又ハ三百
圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第四十條 削除

第四十一條 削除

第四十二條 削除

第四十三條 第二十三條第一號乃至第四
號ニ該當スルトキハ發行人」ヲ「三百圓以
下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 新聞紙ハ誤報ヲ掲載シ且其
ノ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ拒ミ
タルトキ又ハ非サレハ刑事及民事ニ關シ
責ヲ負フコトナシ但シ陷害ニ出テタル
場合又ハ正誤、正誤書若ハ辯駁書ノ掲
載方カ惡意ニ出テタル場合ハ此ノ限ニ
在ラス

名譽回復ニ關スル廣告ハ被告ノ新聞紙
ニ爲スモノトス

本條ノ訴ハ一年ヲ以テ免責時効トス

附則

本法ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行
ス

○石川安次郎君登壇

○石川安次郎君 新聞紙法ノ改正、此案ハ
單リ新聞紙、新聞記者ニ關係スルバカリデ
ナク、日本ノ文化ニ大關係ヲ持ッテ居ル問
題デアリマシテ、勿論黨派ノ問題デナイノ
デアリマス、私ハ本案ノ如キハ、殆ド説明
ヲ要セズシテ御協賛ヲ得ルコト、思ヒマス
クレドモ、簡單ニ申上ゲタイ、現行新聞紙
法ハ凡ソ十六年前ニ改正ニナッタモノデア
リマスルガ、是ハ舊新聞紙條例ヲ根柢トシ
テ聊カ訂正シタ位ノモノデアリマシテ、此
爲ニ新聞紙ノ發達ヲ妨ゲ、新聞紙ノ苦シム
コト、今日モ依然トシテ舊新聞紙條例ノ時
ニ苦シムヤウナ結果ガ非常ニ多イノデア
リマス、故ニ今日ヲ改メタイト云フノ種々
ナル細目ニ互タ改正案ヲ提出致シタノデ
ゴザイマスガ舊新聞紙條例ナルモノハ――

日本ノ新聞紙ハ極メテ新シイ仕事デアリマ
シテ、昔ニハ無カッタガ、維新聞國ノ後ニ
出來テ、初ハ自由デアッタノニ閣族官僚ノ
徒、日本愛國ノ志士ガ此新聞紙ニ依ッテ政
府ヲ攻撃シ、政府ノ缺點ヲ攻撃スルト云フ
コトヲ憤テ、此新聞紙條例ノ武器ヲ以テ
民間ノ志士ヲ壓迫シタル歴史ハ、日本ノ文
化史ニ一大汚點ヲ印シテ居タモノデアリ
マス（拍手）是ガ爲ニハ天下ノ名士ト稱セラ
レタル、其當時ノ新聞記者ノ優秀ナル方々
ハ多ク牢ニ打込マレタ、成島柳北、末廣重
泰、或ハ藤田茂吉ナド云フ故人ニナッタ
名士モ牢ニ這ハラレマシタガ、現ニ本院ノ
一席ヲ占メラレテ居ル政界ノ長老箕浦勝人
先生ノ如キモ、此新聞紙條例ニ依ッテ牢獄ノ
修苦ヲ嘗メラレタト云フコトハ明ナル事實
デアリマス（拍手）而シテ新聞紙條例ガ既ニ
此長イ間吾等新聞記者ヲ苦シメ新聞紙ニ關
係セラレタル所ノ方々ハ、例ヘバ犬養先生
ノ如キ、尾崎先生ノ如キ、或ハ加藤政之助
先生ノ如キ、現ニ本院ニ在ラレル方々ハ、既
ニ新聞記者時代ニ十分ニ御體驗ニナッテ居
ルノミナラズ、此新聞紙法ガ改定サレテカ
ラ後デモ、舊新聞紙條例ノ如ク甚シクハナ
イクレドモ、尙ホ閣族官僚ノ徒ガ非常ナル
壓迫ヲ加ヘントシテ出來タル所ノ種々ナル
箇條ハ、新聞紙ヲ大變ニ壓迫シテ、新聞紙ニ
從事シテ居ル所ノ人々ヲ非常ニ苦シメ、現
ニ內閣總理大臣ノ地位ニ居ラレル所ノ加藤
高明子爵ノ如キモ、東京日日新聞社ヲ御經
營ニナッタル當時ニ、此新聞紙條例ノ不可ナ
ルコトハ、十分ニ御體驗ニナッタコト、確
信シテ疑ハナイ、又政友本黨ノ總裁ノ地位
ニ居ラレル所ノ床次竹二郎君モ、暫クノ間
東京毎夕新聞ノ社長トナラレテ居タカラ、
確ニ此新聞紙法ノ宜クナイコトハ十分ニ御
體驗ニナッテ御承知ノ事ト存ジマスル、是
ハ殆ド議論ノ無イ事デアリマシテ、今日此
改正案ガ此議場ニ現レテ、此議會ヲ通過シ
テ政府ノ方々、總理大臣モ、政友本黨ノ總裁
モ、喜ンデ是ハ一致デ以テ御改正ニ相成ル
ベキコト、私ハ確信シテ疑ハヌ者デアリマ
ス、殊ニ此新聞紙ガ斯ノ如クニ、斯ウ云フ

酷イ舊新聞紙條例カラ、ソレヲ少シク改メ
タル新聞紙法ニ依ッテ壓迫セラレルニモ拘
ラズ、日本ノ新聞紙ハ如何ニモ色ニナル人
ノ努力ニ依ッテ駁々トシテ進歩シ、日露戰
爭ノ後、「ボーツマス」會議ノ後私共世界ヲ
一周シテ歸タル時ニ、日本ノ新聞紙ノ世
界ニ於ケル公評ハ、「スエズ」以東ニ於テ日
本ノ優良ナル新聞紙、及フモノハナイ、「ス
エズ」以東ニ於テハ、新聞界ニ於テハ日本
ノ新聞ガ一番良イト云フ公評デアリマシタ
ガ、爾來二十年、日本ノ進歩ハ日本ヲ三大
強國ノ一ニ上スマデ駁々トシテ進ム、其
進歩ヨリモ更ニ新聞界ノ努力ノ結果トシ
テ、此進歩ハ餘程著シク、吾等ハ最近ニ西
洋各國ノ輿論ヲ聞イテ見テモ、倫敦ノ一二
ノ新聞、紐育ノ一二ノ新聞ノ外ハ、日本ノ
最優良ノ新聞ニ及ブモノハナイ位デ、今此
新聞紙法ノ壓迫アッテサヘ是ダケニ進歩シ
タル所ノ日本ノ新聞紙ハ、茲ニ總理大臣、
政友本黨ノ反對ノ方々、與黨三派ノ方々、
無所屬ノ方々、總テノ人々ニ依ッテ新聞紙
法ノ改正ヲ行シテ、新聞紙ニ對スル壓迫ヲ
除イテ、此自由ナル進歩ヲ遂ゲシメタナラ
バ、私ハ文化ノ標準トナルベキ新聞紙ガ、
倫敦、紐育ノ新聞紙ヲ壓迫シテ、世界ノ新
聞ノ最モ優良ナルモノトナルコトハ疑ナイ
ト思フ、是レ新聞紙ノ爲ニ言フニアラズ、
日本ノ文化ノ爲メ、國民ノ爲メ、新聞紙ニ
對スル國論ノ間ニハ往々ニシテ種々ナ風評
ヲ聞ク、吾等モ亦甚ダ不満足デアアル、而シ
テ其缺點ハ一二ニ止ラズ、記者ニ責任ア
リ、或ハ經營者ノ責任トスベキモノガア
ル、併ナガラ其新聞紙ノ發達ガ、遲々トシ
テ進マザル最大原因ハ閣族官僚ノ遺シタル
新聞紙法ナルモノハ茲ニ之ヲ撤廢スルコト
ハ、日本ノ文化ノ爲ニ吾等ガ爲サマルベカ
ラザル事デアルト確信シテ疑ハザル者デア
リマス、諸君、ドウゾ國ノ爲ニ、文化ノ爲
ニ、滿場一致ヲ以テ御協賛アルヤウニ、細
目ニ至ッテハ委員會ニ於キマシテ、更ニ十
分ニ御説明ヲ提出者ノ方カラ致スデゴザイ
マセウ（拍手）

○井本常作君 本案ハ議長指名、特二十八

名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、此場合借越デアリマスガ一言申上ダマス、是ヨリ上程サレントスル建議案ハ多數デアリマス、而シテ何レモ皆重要ナ案件デアリマス、努メテ本日中ニ多少ノ時間ハ延長致シテモ議了致シタイト考ヘテ居リマス此故ニ提出ノ趣旨辯明並ニ質問應答ハ、成ベク簡明ニセラレンコトヲ切ニ御願致シテ置キマス(ヒヤ) 日程第十六乃至第二十二ハ便宜上一括議題ト致シ、各案毎ニ提出者ノ趣旨辯明ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ガ無イト認メマス、仍テ日程第十六、染料關稅撤廢ニ關スル建議案、日程第十七、綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案、日程第十八、綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案、日程第十九、綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案、日程第二十、關稅改正促進ニ關スル建議案、日程第二十一、蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案、日程第二十二、煉乳粉乳輸入關稅引上ニ關スル建議案ヲ一括シテ議題ト致シ、各提出者ノ趣旨辯明ヲ求メマス日程第十六、第十七、提出者武藤金吉君

第十六 染料關稅撤廢ニ關スル建議案

(武藤金吉君外一名提出)

染料關稅撤廢ニ關スル建議案

染料關稅撤廢ニ關スル建議案

染料關稅撤廢ニ關スル建議案

染料關稅撤廢ニ關スル建議案

染料關稅撤廢ニ關スル建議案

第十七 綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

(武藤金吉君外一名提出)

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

第十八 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

(關直彦君外一名提出)

綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

政府ハ速ニ關稅定率法中綿絲ニ關スル輸入關稅ヲ廢止スルノ法律案ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

右建議ス

第十九 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

(飯塚春太郎君外一名提出)

綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

政府ハ速ニ關稅定率法中綿絲ニ關スル輸入關稅ヲ廢止スルノ法律案ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

右建議ス

第二十 關稅改正促進ニ關スル建議案

(太田信治郎君外一名提出)

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

關稅改正促進ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

上テ成功シタト稱スルモノハ、私ノ知ル所デハ二十八種、更ニ二十種ヲ殖シマシテモ五十種ニ滿タナイノデアリマス、然ラバ此染料工業ノ政策ハ國防ノ關係ヲ持チ、即チ爆彈ヲ拵フ、毒瓦斯ヲ拵フ、藥ヲ拵フ、斯様ナ任事ニ對シマシテハ、國家ガ相當ノ保護ヲスルト云フコトハ勿論デアリマスガ、一面ニ於テ吾々ガ生活ノ必需品タル織物、織物ノ色ヲ染メル爲ニ國內ニ於テ使フ所ノ染料ヲ一面ニ於テハ安クスルト同時ニ、又我國ノ纖維工業ハ、主トシテ之ヲ輸出ヲ獎勵スルト云フコトノ原料ニ使フニ付キマシテハ、從來ノ保護會社ノ設立、高率關稅ノ賦課、輸入制限等ト云フモノハ、果シテ之ニ適當スルモノデアルカ否ヤ、私共ハ此國防上日本ニ於テ獎勵スベキモノニ對シマシテハ、特殊ナ保護方法ハ認メルモノデアリマスルガ、爾餘ノ染料ニ付キマシテハ關稅ヲ撤廢シテ、一ハ輸出ノ獎勵ヲ爲シ、一ハ國內ノ生活ヲ易クスルコトノ方針ヲ執テ欲シト思フノデアリマス、比點ニ付キマシテハ前々同ニ於キマシテ政府ノ質問ヲ致シテアリマスカラ、大要今日ノ說明ハ省略ヲ致シマシテ、之ヲ要スルニ此建議案ハ、國家ガ保護スベキモノハ彼方ナインデアリマスルガ、其爾餘ノモノニ付キマシテハ、關稅ヲ撤廢シテ右ノ趣旨ヲ貫徹スルコトニシタイト云フコト、本建議案ヲ出ス理由デアリマス、宜シク御審議ニ與リタク存ジマス(拍手) 次ハ綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案デアリマス、諸君、綿絲ノ需要ハ世界ニ於テ我國ハ最も其需要ノ多イ國デアリマシテ、又綿絲紡績ノ發達ハ近時著シキ發達ヲ遂ゲテ居ルノデアリマス、而シテ此綿絲ハ然ラバ紡績會社ハ現在ニ於テ如何ナル地位ニ在リテ、如何ナル國家ノ特殊ノ保護ヲ受ケテ居ルカ、又紡績會社ノ狀態ハ保護ヲセナイデヤツテ行ケルカ、ヤツテ行ケナイカ、又此綿絲ニ依テ出來ル綿製品ハ如何ニ國內デ使ハレテ居ルカ、又綿絲ニ依テ出來ル綿製品ノ海外輸出ハ如何ナル狀況ニ在ルカト云フコトハ、近昨經濟政策ヲ論ジ、國民生活ノ狀態ヲ論ジ、又此大問題、

實際問題ト致シマシテハ、私共ハ之ヲ眞面目ニ、最も嚴密ニ此審查ヲ致シマシテ、相當ノ解決ヲ致シタイト云フ熱心カラ此案ヲ出シタ譯デアリマス、第一社會政策上、我が國民多數、殊ニ中産以下ノ國民ガ使ヒマスル所ノ綿服、綿製品ト云フモノヲ安クシテ、其生活ヲ緩和スルト云フコトハ、物價調節ノ上カラ行キマシテモ適切有效ナル所ノ政策デアルト信ジマス、第二ハ輸出獎勵ノ經濟政策上カラ申シマシテモ、我國ガ何ヲ以テ立國産業ノ基礎トスルカト云ヘバ、私ハ日本ニ於テハ纖維工業第一ナリト算ヘルモノデアリマス、其纖維工業ノ中デ生絲即チ蠶絲——蠶絲ト云フモノハ海外ニ輸出ノ見込ノアルモノハ綿製品デアリマス、蠶絲十箇年ノ間ニ綿製品ノ輸出ノ増加ハ、大正五年ニ於テハ六千萬圓デアリマス、然ルニ大正十二年ニハ二億六千四百九十九萬圓ニ上テタルノデアアル、而モ此原料ハ悉ク綿絲ニ依リタナケレバナリ、然ルニ此原料タル綿絲ハ如何ノ狀態デ在ルカト申シマスレバ、紡績會社ハ有ユル特殊ノ保護ノ下ニ、更ニ紡績會社ハ關稅ノ保護ノ下ニ、操業短縮ノ下ニ、輸入制限ノ下ニ、有ユル輸入スル所ノ綿絲ノ防禦方法ヲ執ルト同時ニ、國內ニ於テハ資本家ノ橫暴、資本家ノ專横甚シキモノガアルノデアリマス(拍手)是ハドウシテモ直シテ、國民生活ノ中ニ於ケル所ノ必需品ヲ安クシ、輸入品ノ原料ヲ安クスルト云フコトガ出來マセケレバ、輸出ノ獎勵即チ輸入貿易ノ均衡モ、又爲替ノ均衡モ、金ノ解禁モ、此輸出ノ均衡ガ全クナイトキハ、何ノ效モ無イト私ハ確信スル者デアリマス(拍手)果シテ我國ガ纖維工業ヲ發達シ、國策上此工業ヲ獎勵スルト致シマスレバ、紡績ノ絲ノ輸入ノ關稅ヲ撤廢スルト云フコトガ、私ハ紡績會社ニ對シテモ忠實デアルト同時ニ、國家ノ實際カラ言フテ私ハ適當ナル措置デアルト考ヘルノデアアル、紡績聯合會ノ調査ニ依リマスルト、大正十年ヨリ十二年ニ至ル我が經濟界ノ最モ不況ナル時ニ於テモ、同會所屬ノ紡績會社ハ五十五、資本金ハ三億二千萬圓、

此運轉總數ガ四百二十萬圓ニナリ居ル、而シテ平均ノ純益率ハ二割五分ニナリ居ルノデアリマス、其中ノ十大會社ノ所有總數三百八十八萬圓デアリマス、全體ノ七割四分ヲ占メテ居ルノデアリマス、之ヲ平均致シマスレバ、實ニ三割八分ノ平均ニナリ居ルノデアリマス、過去十年間ノ統計ヲ見ルニ、綿絲ノ輸出サレタモノハ年々餘リ増加シテ居ラナイ、之ニ反シテ綿製品ノ輸出ハ七倍ノ増加ヲ致シテ居ル、今ヤ原料輸出ノ時代ハ去リ、精製品ノ輸出ノ時代ニ移リテ居ルノデアアル、若シ綿布ガ安ク原料ヲ供給サレルナラバ、只今三億近クノ綿製品ハ、數年ナラズシテ私ハ生絲ト並ンデ輸出ガ出來ルコトヲ確信スル者デアリマス(拍手)然ルニ綿絲關稅ノ撤廢ハ、紡績業者ガ人爲的ニ價額ノ釣上ヲ爲シテ、其價額ノ釣上ハ操業短縮トナリ、資本ノ壓迫トナリ、紡績業者ハ其外ニ種々ナル特殊ノ保護ヲ有シテ居ル、即チ船賃ガ安イ、仕入方ニ付テモ、六箇月モ金ヲ拂ハヌデ居ル、自由ヲ有シテ居ルニ拘ラズ、綿製品ハ市場ニ織物ニナリテ、荷ガ出レバ直ニ金ガ這入ル、斯ノ如クニ致シマシテ、我國ノ紡績ハ今日マデハ保護サレテ居タルノデアリマスガ、今ヤ紡績業ハ斯樣ニ保護ヲ致サヌデモ、十分ニ相當ノ利益ガ擧テ居ル、舉テ居ルバカリデハナイ、紡績業者其者モ、最早關稅ノ保護モ特殊ノ保護モ要ラヌト云フコトハ明ニ申サレテ居ルノデアリマス、亡クナリマシタ和田豐治君ハ公開ノ席ニ於テ、紡績保護ハ之ニ止メテ置イテ、サウシテ綿製品ヲ出ス方ニ力ヲ注グト云フコトガ、日本ノ經濟政策トシテ、貿易政策トシテ相當ナリト云フコトヲ主張サレテ居タル、是ハ一昨年デアリマシタ、然ルニ紡績業ハ斯ノ如キ發達ヲ致シテ、斯ノ如キ利益ヲ得テ、甚シキハ七割ノ配當ヲ爲シ、其重役ハ數千萬圓ノ賞與及報酬ヲ握リテ居タル(ヒヤ)「拍手」サウシテ經濟政策ガドウノ、輸出貿易ガドウノト云フテ、社會政策ヲ嗽ニスルガ如キ政治家、若クハ實業家ガアリトスレバ、殆下ハ御話ニ

ナラナイモノデハナイカト思フ(拍手)諸君吾々ハ紡績業者ガ本邦ノ工業ノ中心デアルコトヲ認メル、中心デアルコトヲ認メルガ、何故ニ保護ノ時代ヲ去リテ、獨立シテ其原料ニ依リテ綿製品ヲ國民ニ安ク提供シ、其原料ニ依リテ輸出綿製品ヲ盛ニ出スト云フコトニ手ヲ擴ゲテ經營ニナラナイノデアアルカ、何故紡績業者ハ操業短縮ヲ爲シ、内ニ於テハ工女ヲ苦シメ、全夜業ヲ爲シ、深夜業ヲ爲シ工女ヲ苦シメ、サウシテ其紡績工場カラハ多數ノ痼疾患者ヲ出シテ置キナガラ、民衆ニ媚ビル所ノ說ナドヲ執リシテ、利益ヲ壟斷シテ居ル、諸君、勞働者ノ「ストライキ」ハ可憐ナモノトハ私ハ思フノデアリマス、勞働者ノ「ストライキ」ハ貨銀ノ要求、待遇ノ優待ヲ迫ル位ニ止ルガ、資本家ノ橫暴、資本家ノ「ストライキ」ニ至ラズハ、國家國民ノ生活ヲ毒スル所ノ甚シキモノガアルノデアリマス(拍手)諸君、金ノ解禁論——武藤山治君ノ金ノ解禁論モ拜讀致シマシタ、又武藤山治君ハ此事ニ付キマシテハ常業者デアアル、又自由貿易論者デモアル、經濟論ノ達者ナル事、演說ノ立派ナル事ニハ敬服スルガ、武藤山治君ハ自由貿易論ヲ唱ヘ、金解禁論ヲ唱ヘテ居テ、此綿絲ノ關稅タケニハ保護論ヲ唱ヘテ居ルト云フコトハ、敢テ武藤山治君ヲ論ズル譯デハアリマセヌガ、武藤山治君ハ紡績聯合會ノ牛耳ヲ執リテ居ル、紡績業者ノ泰斗トシテ、或ハ此建議案ニ付テモ質問ノ通告ヲサレテ居ル位、該博ナル知識ヲ持テ居ラレマスガ、此間違タ知識ヲ以テ、又自分ノ立場ヲ明ニシナイデ——聯合會ノ武藤山治君デアアルナラバ格別、苟モ我が議政壇上ニ立テ我が經濟政策ヲ論ジ、我が貿易政策ヲ論ジ、國民生活ヲ云フ爲スル場合ニハ、先ヅ當業者ノ位置ヲ離レテ、紡績業ハ如何ナル特點ヲ持テ居ルカ、如何ナル位置ニ在ルカ、ドウノ點マデ讓テ、ドウシテ原料ヲ安クシテ國民ニ提供ガ出來ルカト云フコトヲ自省スルコトガ、最モ必要デハナ

イカト思フノデアリマス(拍手)サウスルト失業者ガ出テ來ルト云フカモ知レヌガ、紡績業カラ多少ノ失業者ガ出來テモ、綿製品ノ方デ安イ原料ヲ殖エテ參リマシタナラバ、綿製品ヲ經營ナサレタナラバ宜シイノデアアリマセヌカ、國家ノ大局カラ見レバ、一面ニ於テ資本ノ橫暴、資本家ノ專横ヲ防グト同時ニ民衆ノ利益ヲ圖リ、又輸出貿易ヲ盛ニスルト云フコトガ此趣意ニナリテ居ルノデアリマス、之ヲ要スルニ尙ホ憲政會カラモ革新俱樂部カラモ同様ノ建議案ガ提案サレテ居リマス、私共ハ此實際問題ニ付キマシテハ、カメテ實際的ニ之ヲ攻究シ、政府當局ノ反省ヲ促シ、サウシテ内地ニ於テハ吾々國民ノ生活問題ヲ緩和シタ、生活問題ヲ緩和スルニ付キマシテハ、食物ノ自給自足ト、若ル物ヲ安ク提供スルト云フコトガ、國內ニ於テハ國民生活安定ノ主ナルモノデアアル、又國ヲ富マシ、サウシテ我國ノ經濟界ヲ安定サセ、産業ヲ發達スルト云フコトニ付キマシテハ、生絲ト同ジニ綿絲業ヲ盛ナラシメ、輸出ヲ盛ニシテ、我國ノ産業ノ發達ト共ニ、世界ニ於ケル爲替相場ノ平定モ圖リテ行クト云フコトガ本ニナリハセヌカト考ヘテ、此建議案ヲ提出致シタ次第デアリマス、尙ホ詳細ノ事ハ、委員會ニ於テ調査シタル所、及意見ノ在ル所ハ申述ベタイ積リデアリマス、他派カラモ提出サレテ居リマスカラ、私ハ此程度ヲ以テ説明ノ一端ヲ表明シテ壇ヲ降りマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シ質疑ノ通告ガアリマス

(各建議案ノ説明ヲ全部済マシテカラニ願ヒマス)ト呼ブ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 辯明ヲ全部シタ後ニ質疑ヲ許スコトニ致シマス、日程第十八山本芳治君

○山本芳治君 綿絲ノ關稅撤廢案ニ付キマシテ、本員カラモ提案ノ理由ヲ説明致シタイト考ヘテ居タルノデアリマスガ、只今武藤金吉君ノ説明ヲ承リマス云フト、提案ノ理由ハ大要盡サレテ居ルト考ヘマス、加之

本日ハ議長ノ注文モアリマスノデ、議事ノ進行ヲ圖リマス爲ニ、説明ハ委員會ニ於テ致スコトニ致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 日程第十九、提出者飯塚春太郎君

○飯塚春太郎君 本案ハ既ニ武藤金吉君ノ説明ト同一趣旨ノ建議案デアリマス、大要武藤君ヨリ述ベラレマシタ、尙ホ補足スベキ點ハ委員會ニ於テ辯明スルコトニ致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 日程第二十、關稅改正促進ニ關スル建議、提出者太田信治郎君

〔太田信治郎君登壇〕

○太田信治郎君 私人一般關稅ニ關シマスル建議案ヲ提案致シマシタ、簡單ニ提出ノ理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、御承知ノ通り大藏省ノ調ニ依リマス、大正八年以來大正十三年ニ至ル輸入超過ハ二十二億六千萬圓、更ニ植民地ニ於ケル輸入超過ヲ加ヘマスレバ二十七億萬圓ト相成リマス、若シ本年度ノ輸入超過ガ假ニ三億萬圓アツタト致シマスレバ、三十億萬圓ノ輸入超過ト相成リマス、而シテ之ガ爲ニ爲替ガ常ニ片爲替ニナリマシテ、我國ノ爲替相場ハ度々非常ナル變動ヲ致シマス、其結果非常ナル不利ニ相成リテ居ルノデアリマス、而シテ此時ニ當リマシテ最も不備缺點ノ多ク現行ノ關稅ヲ改正致スコトハ、最も必要ト認メマシテ、此建議案ヲ提案致シタノデアリマス、御承知ノ通り現今ノ我國ノ關稅ハ、從價稅ヲ以テ課スルモノト、從量稅ヲ以テ課スルモノト二ツニ相成リテ居リマス、而シテ從量稅ヲ以テ課シマスモノハ明治四十一年ノ物價ノ標準ト致シ、ソレヲ基礎トシテ組立デマシタ所ノ價格ニ從量ヲ以テ決定ヲ致シマシタル所ノ從量稅デアリマス、然ルニ御承知ノ通り世界ノ大戰以來物價ハ非常ナル變動ヲ致シマシタ、今日ハ當時カラ見マスレバ三倍以上ニモ相成リテ居ルノデアリマス、而シテ一方ニハ從價稅ヲ以テ課シテ居リマスモノハ、時々ニ相場ノ變動ニ順應致シマシテ、課稅ノ標準ガ異ナリテ居リマスケレド

モ、從價稅ヲ以テ課シテ居リマスモノハ、安イ當時ノ價額ノ儘課セラレテ居ルモノモアルノデアリマス、之ガ爲ニ課稅ガ不均衡ニナリテ居リマス申シマスルコトハ、甚シク差ヲ生ジテ居ルコトハ申スマデモナイノデアリマス、而シテ此改正ヲ致シマスルコトハ、今日輸入超過ヲ防止致シマス上カラ申シマシテモ、全ク必要デアルト云フコトニナルノデゴザイマス、爾カ致シマシテ凡ソ何處ノ國デアリマシテモ、其國ノ産業ヲ保護スル爲ニ、關稅ト云フ堤防ヲ其處ニ設ケテ、サウシテ國內ノ産業ヲ保護シテ居リマスルコトハ、世界ノ今日經濟政策ノ大勢ト申シテ宜シイノデアル、然ル所我國ハ其大勢ニ反キマシテ、サウシテ内地ノ産業ヲ破壞致シマスルヤウナ關稅ガ制定致サレテ居リマスコトハ、私ガ茲ニ申上ゲルマデモナク、實例ヲ御考ニナレバ分ルノデアル、大正元年マデニ我國ノ關稅ハ有稅品、無稅品ヲ平均致シマシテ、總額ノ約一割ニ當リテ居ル、然ル所最近十箇年間ノ平均ハ同ジク無稅、有稅品ヲ平均致シマシテ、約四分七八厘ニシカ當ラヌノデアリマス、左様致シマスル物價ガ上リマシテ貿易額ガ増加致シマシタ結果、關稅ノ定率ハ非常ニ變動ヲ致シマシタ、寧ろ非常ニ關稅率ガ低落致シマシタコトハ全ク變態デアリマス、是ハ要スルニ現在ノ關稅ノ不備ダト云フコトハ、此一點デ御分リニナルグラウト思フノデアリマス、然ラバ外國ハドウデアルカ、御承知ノ通り米國ナドハ非常ナ大產生産ヲ致シマシテ、世界ニ向テ一六輸出國デアリマス、ソレニモ拘ラズ産業ヲ保護スル爲ニ、或ハ機械類ノ如キハ三割、織物類ノ如キハ四割ト云フヤウナ重稅ヲ課シテ居リマスノハ、全ク内地ノ産業ヲ保護シ、輸出入ノ均衡ヲ得セシメシガ爲ニ此關稅政策ヲ採リテ居リマスコトハ、之ニ依リテ見テモ明デアリノデアリマス、又世界各國ノ關稅收入額ヲ調ベテ見マスルト、英、米、佛、伊等ハ各、一割内外ノ關稅收入ヲ得テ居リマス、然ルニ我國ガ獨リ四分八厘ト云フ低位ニ居ルト云フコトハ、關稅政策ノ全ク不備デアルト

云フコトニ歸著致スノデアリマス、實例ト致シマシテ現ニ關稅ノ制定當時ニハ、從價二割ヲ以テ加算ヲ致シマシタモノガ、今日ハ六分位ニナリテ居ルモノガアル、或ハ七分ニナリテ居ルモノモアル、電動機ノ機械ノ如キハ二割ノ制定デアッタモノガ、今日ハ九分ニナリテ居ル、鑄鐵管ノヤウナ鐵類ノヤウナモノハ、從價二割ヲ以テ其當時制定シタモノガ今日ハ六分ニナリテ居ル、鐵道ノ機關車ノ如キモ從價二割カ二割五分位ニ制定サレタモノガ、今日ハ一割ニ至リテ居ル、米國ハドウデアルカト云フト、米國ハ之ニ二割五分ノ課稅ヲ致シテ居リマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、全ク我國ノ關稅ノ不均衡デアルト云フコトハハ明ニ相成ルノデアリマス、又織物ノ如キニ及ビマシテモ、日本ノ毛織物ハ非常ニ最近多額ノ輸入ガアリマシテ、最近マデ僅ノ間ニ殆ド八倍ノ輸入ヲシテ居リマス、而シテ輸入ヲ致シマスル元ハ多ク英國デアル、英國ノ織物ヲ一番世界ニ於テ餘計需要致シテ居リマスノハ日本デアリマス、日本ニ二割内外ノ織物ヲ供給ヲ致シテ居ル、元英國ノ織物ハ盛ニ亞米利加ニ輸出致シマシタ時分ニ、亞米利加ハ内地ノ産業ヲ保護シ、國內ノ自給自足ノ計ヲ立ツル爲ニ、十割ノ課稅ヲ致シマシタ、然ルニ現在我國ノ輸入稅ハ僅ニ七分内外デアル、又生絲ノ如キモノモ最近ニ至リマシテ、僅ニ三年間ノ間ニ二十倍ノ輸入超過ヲ致シテ居ル、斯様ニ我國ノ關稅ハ非常ニ低率デ僅ニ六分内外、亞米利加ニ於テハ之二十割以上ノ課稅ヲ致シテ居リマス、斯様ナ次第デアリマスルカラシテ、我國ノ輸入ノ年々増加ヲ致シマスノニ、非常ニ便利ナル關稅デアリマス、彼ノ關稅政策ノ爲ニ一層輸入額ガ増加スルト云フコトハ、全ク此一點ニ在ルト私ハ思フノデアリマス、併ナガラ御承知ノ通り我國ハ原料ニ乏シイ國デアル、天產物ニ洵ニ乏シイ國デアリマスカラ、原料ト致シマシテハ海外ヨリ輸入スル物ノ關稅ヲ引下ゲ、サウシテ内地ニ於テ之ヲ製造ヲ致シ、ソレヲ海外ヘ輸出致シマスルコトニナリマセスケレバ、到底内地ノ輸出入ノ均衡ヲ得ルコ

トガ出來ナイト思ヒマス、輸入品ニ於キマシテモ、同ク輸入品ニ致シマシテモ、原料トシテ輸入スル物ニ對シテハ、是ハ成ベクハ無稅主義ヲ採リタイト思フノデアリマス、所ガ現今ノ關稅政策ハ全ク是ハ矛盾致シテ居リマス、一例ヲ申シマスレバ、鋼鐵ノ課稅ノ如キハ、大正十年ニ從來從價五分ノ關稅ヲ一割五分ニ引上ゲタ、一割五分ニ引上ゲタモノヲ以テ造ル所ノ機械ハドウデアリカト申シマス、機械ハ前ニ申上ゲマシタ通り、非常ニ低率ナル稅金ヲ以テ之ニ課シテ居リマス、故ニ原料ガ高クテ、其高イ關稅ヲ課セラレル所ノ高ク付ク原料ヲ以テ内地ノ工業家ノ造タ機械ヲ、安イ原料デ大量生産ヲ以テ低廉ナル資金ニ依リテ拵ヘタ所ノ外國製品ト、競争ヲ致サナケレバナラヌト云フヤウナ場合ニ居リマスカラ、内地ノ工業家ノ發展ヲ致シマセヌデ、非常ナル困難ノ立場ニ在ルト云フコトハ此一事ヲ以テモ分ルノデアリマス、然ル所關稅所ニ依リマス、此原料タル所ノ鐵類ノ保護政策トシテ、或ハ鐵ノ自給自足ト云フヤウナ計畫ノ爲ニ、關稅ノ引上計畫ヲセラレタコトガアツタカノ如ク關稅マシタガ、右様ナ事ガ若シ行ハレマス、致シマシタガ、國內ニ於ケル所ノ工業家ハ、全ク破產狀態ニ立至ルヨリ外仕方ガナイト思フノデアリマス、若シ一朝左様ナ事ガゴザイマシタナラバ、我國ノ工業家ハ海外輸入品トノ競争ニ堪ヘズシテ、是ガ全敗ヲ致スヤウナコトガゴザイマシタナラバ、大變ナ問題ガ起ルデアラウ、之ニ從事シテ居リマスル所ノ勞働者ハ、或ハ非常ニ失業セリタカモ知レヌ、失業セリタカモ知レヌ、社會政策的ニ偉大ナ問題ガ茲ニ起ラウト思フノデアリマス、而シテ此機械ノ輸入額ハ——大正十三年ニ於ケル所ノ機械ノ輸入額ハ總額二億三千九百萬圓デアル、此二億三千九百萬圓ノモノガ若シ原料ノ輸入致シマシテ、内地ニ於テ製成致シマスコトニナリマスレバ、此原料ノ價格ト云フモノハ總機械ノ價格ノ三分ノ一若クハ四分ノ一デアリマス、假ニ之ヲ三分ノ一ト致シマシテモ、

僅二七千萬圓ノ輸入ヲ致シマスレバ、一億六千萬圓ノ輸入ヲ防止セラルコトニ相成リマス。國內ノ産業ヲ發展セシメテ、尙且輸入超過ヲ防止スルコトガ出來ルト致シタラバ、國家ノ爲ニ大ナル好結果ヲ生ズルコトデアラウト思フノデアリマス。併ナガラ是等ノ問題ハ要スルニ區々ノ問題デアリマス。大體、於テ我國ニ於テハ天產物ニ乏シノデアリマス。此原料ニ付テハ、成ベク低廉ニ之ヲ輸入スルコト云フ方法ヲ採ラナレバ、方々ノ御意見モ御尤デアリマス。併ナガラ其原料ヲ加工精選ヲ致シマシテ輸出スルコトニ付テハ、方法ガ確立致シマセヌケレバ相成リマセヌノデアリマス。之ニ就テハ此製作品ニ付テハ、所謂製造品ニ付テ出來上タル物ニ付テハ輸入ヲ調節致シマセヌノニハ、ドウシテモ關稅政策ト云フモ、必要ノ感ズル次第デアリマス。御承知ノ通り現在ノ貿易狀態ノ不利ハ、或ハ論者ハ金ノ輸出解禁ヲ唱ヘ、或ハ種々ナル議論ガアリマス。之ヲ要スルニ貿易ノ均衡ヲ得セシメナレバ止マナイノデアリマス。貿易ノ均衡ヲ得セシメルニハ、ドウシテモ内地ノ産業ヲ發達セシメ、内地ノ工業家ガ總テ自給、進シテ海外ニ之ヲ輸出シテ均衡ヲ保タシメルコト云フヨリ外ニ政策ハ無イノデアリマス。此根本問題トシテハ、全ク内地ノ産業政策ニ重キヲ置イタル所ノ事柄ナラナレバナラヌト思フノデアリマス。併ナガラ之ヲ縱斷ニ議論ヲ致シマスレバ、個々ノ物ニ付テハ社會政策トシテ或ハ關稅ノ撤廢ノ議論モアリマセウシ、或ハ又此關稅ノ引上ヲ爲サナレバナラヌト云フ物モアリマセウケレドモ、是ハ縱斷的ニ縱ニ其物々々ツニ付テノ事柄ニ付テハ、左様ナ議論モアリマセウガ、左様ナ議論ニ拘泥致シテ居リマシテハ、一般ノ關稅ヲ改正スルコトハ出來ナイ、私共ハ各種ノ品柄ニ付テ色々先刻來論ジ、其他ニ付テ御議論モアリマシタガ、是等ノ關稅ノ改正ヲ爲サルコト云フコトモ必要ガアルト存ジマス

ルガ、ソレハ個々々々ツニ付テノ橫斷的ノ事デアアル、縱斷的ノ事デアアル、左様ナ事柄ヨリハ寧ろ國家經濟、我國ノ産業政策ニ付テハ如何ニスルカト云フコトヲ大體ト致シ、更ニ國民生活ニ安定ヲ得セシメ、國民ノ生活ノ必需品ヲ低廉ニ供給スルコト云フコトヲ緯ト致シテ、此大方針ノ下ニ於テ關稅政策ヲ行ハナレバナラヌト私ハ思フ、ソレヲ矛盾シタル輸入業者ニ非常ナ便利デアルトカ、或ハ不便デアルトカ、或ハ一ツノ業務ニ付テノ縱斷的ノ事ニ拘泥ナサテ、此關稅ノ改正ヲ爲サルコト云フコトハ、甚ダ間違テ居ルコトデアアル、是ハサウシタイデアアリマセウケレドモ、左様ナ事ニ顧慮致シマシテハ、此問題ノ解決ヲスル時機ハ何時モ無イノデアリマス。丁度論者ノ議論デ申シマスレバ、柳ノ枝ニ櫻ノ花ヲ咲カセヤウトシ、夏ノ土用ノ暑キ日ニ雪見ヲシタイト云フノデ、出來ナイ事デアリマス。兩方良イコトハ到底出來ナイ、是ニ於テカ大方針ヲ定メテ、ソレニ依テ國內ノ産業ノ方針ヲ定メルコト云フコトハ、私ハ必要デアルト信ズル者デアリマス。只今ハ關稅改正ニ非常ニ好イ時機デアリマス、第一ニ日英協定ガ既ニ滿期ニナラテ居ル、之ニ依テ爭ガ生ジテ居リマシタ所ノ事柄ガ全ク取レタノデアリマス。更ニ關稅ヲ改正致シマスルト、海外ノ輸入業者ノ見越輸入ヲ致スト云フヤウナ方法モアリマシタガ、今日ノ日本ノ經濟界ガ斯ノ如キ不況ニ在リマス。此見越輸入ト云フコトハ今日デハ出來ナイ狀態ニ居リマス。又世界各國ニ於テモ、我國ニ於テ關稅ヲ引上デレバ、報復的ニ關稅ノ引上ヲ行フデハナイカ、然ルニ今日ノ我國ハ曠古未會有ノ大震災以來、非常ナ經濟界ニ動搖ヲ來シテ居ル、今ヤ此一大改革ヲ致シマセヌケレバ、日本ノ經濟界ノ前途ヲ奈何セント云フ場合デアリマス。世界各國モ之ニ同情ヲ持テ居ル次第デアリマス。此時代ニ相手ガ報復的ニ關稅ヲ引上ノ政策ヲ執ル必要モナカラウト思フ、斯様ナ好時機ニ於テ是非政府ハ此關稅ヲ改正致シテ、專ラ當業者ノ反對、輸入業者ノ便利、或ル特殊ノ者ノ反對論ナドヲ考慮ナサル必要ハナイト思ヒマス。斷然國策ノ上ニ根本政策ヲ樹テ、關稅ノ改正ヲ爲サイマスレバ、直ニ此輸入ノ均衡ヲ恢復スルノミナラズ、又我國ノ關稅收入ヲ增加致シマシテ、其增加致スノ目的デアハリマス。マイケレドモ、結論ニ於テ増加ヲ致シマシタモノヲ他ニ利用ヲ致シマシテ、農村振興、其他國民ノ負擔ノ輕減等ニ充當致シマス。コトガ出來タラバ、非常ナ結構ナ事ト私ハ信ズルノデアリマス。是非此場合ニ改正案ヲ御提案アラント希望致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 日程第二十一、提出者平野光雄君

○平野光雄君 議長——當席ヨリ申述ベマス、本建議案ハ一方食糧問題ノ解決ノ一助デアルト思フ、他方ニ於テ農村振興ニ少カラザル效果ヲ齎スモノデアラテ、先程武藤君ノ御述ニナリマシタ綿絲關稅ノ撤廢ニ劣ラザル、國民生活上ニ至大ノ關係ヲ有スル問題デアリマス。議事轉換ノ際、特ニ議長カラノ御注意モアリマス。議場德義ヲ重シマシテ、當席ヨリ簡單ニ提案ノ趣旨ヲ申述ベマス、目下我國ニ輸入セラレマスル所ノ支那卵、此輸入額ハ三四年來年額一千七百萬圓ニ及シテ居リマス、是ト共ニ此卵ヲ乾燥シタル物、即チ粉卵若クハ乾燥卵ト謂ハレテ居ル物モ少カラザル額ニ上テ居リマス。然ルニ一方生卵ノ多大ノ輸入ノアルニ拘ラズ、乾燥卵ノ輸入ノソレニ比例セザルハ、當局ガ如何ナル見解ノ下ニ從來禁止的ノ高稅率ヲ課シテ居タカ——生卵ト乾燥卵トハ自ラ用途ガ違テ居リマス、生卵ナラザレバ能ハザル所ノモノハ即チ食料上、調理上ニ必要ナルモノト、然ラザルモノ、加工品或ハ藥品乃至ハ其他ノ需要ニ充サル、所ノモノガ乾燥卵デアラバ、故ニ乾燥卵ノ輸入關稅ヲ低下スルナラバ、從來生卵ノ輸入額ヲ低タモノハ、其輸送關係、又ハ保存等ノ便ニ照シテ、十分乾燥卵ニ是ガ向ケラレテ來ルノデアリマ

ス、先程申ス通り其用途ハ違テ居リマス、而モ經濟關係カラシテ、生卵ガ自ラ乾燥卵ニ向ケラレマシテ、ソレダケ生卵ノ輸入ハ減退サレ、防止サレルノデアリマス、此結果ハ言フマデモナク、我國ニ於ケル養鶏業、即チ農村振興ノ一ツタル所ノ養鶏業ニモ間接ノ效果ヲ齎ス、而モ我が國民ノ最も缺乏シテ居ルト謂ハレル「ウィタミン」ニハ專ラ卵ニアルノデアリマス、是ハ學者ノ定説デアリマス、然ラバ此乾燥卵ヲ安價ニスルコトハ、一方ニ於テ養鶏業ヲ助ケ、他ニ於テハ國民ニ安價ナル「ウィタミン」ヲ供給シ、即チ「ウィタミン」ノ民衆化トナリ、一舉兩得ノ妙案ト思ヒマス、詳細ハ委員會ニ於テ説明致シマス、既ニ當局ニ於テモ此案ニ付テハ御諒解ニナラテ居リマス、今マデハ餘リ高率過ギタカラ、近ク改正サルベキ關稅定率ニ於テ、當局モ之ヲ引下ダヤウト云フ御意見デアリマス、願クハ滿場ノ御賛成ヲ得マシテ、國民生活ノ爲ニ、農村振興ノ爲ニ此案ヲ通過ヲ欲シテ已マナイ者デアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 日程第二十二、山本厚三君

○澤田利吉君 議長——私ヨリ説明致シマス——澤田利吉君

○副議長(小泉又次郎君) 澤田利吉君

(澤田利吉君登壇)

○澤田利吉君 此案ハ最も重大ナル案デアリマス。故ニ、成ベク簡單ニ申述ベマス。暫ク御清聴ヲ煩シマス、農村振興ト云フ問題ハ我が國家ノ朝野ノ大問題デアリマシテ、此事ニ對シテハ共ニ苦心シテ居ル事柄デアリマス、サウシテソレニ對シテ如何ナル策ヲ執ルカ、種々様々ナ對策ガアリマス、其中デ最も吾々ハ斯クナリテハナラヌト信ズルコトハ、過去ノ日本ノ農業政策ハ穀物ヲ主トシテヤテ居ル、ソレガドウシテモ將來有畜農業デナクテハナラナイ、農業ニ家畜ヲ加ヘタ有畜農業デナクテハナラヌト言フコトハ學者、識者、實際家ノ唱道シテ居ル所デアリマス(發言スル者アリ)大切ナ問題ダ、暫ク聴キ給ヘ、農家ノ現在ノ狀態

ヲ見ルトドウカト申シマスルニ、第一肥料
ガ高イ、得ル品物ヲ以テ肥料ヲ買フト云フ
コトニ算盤ガ合ハヌト云フコトクラシテ、
段々ト地方ガ減耗スル、地方ガ減耗スル
同時ニ、作物ノ取高ガ不足ニナツテ來ル
云フコトモ主ナル原因デアリマシテ、之ニ
家畜ヲ加ヘルコトニ依テ自給肥料ヲ得ラ
レ、ソレニ依テ收穫ヲ増スコトガ出來ル、
サウシテ農家ノ收入ヲ舉グルコトガ出來
ル、デアルカラドウシテモ有畜農業ヲセン
テレバナラヌ、今一ツハ國民ノ食物モ進化
シテ居リマス、年々ト畜産ニ依テ得ラル
ル所ノ乳製品等ガ、國民ノ間ニ段々ト消費
セラレバウニナツテ來テ居ルノデアリマ
ス、デアルカラ國民食糧ノ改良トモ相俟
テ、日本ノ將來ノ農業ハ、ドウシテモ畜
農業ニ最モ力ヲ入レンケレバナラヌト云フ
コトガ、專ラ定タル議論デアリマス、併
ナガラ今我國ノ此方面ノ狀態ハドウデア
ルカト申シマスルニ、長ラクノ間唯、穀物ヲ以
テノミ食糧トシテ來タ國民ノ間ニ於テハ、
歐米人ノソレノ如ク、未ダ乳製品等ガ汎ク
一般ニ用キラレテ居ラヌデ、主トシテ製
造品——生乳ヲ用キル以外ハ製造品トシテ、
煉乳トシテ用キラレテ居ル、ソレハ子供ニ
用キル乳用トシテ多ク消費シテ居リマ
ス、デ之ヲ統計上極ク簡單ニ申シマスガ、
大正元年ニ於キマシテ日本ノ消費高ガ九
百九十幾萬斤デアツテ、國內デ生産シタ
物ガ二百十六萬四千斤、輸入品ガ七百八
三萬斤、斯様ナ數字デアツタガ、十二年
度——一昨年ニハ國內品ノ製品ガソレノ六
倍ニナツテ、千二百幾十萬斤ニナツテ居
ル、輸入品モ千五百萬斤ニナツテ居ル、ズ
ト年度ヲ通ジテ行ケバ大變宜イノデアリ
マスケレドモ、時間ヲ節約シテ簡單ニ飛
ビ々々ニ申シマスガ、此輸入ノ狀態ハ大
正元年カラ七年マデニ日本ノ製品ハ段々
々々増加シテ來テ、ソレニ反シテ輸入品
ハ段々減退シテ來テ居ルノデアリマス、
戰争後——歐洲戰争ノ時最モ此輸入ガ不
足デアツタノヲ、彼ノ震災當時ニ於テ一
時輸入税ヲ撤廢シタ、ソレニ依テ再ビ輸
入高ヲ高メ

マシテ、遂ニ今日ノヤウナ有様ニナツ
テ居ルノデアリマス、斯様ナ狀態カラ致
シマシテ（現在此牛、詰リ牛乳ヲ以テ製
造シテ居ル所ノ總テノ業者ガ、非常ナ窮
地ニ陥ル、ソコデ今マデハ牛ノ乳ヲ製
造家ガ一升十七八錢乃至二十錢マデ買
フテ居リマシタケレドモ、今ノ有様デハ
三十四錢乃至五錢マデ、ソレ以上ニ買
フテハ製造家ガ合ハヌト云フコトニ
ナリマス、生産スル所ノ農家ハ左様ニ
賣リマシテハ、是亦到底今マデ發達シ
テ來タ所ノ其半ヲ、尙ホ飼育行クコト
ハ出來ナイト云フヤウナ有様ニナツ
テ居ルノデアリマス、ドウシテモ此際ハ
關稅ヲ引上ゲテ戴キマシテ、サウシテ
漸ク發達シテ來タ此事業ヲ助ケテ行
カケレバ、將來取返シノ付カザルコト
ニナルト云フノデアリマス、關稅引上
ヲシテ結果ガドウナルカト云フコト
ニ對シテ、或人ハ今外國カラ這入テ來
テ居ル其輸入品ガ、若シ關稅引上ニ依
テ輸入シナクナツタナラバ、日本ノ需
要ニ對シテ內國品ニ依テ之ヲ充タス
コトガ出來ルカドウカト云フ問題ガ一
ツ、今一ツハ外國品ガ優良デアアル、
日本品ガ惡イ爲ニ、左様ナ結果ニ陥
ルテ居ルノデアリマス、今一ツハ外國
品ハ品物ガ優劣ニ關シテ、今一ツハ
關稅ヲ引上ゲタナラバ、內國品ガ高
クナル、所謂今日ノ社會政策上、此品
物ノ消費者ハ主ニ中流以下乃至子供
ニ多ク用キラレモノデアリマス、左
様ナ結果値高クナリハセヌカト云フ
ノデ、一面ニ心配スル人ガアルノデア
リマス、此三ツノ問題ニ對シテハ、私
ハ如何ニ外國品ガ這入ラナクナリ
マシテモ、日本ノ品物ニ依テ現在ニ
供給スルコトガ出來ルト云フコトハ、
優ニ日本ノ社會ガ十一アリ、工場ガ
十二アリ、其製造能力ハ一日ニ生乳
ヲ一千二百石使フタケノ能力ヲ持
テ居ラナイト云フコトデアリマス、
又日本ノ耕地ハ畜産ニ適シナイノ
デアリマス、又日本ノ耕地ハ畜産ニ
適シナイノ面積ニシテ、牛三百萬頭
有シ、乳製品六億ヲ輸出シテ居ル、
ソレニ鑑ミ、又

日本ノ今日ノ新業ノ發達ノ狀態ニ鑑ミ
テ、決シテ左様ナ心配ハナイ、品物ノ
善惡ノコトニ付テハ、既ニソレト試験
場等ニ依テ試験セラレテ居ルノデア
リマス、決シテ惡イコトハナイ、唯、
日本ノ今マデノ輸入品ヲ崇拜シテ
居ル、所謂輸入品ガ良イ、舶來品ガ
良イト云フ此思想ノ爲ニ今日外國
品ガ多ク迎ヘラレテ、日本品ガ其
通りニ行ケラヌト云フヤウナコト
デアアルノデアリマス、善惡ト云フ
コトニ付テハ、決シテ外國品ニ劣
ラナイト云フコトヲ斷言シ得ラ
レルノデアリマス、然ラバ價格ヲ上
ゲナイカ、關稅ヲ引上ゲルト云フ
コトハ價格ヲ騰貴サセルデアリ
マス、此事ニ對シマシテハ聲明ヲ
シ、既ニ大藏省乃至農商務省ニ向
テハ如何ニ關稅ヲ引上ゲタリト雖
モ、決シテ値上ヲ爲サヌト云フ公約
書ヲ納メテ居ル次第デアリマス、
何故然ラバ左様ナコトニナルカト
申セバ、今或ル力ヲ持テ居テ其
力ヲ用キテ居ラナイ、ソレガ全
能力ヲ出シマスルト生産費ガ安
クナルカラ、却テ安く賣リ得ル
ト云フコトニナリマス、今ハ會
社ガ製造能力ヲ持テ居リツ、其
力ニ満足ラナク、品物ヲ拵ヘル
コトガ出來ヌカラ、高ク賣ラ
ナケレバナラヌト云フコトニ
ナツテ居リマス、此事ニ付テハ
モッテ申上ゲタイノデアリマス、
此位ニシテ置キマス、要スル
ニ決シチ高ク賣ラナイト云フ
コトニナルノデアリマス、然ラバ
其關稅ヲ引上ゲタト假定致シ
テ、何時マデ其關稅ヲ其儘ニシ
テ置カト云フニ、是ハ假定的ノ事
デアリマスケレドモ、十箇年位
此關稅引上ニ依テ保護政策ヲ執
テ賞々ナラバ、今マデノ增加率、
總テノ人口ノ増加及消費、輸入
品等ノ增加率カラ之ヲ見マス
ト云フ、今後十年ノ末ニハ日本
ニ於テ消費スル所ノ其數量ハ一
億一千二百萬斤位消費スルコト
ニナルノデアリマス、サウシテ
製造高ガ一億六千四百萬斤位
製造シ得テ、輸入品ヲ防遏シ
テ更ニ五千二百萬斤ヲ輸出ス
ルト云フコトニナリマス、其時
ニ至リマスレバ既ニ其關稅ハ撤
廢シテ自由貿易ニ依テ

テ此事業ガ發達シテ行クノデア
リマス、要スルニ此問題ハ農
村振興上ノ重大ナル問題ニシ
テ、國民ノ食糧ノ改良ト、輸入
ヲ防遏シテ輸出ヲ増ス現下ノ大
切ナル國策ノ一デアリ、又我國
ノ農民ヲ此窮地ヨリ活カス所
ノ重大ナル案件デアリマシテ、
曩ニ請願委員會ニ於キマシテハ、
北海道ヨリ九州ニ至ル農家一
萬五千名連名ヲ致シマシテ、
請願書ガ出テ居ル重大ナル案
件デアリマス、尙ホ詳細ノ事ハ
委員會ニ於キマシテ精シク申
述ヘマスルガ、何卒諸君ハ一
致此案ニ賛成ヲ與ヘラレンコ
トヲ希望致シマス（拍手起ル）
○副議長（小泉又次郎君） 質疑ノ通告ガアリマス、武藤山治君
（武藤山治君登壇）
○武藤山治君 只今一括サレテ議
題トナリマシタル中ノ綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル議
案ニ付テ私ハ御質問申上ゲタイ
ト考ヘマス、私ハ本案ニ對シマシ
テハ直接利害關係者デアリマス
ルガ故ニ、此案ガ委員會ヲ通
過シ、本議場ニ於テ討議セラル
ル場合ニ於キマシテ賛否ノ意見
ヲ述ベ、若クハ表決ノ數ニ加
ハルト云フコトハ遠慮シタイト
考ヘテ居ルノデアリマス、併ナ
ガラ私ガ本案ニ從事致シテ居
リマス經驗ヨリ、本案ガ委員
會ニ付セラル、此場合ニ於キ
マシテ私ノ見ル所ヲ申上ゲテ、
皆様ガ本案ニ對シ御判斷遊
パス參考ニ供スルコトハ私ノ義
務ナリト信ズルノデアリマス
（質問デヤナイカ）ト呼フ者アリ
勿論質問デアリマス、只今政
友會ノ重鎮武藤金吉君ヨリ本
案ニ對シ詳細ナル御説明ガ
アツタノデアリマス、而シテ
武藤君ノ御説明ノ中ニ特ニ私
ノ名ヲ呼上ゲテ、サウシテ或
場合ニ於キマシテハ私個人ノ
人身攻撃ニ關スル點ニマデ及
ボサレタノデアリマス、然ル
ニ此武藤金吉君ノ御述ニナ
リマシタ中ニハ事實ニ相違
シテ居ル所ガ少クアリマセ
ヌ、故ニ私ハ是等ノ點ニ付キ
マシテ私ノ見ル所ヲ申上ゲ、
武藤金吉君ノ御辯明ヲ仰ギ
タイト思フノデアリマス、第
一ニ武藤金吉君ハ社會政策
ヲ貿易政策ヲ提ゲテ綿絲ノ輸

入關稅撤廢ノ必要ヲ高唱セラレタノデアリマス、此點ニ付テ私ガ武藤金吉君ニ伺ヒタ
イノハ、若シ眞ニ武藤金吉君ガ社會政策ノ
見地ヨリ此案ヲ御提出ニナリマシタナラ
バ、何故ニ綿絲ノミナラズ綿織物ノ輸入關
稅撤廢案ヲモ御提出ニナラナカッタカト云
フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、更ニ私ガ武
藤金吉君ニ伺ヒタイノハ、若シ眞ニ武藤金
吉君ガ社會政策ノ上ニ斯程マデ御心配ニナ
リマスナラバ、武藤金吉君ノ屬スル政友會ハ
絕對過半數ヲ持テ長イ間内閣ヲ組織セラ
レテ居タノデアリマス、其間ニ何故ニ織
物稅ヲ撤廢セラレナカッタカト云フコトヲ
伺ヒタイノデアリマス、斯ノ如ク若シ社會
政策ノ見地ヨリ本案ヲ御提出ニナリマシタ
ナラバ、單リ綿絲ノ輸入關稅ノミナラズ、
莫大ニ及綿織物ノ輸入關稅撤廢モ同時ニ本
案ノ中ニ私ハ御籠メニナラナカレバナラヌ
モノデアルト考ヘマスガ、此點ハ如何デア
ルカト云フコトヲ御伺ヒタイノデアリマ
ス、更ニ武藤金吉君ハ綿絲紡績業者ガ何カ
特別ノ國家ノ保護ヲ受ケテ居ルヤウニ御述
ニナタヤウデアリマスガ、綿絲紡績業者ハ
輸入關稅ニ依テ國家ノ保護ヲ受ケテ居ル
外ハ何物モ保護ヲ受ケテ居ラヌノデアリマ
ス、惟フニ此武藤金吉君ノ述ベラレタノ
ハ、蠶絲業者ガ時々困タ場合ニハ帝國蠶絲
會社ナドヲ拵ヘテ、サウシテ國家ノ保護ヲ
受ケラルヘカ、其事ヲ誤解セラレタノデ
ハナカラウカト思ヒマス、吾々綿絲紡績業
者トシテハ綿絲輸入關稅ノ外ハ何等ノ保護
ヲ受ケテ居ラヌノデアリマス、故ニ此點ニ
付テ武藤金吉君ハ綿絲紡績會社ガ此輸入關
稅ノ外ニ國家ノ保護ヲ受ケテ居ルト御述ニ
ナリマシタガ、吾々如何ナル保護ヲ受ケ
テ居ルカト云フコトヲ御指摘ヲ願ヒタイノ
デアリマス、更ニ私ガ武藤金吉君ニ御尋
シタイノハ、此紡績會社ノ高率配當ニ付テ
武藤金吉君ハ甚シク非難セラレタノデアリマ
ス、是ハ一般ニ誤解セラレ、點デアリマス
ケレドモ、此點ニ付テハ私ハ極メテ簡單ニ
皆樣ニ御説明申上タルコトガ出來ルノデア
リマス、若シ二十年前ニ東京ノ眞中デ一坪

五十圓ノ地面ヲ買タ、ソレガ今日五百圓
ノ相場ニナリテ居ル、之ニ對シテ地代ガ一
箇年三十五圓所得セラル、場合ニ於キマシ
テハ、其二十年間ノ五十圓ノ買入額ニ對シ
テハ七割デアリマスガ、今日ノ五百圓ノ相
場ニ對シテハ七分ヨリ當リマセヌ、綿絲紡
績業者ノ高率配當ハ詳細ニ御調ニナタナラ
バ、此一ツノ事實ヲ御考ニナレバ容易ニ御
了解ニナルノデアリマス、今日世間ニ此戰
争後出來タ所ノ紡績會社ハ一錢ノ配當モシ
ナイモノモ澤山アルノデス、是ハ即チ綿絲
紡績業者ト云フモノガ今日ノ工場ヲ建テ、
今日ノ機械ヲ買入レ、バ利益ガナイト云フ
ノガ、即チ今日ノ現狀デアリマシテ、高率
ノ配當ヲスルト云フノハ、明治十八、九年
頃カラ一錢二二三圓ノ頃ノ機械ヲ買入レ
テ、ソレガ日露戰爭頃ニ五、六十圓ニナ
リ、此度ノ大戰争ニソレガ二百圓前後ニナ
タ、斯ウ云フ方法ニ依テ高率配當ヲシテ居
ルノデ、恰モ二十年前ニ買タ、ソレガ三十
圓ノ地代ヲ取レバ五十圓ノ原價カラ言ヘ
バ七割ノ配當デアアル、今日ノ値段カラ言
ハセ分ニシカナラヌ、此差異ヲ御考ニナレ
バ斯ノ如キコトハ賢明ナ諸君ガ容易ニ御
理解ガ出來ルト思ヒマスガ、武藤金吉君ハ
尙ホ斯ノ如キ誤解ヲ御持チニナルカドウカ
ト云フコトヲ御伺ヒタイノデアリマス、
更ニ其次ニ私ハ武藤金吉君ノ事實ニ間違
テ居ル點ヲ申上デマスレバ、武藤金吉君ハ
紡績會社ガ操業短縮ヲシテ、市價ヲ釣上デ
ル、斯ウ云フコトヲ御述ベニナタ、所ガ
是程間違タコトハナイ、綿絲紡績業者ハ
社會ニ非難ガアル爲ニ、近年操業短縮ト云
フコトハヤラナイ、全ク其事實ヲ誤シ居
ラレタノデアリマス、一體此綿絲ガ暴騰シ
タト云フコトハ決シテ紡績業者ガ操業短縮
ヲヤタ爲デハナイノデアリマス、即チ是ハ
大正十二年九月十二日大震災ノ爲ニ勅令ニ
依テ輸入關稅ヲ撤廢セラレタ爲ニ、三品取
引所ニ影響シテ、綿絲ノ暴落トナテ、途
ニ基礎ノ弱イ紡績會社ハ工場ヲ閉鎖シタ、
其結果トシテ生産ガ大ニ減少シテ、其結果

市價ノ暴騰ヲ來シタノデアリマス、其處ヘ
爲替ガ下タ爲ニ綿價ノ暴騰トナリ、遂ニ
此綿絲ノ騰貴トナタノデアリマス、然ル
ニ今日ハドウ云フ状態ニ居ルカト申セバ、
即チ非常ニ綿絲ガ高クナッタカラ、休ンデ
居タ所ノ紡績會社ハ工場ノ皆開始シタ、
ソコデ生産ガ非常ニ増加シ、昨今ノ綿絲ノ
相場ト云フモノハ此建議案ガ出タ時分カラ
見レバ非常ニ暴落シテ、今日ハ殆ド不引合
ニ近付イテ居ル、斯ウ云フ譯デアアルカラ、
紡績會社ガ操短ヲスルガ爲ニ此綿絲ガ高ク
ナッタリ下ッタリスル次第ハナイノデア
ルト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒタイト考ヘル
デアリマス、此點ニ付テ御理解ヲ下サルカ
否ヤデアリマス、而シテ更ニ私ハ武藤君ニ
御尋ヲシタイノハ、若シ武藤金吉君ガ綿絲
ノ輸入關稅ヲ撤廢シテ、ソレガ爲ニ綿絲ガ
安クナル、サウスレバ綿織物モ安ク出來ル
カラ非常ニソレガ國家ノ爲ニ利益デア
ルカト御考ニナルナラバ、私ハ其處ニ非
常ニ誤解ガアルト云フコトヲ申上デタイ
ノデアリマス、若シ大正十二年ニ實行サレ
タヤウニ、今日突然綿絲ノ輸入關稅ノミヲ
撤廢サレテ、ソレガ三品取引所ノ相場ニ大
影響ヲシテ、遂ニ此綿絲商賣ト云フモノガ
不引合ニナリマシテ、綿絲ノ或ル部分ト云
フモノハ支那ニ工場ヲ移シテ、其後ハ織物
機械ヲ入レルト云フコトニナルノデアリマ
ス、サウ致シマスト今日紡績會社カラ原資
ヲ仰イデ居ル全國無數ノ織物業者ト云フモ
ノハ、原料ヲ得ルコトニ殆ド困難ヲスル、
全ク是ハ自家操業ノ矛盾シタ一ツノ提案
ト云フコトヲ私ハ申上デタイト考ヘマスガ、
此點ニ付テ武藤金吉君ノ御觀察ハ如何カト
云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、若シ此
綿絲紡績業者ノアル部分ガ不引合デ支那ニ工
場ヲ移シテ原料トシテ賣ラヌデ、自分ノ拵
ヘル綿絲ヲ自分ノ所デ織物機械ヲ入レテ之ヲ
コナサヤウニナリマスレバ、全國ノ織物業
者ト云フモノハ大恐慌ニ陥ルト私ハ思フノ
デアリマス、ソレナラ支那カラ買ヘバ宜イ
デハナイカト云フ議論ガアルカ知レマセ
ス、支那デ使フ絲ノ質ト、日本ノ織物ニ使

フ絲ノ質ト云フモノハ全然違テ居ルノデ
アリマス、故ニ支那ノ工場カラ絲ヲ買ハ
ウトスルト、常ニ日本向ノ絲ヲ註文シテ、ソ
レヲ買溜メ先約シナケレバナラヌ、其危險
ト云フモノハ中々大ナルモノガアルノデア
リマス、故ニ是等ノ點ニ付テ私ハ武藤君ノ
御説明ガドウモ判然シマセヌカラ、其點ニ
付テ武藤君ノ御説明ヲ仰ギタイト思フノデ
アリマス、更ニ私ガ申上デタイノハ、私ハ
武藤金吉君ノ言ハレタ通り、自由貿易政策
ヲ信ズルモノデアリマシテ、自由貿易政策
ト云フモノガ、眞ニ我國ニ最モ有要ナ政策
デアルト斯ウ唱ヘル者デアリマスガ、併ナ
ガラ本案ハ皆樣ニ御考ヲ願ヒタイノハ、唯
綿絲ノミ獨リ輸入關稅ヲ取ル、斯ウ云フヤ
ウナコトヲシマシタナラバ、唯、綿絲紡績
會社ノミヲ苦メ、其結果ハ世ノ中ノ何人ヲ
モ益シナイ、斯ウ云フ結果ニ私ハ殆ルト云
フコトニ付テ御考慮ヲ願ヒタイト思フノデ
アリマス、若シ綿絲ノ輸入關稅ヲ取ラレ、其
事ガ社會政策ノ上ヨリ國家ノ爲ニ必要ダ、
斯ウ諸君ガ御考ニナリマスナラバ、先程申
上デタヤウニ綿絲ノミナラズ、綿織物ノ輸
入ノ關稅モ、亦或ハ綿絲ヲ拵ヘル所ノ總テノ
職工ノ食ヘル所ノ食糧品、綿絲ヲ製造スル
所ノ機關、サウ云フモノモ同時ニ輸入關稅
ヲ撤廢ヲ遊バサナケレバ非常ニ綿絲業者ダ
ケヲ苦メル、斯ウ云フ結果ニナテ、決シ
テ私ハ國家ノ爲ニ利益デナイト考ヘマス
ガ、此點ニ付テ武藤金吉君ノ御意見ハ如
何デアリマスガ、今ヨリ七、八年前ニ彼ノ
有名ナル英吉利ノ「ゴブデン」ノ働キニ依リ
マシテ、英吉利ガ穀物條例ヲ廢シタ時ニ、
唯、穀物ノ稅ヲ取ツタバカリデナイ、英吉利
デ七百五十種ノ品目ノ輸入稅ヲ撤廢シタノ
デアリマス、斯ノ如キ關稅政策ト云フモノ
ハ唯、其一ツヲ拵ヘテ是ガ高イカラ取ツタ
宜カラウ、是ガ安イカラ保護スル爲ニ之ヲ
上デタラ宜カラウト、斯ウ云フヤウニ此考
ニナリマシテ、サウシテ政府ニ向テ御建
議ヲ爲サイマスト、其結果ト云フモノハ私
ハ極メテ不良ナル結果ヲ來スモノト考ヘマ
ス、此點ニ付テ賢明ナル武藤金吉君ノ御高

見ヲ伺ヘバ私ノ仕合ト思フノデアリマス
○副議長(小泉又次郎君) 武藤金吉君

〔武藤金吉君登壇〕

○武藤金吉君 只今武藤山治君ヨリ數種ノ御質疑ガアリマス、同君ハ此事業、此事ニ付キマシテハ最モ能ク知ラレテ居ル、最モ能ク知ラレテ居ル、此質疑ヲ爲スト云フ御心中ヲ御察シ致シマシテ、大部分ハ御意見デアリマス、折角ノ御質疑デアリマス、之ニ對シテ私ハ答ヘヤウト思フ、社會政策ノ見地カラ云、何故綿絲バカリノ關稅ヲ撤廢シテ綿布ノ輸入稅ヲ撤廢シナイカ、是ハ一ツノ御議論デ、尤デアリマスガ、我國ニ入リマス綿布ハ極メテマダ少ナイノデアリマス、又是等ガ我が綿製品ト比較シ致シマシタラバ、私共ハ此綿布ノ輸入關稅ヲ撤廢スルモ相當ト考ヘテ居ルノデアル、更ニ織物稅ニ論及シマシテ、國民生活ヲ安定スルナラバ、何故内地織物稅ヲ廢サナイカト云フ御議論ニ至テハ、此建議案ノ趣旨ト全然異、横車ト私ハ承知シテ御答スル必要ハナイ、ソレカラ保護政策、紡績會社ハ關稅ノ障礙ヲ置クノ外ニ何等保護ガナイト申サレマスガ、關稅ヲ置クト云フコトハ我國ニ於テハ綿絲ノ關稅ハ確カ十數萬圓シカ關稅ヲ取ツテナイ、是ハ要ラナイガ爲ニ置クノデアツテ、收入ノ方カラ行ケバ僅ニ十數萬圓、サウシテ其入ルモノハ僅ニ支那カラ入ルノデアリマス、デ其他ニマダ英吉利カラモ亞米利加カラモ綿絲ト云フモノハ入ラナイヤウニ、此處ニ城壁ガ立ッテ居ル、武藤山治君ハ其他ニ恩典ヲ受ケテ居ナイ、保護ヲ受ケテ居ナイト申サレマシタガ、私ノ承知スル所ニ依リマスルト、紡績會社ハ郵船、商船會社ヨリ他ノ品物ニ比ベテ特別廉價ノ運賃ヲ以テ無數ノ棉花ヲ輸入シテ居ル、ソレデ其他ニ棉花ノ代金ハ六十日拂、九十日拂ノ低利資金デ爲替銀行カラ融通シテ居ル、是ガ結構デナイト申セマセウカ、郵船會社、商船會社ハ國家ノ保護ヲ受ケテ、棉花タケハ特別ニ紡績會社カラ運賃ヲ取ツテ居ルノハ、是ハ如何デアリマスカ(拍手)此他ニ流動資本ヲ要シナイ便

利ヲ持ッテ居ル、一面莫大小工場ヤ、綿製品ノ方ハ現金デ賣ッテ倉カラ出シテ、直グニ賣レバモウ爲替ガ付イテ貸サナイ、而モ紡績會社ハ綿絲バカリデハナイ、絹絲紡績ニシテモ其通り、絹絲紡績ハ議題外デスカラ申シマセウクレドモ、武藤山治君カラ御話ガアツタ、此十大會社ハ日本ノ絹絲紡績ノ如キハ十貫目ノ原料デ三百圓、三百五十圓モ儲ケテ居ルデハナイカ(拍手)其他ノ綿織業者、莫大小小業ト云フモノハ金ヲ持ッテ來ナケレバ原料モ入ラナイ、其又組織ト云フモノモ紡績會社ノ方ハ紡績聯合會ト云フ金城鐵壁ヲ築イテ、仕事ハ操業短縮ヲヤラウトスレバ操業短縮モ出來ル、深夜業モ全夜業モヤル、或ル場合ニハ賣止メヲスル、日本ニ於テ資本家ノ橫暴、資本家ノ一種ノ「トラス」ヲ行ッテ居ルノハ紡績會社ヨリ外ニナイデハナイカ(拍手)而シテ紡績事業ト他ノ事業ト權衡ヲ取ッテ御覽ナサイ、貴下ハ自由貿易論ヲ唱ヘテ居ルガ、是ダケハ國家ノ保護ガ必要デアルト云フ、何所ニ理由ガアルカ、此點ニ就テハ保護政策關稅ノ保護ノ法ガサウト云フコトハ、折角ノ御尋デアリマスガサウ云フ保護ガアル、ソレカラ又操業短縮ハ今ハヤラナイト云フ、サウ操業短縮ヲ始終ヤッタキニハ堪、タモノデヤナイ、又生絲ノ救済策ヲ論及セラレタガ、此場合ニ生絲ノ救済策ヲ混同シテ此處ニ論スルノハ、如何ニ武藤山治君ガ窮シタカ、貴下ハ非常ニ苦シイト云フコトヲ言フニ過ギナイカラオ止メニナツタラ宜カラウ(拍手)更ニ原料ニ困ル、紡績會社ガ此原料ニ困ルト申シマシテ、サウシテ支那ノ輸入——武藤山治君ハ支那ニ紡績會社ヲ起サナイト云フ議論ヲ二三年前マデヤツテ居、タデヤナイカ、支那ニ紡績ヲ起スベカラズ、支那ト競争スルナト云フ議論ヲ唱ヘテ居ラレマシタガ、貴下ハソレヲ何時御取消シニナツタカ、現ニ鐘淵紡績會社ハ支那ニ紡績事業ヲ營ンデ居ルデハナイカ、モウ國民ハ能ク知ッテ居ルシ、又貴下バカリガ紡績デ人間ニナリ、議員ニナリ、サウシテ紡績デ以テ天下ノ事ヲ、經濟政策モ總テオヤリニナラウト

シテモ、國民ハ貴下ノ議論バカリ傾聴スル譯ニハ參リマセウ(拍手)デ支那ト日本トハ是カラハ紡績ニ於テモ絹絲業ニ於テモ恐ラクハ共通ニナリマス、又我帝國ハ支那ト總テ共通シテ、紡績ニシテモ、絹織物ニシテモ、絹織物ニシテモ經濟共通、原料共通、現ニ紡績會社ノ十大會社ハ支那各地ニ工場ヲ持タナイ所ハナイノデハナイカ、現ニヤツテ居ルデハナイカ、ソレデ何デ是ガ原料ノ不足ヲ來スカ、吾々ガ關稅ヲ撤廢スルト云フコトハ、支那カラ入ルモノト緩和シテ、日本デ出來ナイモノハ支那カラ入レ、或ハ外國カラ入レテ、小袖モノノヤ何カハ之ヲ共通品ヲ作ッテ行カウトスレバ宜イノデアル、何モ紡績業ヲ妨ゲヤウトシテ此案ヲ出シタノデアリマセウ、紡績業ト姉妹業ノ綿製品ヲ澤山作ッテ、輸出ヲ獎勵シテ產業ヲ盛ニスル、國內ニ於テハ此中產階級以下ノ著ル著物ヲ安ク著セタイト云フノガ此建議案ノ趣旨デアリマス、ソレカラ武藤山治君ノ自由貿易論モ學校デ學ンダ時ハ其通りカモ知レマセウガ、アナノ行動ハ一向新聞ニハ大袈裟ニ御書キニナルガ、平灰ガ合ハナイ(拍手)現ニ最近ニ於テハアナタ方ハ、公衆ハシマセウクレドモ斯ウ云フコトヲ希望シテ居ルデセウ、近ク實施ノ工場法ニ付テアナタ方ハ深夜業ヲ廢止スルト云フコトヲ考ヘテ居ル、否吾々ハ全夜業ヲ工場衛生ノ上カラ國民保健ノ上カラ言ッテ望ムモノデアルガ、アナタ方ハ深夜業ヲ廢止スルト云フコトヲ計畫シテ居ル、更ニ英吉利ノ關稅ノ御說明ガアツタカラ私モ英吉利ノ關稅ノ御話ヲシテ答ヘテ置キマス(智慧競ベダシカリト呼フ者アリ)英吉利ノ關稅政策ノ古イ講義ガアリマス、武藤山治君等ハ新シイ政策ヲ斯ウ云フコトヲ考ヘテ居ル、英吉利ハ御承知ノ通り保守黨ノ天下ニナツタ、保守黨ノ天下ニナツテ保護主義ヲ以テ此棉花綿布ニ對スル所ノ特惠關稅ヲ實行ヲ諸君ハ止シテ貴ヒタイト云フ希望ヲ持ッテ居ル、英吉利カ印度ニ對スル所ノ特惠關稅ヲ止シテ貴ヒタイト云フ希望ヲ持ッテ内々アナタ方ガ近ク働キ出シテ居ル

デアラウト思フ、サウ云フ一面ニ於テ考ヲ持ッテ居ルナラバ、何故自ラ關稅ヲ撤廢シテ姉妹業タル綿製品ヲ助ケテ、一面ニ失業者ノ出來ルモノヲ其方ニ仕事ヲシテヤルト云フ、モウ少シ廣ク大キクナツテ、自分ノ今マデ育ッテ、儲ケテ喰ベテ居ル所ダケガ繁昌スレバ宜イト云フヤウナ、ソナ客ナ考ヲ取ツテ、サウシテ生産業ニ當ラレタラ如何デアリマセウカ、アナタハ委員デハアリマセウクレドモ、重大ノ問題デアリマスカラ、私ハ此問題ノ付託サルベキ委員長ノ椅子ヲ保ッテ居リマス、アナタガ委員會ニオ出ニナツテ、委員デアリマセウガ、國家ノ爲メ斯業ノ爲ニ該博ノ御意見ヲドシドシ御述ベニナツタラ如何デアリマセウカ、今日ハ時間ガアリマセウカラ此邊デ御答ヲ御免ヲ蒙リマス
○副議長(小泉又次郎君) 日程第二十二ニ對シテ質疑ガアリマス、森田金藏君、森田金藏君、御出席ガナイヤウデアリマスカラ、御取消ト認メマス、之ニ質疑ハ終了致シマス
○井本常作君 日程第十六乃至二十二ハ一括シテ政府提出染料製造獎勵ニ關スル法律案ノ委員ニ併セテ付託セラレムコトヲ望ミマス
〔贊成ト呼フ者アリ〕
○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十三女子高等教育ノ振興ニ關スル建議案ヲ議題ト致シ、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、提出者内ヶ崎君
第二十三 女子高等教育ノ振興ニ關スル建議案(内ヶ崎三郎君提出)
女子高等教育ノ振興ニ關スル建議案
女子高等教育ノ振興ニ關スル建議案
政府ハ時勢ノ進運ト女子向學心ノ顯著ナル實情ト鑑ミ速ニ帝國大學其ノ他官公私立諸大學及各種專門學校ニ女子ノ入學ヲ一層容易ナラシムルト共ニ女子高等學校並各種專門學校ヲ新設スル等女子高等教育ノ振興ヲ圖ラレムコトヲ望ム
右建議ス

〔内ヶ崎作三郎君登壇〕

○内ヶ崎作三郎君 今日ハ私ノ提案致シマシタル案ヲ、他ノ婦人問題ト共ニ上程セラレハ、各派御交渉ノ上ニ於テ御決定ニナリマシタルコトヲ、私提案者ノ一人トシテ厚ク感謝スルト共ニ、三千万人ノ日本婦人ヲ代表シテ併セテ御禮ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス(拍手)提案ノ理由ハ頗ル簡單デアリマシテ、今日日本ノ教育ガ進歩シタニ拘ラズ、女子ノ高等教育ノ機關ガ頗ル不完全デアラカラシテ、帝國大學、官、公私立諸大學、各種專門學校ニ女子ノ入學ヲ一層容易ナラシムルヤウニ計ラヒ、同時ニ女子ノ高等學校及各種ノ專門學校ヲ新設シテ實ヒタイト云フコトヲ政府ニ建議ヲ致スノデアリマス、餘リ永イ説明ハ要ラナイト思フノデアリマス(レドモ、私ノ記憶スル所ニ於テハ、此種ノ建議案ハ初メ衆議院ノ問題トナッタト思フノデアリマスカラシテ、幾分力之ヲ詳シク説明スル所ノ餘格ヲ與ヘラレシコトヲ希望スルノデアリマス、婦人ノ高等教育ノ問題ハ、歐米諸國ノ多クノ國々ニ於キマシテハ、既ニ解決セラレタル問題デアリマスガ、我國ニ於テハ未ダ解決セラレズシテ漸ク其曙光ヲ認メタルニ過ギナイモノデアリマスルガ故ニ、幾分力此問題ニ付テハ歴史的考察ヲ述ブルコトハ無意味デナイノデアリマス、日本ノ舊キ昔ニ於テハ男尊女卑ト云フ、女尊男卑ト云フコトハゴザイマセズ、男尊、女尊、兩尊主義デアリマシテ、即チ伊勢諸尊、伊勢諸尊、之ヲ證明スルモノデアリマス(ヒヤ、ヒヤ、)

笑聲)奈良朝、平安朝ノ時代ニナリマシテ藤原氏ガ全盛ヲ極メテ、其子女ヲ宮中ニ上ダマシテ或ハ中宮、或ハ其他ノ女官ニサレマシタルガ爲ニ、常ニ其子女ノ周圍ニ多クノ婦人ノ學者ヲ附ケテ置クト云フコトガ、權力ヲ維持スル上ニ必要デアリマスガ故ニ、女子ノ教育ガ盛ニナリマシテ、清少納言、紫式部ノ如キ者ガ現ハレタノデアリマス、紫式部ノ源氏物語ハ文章ノ優麗ナルコト、又其著者ノ式部ノ人格ト相並ンデ日本ノ女子ノ典型トシテ仰ガレテ參タクノデアリマス、然ルニ平安朝ノ終期ヨリソレニ對スル反動トシテ、又他ノ理由ヨリ、武士道ガ起リ、武士ノ家庭ニ於テハ貞女道ナルモノガ獎勵セラレマシテ、式部ヲ理想トシタル所ノ優麗、典雅ノ趣ト貞女道ヲ理想トシタル所ノ婦人道ガ相並ンデ發達シテ徳川時代ニ至リタノデアリマス、徳川時代ニ於テハ御水知ノ如ク、貝原益軒ノ女大學ノ如キモノガ、日本ノ婦人ノ典型的著書トナテ愛讀セラレタノデアリマス、而シテ斯カル狹義ノマダ保守的ノ教育デアッタニモ拘ラズ、徳川時代ニ於テハ幾多ノ才媛ガ現ハレタノデアリマシテ、例ヘバ貝原益軒ノ妻ノ東軒女史ノ如キ、或ハ野中兼山ノ娘婉子ノ如キ、其他幾多ノ才媛ガ現ハレタ、之ヲ見テモ日本女性ノ本質ハ洵ニ優良ナルモノガアリマシテ、之ヲ導クニ法ヲ以テスレバ確ニ世界ニ於テ最も優レタル者ニナリ得ル可能性ガアルト思フノデアリマス(拍手)一體婦人ノ問題ガ大切デアルト云フコトハ、第一婦人ハ生命ノ源泉デアリマシテ、如何ナル男子ト雖モ女子ニ生レナイ者ハナイノデアリマス(笑聲)第二ニ、婦人ハ子女ノ教育デアリマシテ、如何ナル子女ト雖モ女性ノ教育ヲ受ケズシテ成育シタル者ハナイノデアリマス、第三ハ、經濟的ニ申セバ婦人ハ消費者デアリマス、男子ハ生産者デアリマスガ、男子ガ生産シタル物ヲ消費スルノハ婦人デアリマスガ故ニ、生産ト消費ノ兩方面ガ國民生活ニ重大ナル關係ヲ有スルガ故ニ、婦人ノ問題ノ重大ナルコト亦此點ニ在リト思フノデアリマス、ソコデ斯カル重大ナル問題ガ、我國ニ於キマシテモ明治初年以來色ニ取扱ハレマシテ、社會ノ注目ヲ惹クヤウニナリマシタルコトハ大ニ喜ブベキモノデゴザイマス、然ルニ歐洲大戰爭ハ言フマデモナク歐羅巴及ビ亞米利加ノ婦人ニ大ナル自覺ヲ及ボシタノデゴザイマス、繰返シ必要モゴザイマセヌケレドモ、佛蘭西革命ガ個人ノ自由ト云フコトニ大ナル刺激ヲ與ヘマシタノデゴザイマスルガ、今度ノ大戰爭ハ社會ノ自由ニ大ナル刺

激ヲ與ヘタノデゴザイマシテ、其結果トシテ英國ニ於ケル所ノ産業上ニ於ケル民主主義、或ハ露西亞ニ於ケル所ノ革命、或ハ中欧諸國、或ハ愛蘭ニ於ケル所ノ民族自決主義トナツテ表ハレ、又國際聯盟ノ運動トナツテ表ハレテ參タクノデアリマシテ、此社會的自由及ビ進歩ノ一大潮流ニ棹サシマシテ、歐米ノ婦人ハ大ナル自覺ヲ致シマシタノデアリマス、其結果トシテ一千九百十八年ニハ英國ニ於テハ婦人ガ參政權ヲ得、千九百二十年ニハ米國ニ於テ女子ガ初メテ大統領ヲ選舉致シタノデアリマス、此潮流ガ我國ニモ影響ガアリマシテ、ソコデ今日上程ニナリマシタル所ノ諸問題ガ諸君ノ前ニ上程セラレタルヤウニナツタノデアリマス、我國ノ女子教育ハ日清戰爭ノ頃ヨリ進歩致シテ參タクノデアリマシテ、其前ニハ二十幾ツノ高等女學校ガアッタノデアリマシタケレドモ、其後次第ニ其數ヲ増シマシテ、今日ハ六百有餘ノ高等女學校ガアルノデアリマシテ、中學ノ數ヨリ高等女學校ノ數ガ遙ニ多イノデアリマス、現在ノ中學校ノ數ハ四百二近イノデアリマスガ、高等女學校ノ數ハ六百ヲ突破シテ居ルノデアリマス、中學生ノ總數ハ大正十一年三月ノ統計ニ依リマスト、二十万足ラズデアリマス、十九万四千四百人餘デアリマス、高等女學校ノ生徒數ハ十七万六千七百餘デアリマス、而シテ卒業生ハ中學ノ卒業生二万五千人弱ナルニ對シテ、高等女學校ノ卒業生ハ三万九千人ニ達シテ居ルノデアリマス、然ルニ中學ノ卒業生ニ對シテハ、更に進ンデ學問ヲ致スベキ教育機關ガ完備シテ居ルノデゴザイマシテ、今日ハ高等學校ガ二十五校、高等工業學校ガ十七校、高等商業學校ガ十一校、高等農業學校ガ九校、又外國語學校ガ二校、鑛山專門學校ガ一校、其他數校ノ專門學校ヲ合セマシテ、文部省直轄ノ專門學校ガ七十四校アルノデアリマス、其他ニ私立大學ガ十六、單科大學ガ七校、綜合大學ガ五校アルノデゴザイマス、是等ノ學生總數ハ約十万人ニ近イモノガアルト思フノデアリマス、然ルニ高等女學校ヲ卒業致シマシタル

所ノ女子ニ對シテハ、如何ナル官立學校、若クハ公立學校、私立學校ガ設ケラレテ居ルカト云ヘバ、官立學校ノ方面ニ於キマシテハ、只二ツノ女子高等師範學校ガ設ケラレタルニ止マツテ居ルノデゴザイマス、綜合大學ノ或ル大學ハ女子ノ入學ヲ許シテ居リマス、特別ナル資格ヲ有シテ居ル女子ノ入學ヲ許シテ居リマス、東北、北海道大學、九州大學ノ如キ然リデアリマス、東京帝國大學及京都帝國大學ニ於テハ之ヲ許シテナイノデ、僅ニ數フルニ足ラザル所ノ聽講生ヲ包容シテ居ルニ過ギナイノデアリマス、中學ノ卒業生ニ對シテ十萬人ノ學生ヲ包容スルニ足ル所ノ教育機關ヲ國家ガ經營シテ居ルニ拘ラズ、高等女學校ノ卒業生ニ對シテハ辛ウジテ千數百名ヲ包容シテ居ルニ過ギナイ、二箇ノ高等女子師範學校ト官立ノ高等女學校附屬ノ高等科、若クハ專攻科ヲ以テスルノミデゴザイマス、公立學校ニ於キマシテハ大阪府ニ府立ノ女子專門學校ガ昨年ヨリ設ケラレ、福岡縣ニ於キマシテハ公立女子專門學校ガ一昨年ヨリ設ケラレテ居ルニ止マツテ居ルノデゴザイマス、其他ノ私立專門學校ガ十數校アルノデゴザイマスガ、是等ノ諸學校ニ學ンデ居ル所ノ女子學生ノ總數ハ五千人ニハ上ラテ居ラナイグラウト思フノデアリマス、即チ一方ニハ十万人ノ青年學生ガ學ビ居ル諸學校ガ存在シテ居ルニ拘ラズ、一方ニ於テハ婦人ハ僅ニ其二十分ノ一二當ル所ノ五千人足ラズノ學生シカ學ブコトガ出來ナイト云フコトハ、餘リニ是ハ片手落ノ沙汰ト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、然ラバ此問題ヲ如何ニシテ解決スベキカト申セバ、先ヅ大學令及高等學校令ヲ研究シテ見ナケレバナラヌト思フノデアリマス、大學令ノ第九條ニハ斯ウ云フコトガ書イテアリマス、學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ終了シタル者、高等學校高等科ヲ終了タル者、又ハ文部大臣ノ定ムル所ト云フヤウナ、サウ云フ資格ガ了リマス、然ルニ高等學校令ニハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシテ居ルノデアリマ

スルカラシテ、女子ハ高等學校ニ入ルコトハ出来ナイノデアリマス。随テ東京帝國大學、若クハ京都帝國大學ニ、女子ハ入學スルコトハ出来ナイノデアリマス、併シ文部當局ニ於ケルマシテモ、實ハ女子ノ爲ニ幾多ノ專門學校ヲ造リタイト云フ意思ガアルヤウデアリマス。又、文部當局ノ理想ガ容易ニ實現シ兼テ居ルコト云フコトハ、吾々國民トシテモ甚ダ遺憾ト思フ所デアリマス、ソコデ此問題ヲ解決スルニハ色々ナル方法ガアリマス。先ヅ第一ニ綜合大學ニ女子ノ入學ヲ容易ナラシメテ、單ニ東北大學九州大學、北海道大學ノミナラズ、東京帝國大學及京都帝國大學ニ於テモ、一定ノ資格ヲ有シタル所ノ女子ヲ正科ノ學生トシテ入學スルコトヲ文部大臣ニ於テ認可セラレンコトヲ希望スルノデアリマス、其次ハ女子ノ專門學校ヲ幾ラカ新設スルコトヲゴザイマシテ、殊ニ文科、理科、家政科ノ專門學校ガ必要ナルト思フノデアリマス。此種類ノ私立ノ女子專門學校ハ多クアリマス。カラシテ、此際政府ガ一二ノ模範ノ女子專門學校ヲ造リテ、垂レト云フコト、亦教育上必要ナルコトデハナイカト思フノデアリマス、然ルニ金ガ無イト云フノデアリマス、金ガ無ケレバ已ムヲ得ズ專門學校ニ女子ヲ失張正科學生トシテ入學ヲ許スト云フ、共學ノ制度ヲ採ルハナイト思フノデアリマス、共學ノ事ニ付キマシテハ色々問題ガアリマシテ、共學ヲ許ス時ニハ第一風紀ノ問題ガ起ル、第二ハ女子ノ學力ノ問題ガ起ルト云フコトデアリマス。併ナガラ貴族院ニ於テ過般文部大臣ガ質問ニ對シテ答ヘラレテアリマス。ルガ如ク、東京音樂學校ノ如キハ男女共學ニハ何等風紀ノ問題ヲ惹起サナイト言明サレテ居ルノデアリマス。ルガ故ニ、男女ノ專門學校ニ於ケル共學ハ風紀ノ問題ニハ餘リ關係ハ無イト思フノデアリマス、又婦人ノ學力ノ問題ニ付テモ意見ガアルノデアリマス。併ナガラ今日ハ婦人ト男子ノ智力上ノ相違ハ、本質的優劣アル所ノモノニアラ

ズシテ、其發表、表現ノ形式ガ違フニ過ギナイノデアルト云フコトガ明カニナッテ居ルノデアリマス。カラシテ、風紀上及智力上ヨリ見マシテモ、專門學校ニ於ケル所ノ男女共學ハ差支ガナイ問題デハナイカト思フノデアリマス、米國ニ於ケルマシテハ專門學校州立大學ガ起リマシタトキニ、男女共學ヲ實行シタルデアリマス、第一ハ經濟的ノ理由デアアル、多クノ學校ヲ造ルヨリハ又造ルコトガ出来ナイカラシテ、ソコデ一ツノ學校ノ中ニ男女ヲ共ニ包容スルコトニハ、經濟上ノ利益ガアルト云フコトデアリマス、又第二ノ理由ハ、荷モ租税ニ依テテ立テ居ル所ノ學校ハ、國民ニ對シテ平等ナル態度ヲ執ラナケレバナラヌト云フノデアリマス、今日日本ノ官立又ハ公立ノ學校ハ、主トシテ租税ニ依テ成立シテ居ルノデアリマス。カラシテ、國民男女ニ對シテ平等ナル態度ヲ執ルベキノハ法律上ヨリ考ヘテモ相當ナル事デアルト思フノデアリマス、ソレカラ若シサウ云フコトガ出来ナケレバ、私立ノ學校ヲ補助スルコト云フコトモ必要ナ事ヲラウト思フノデアリマス、私立女學校ヲ補助シテ其制度ヲ完全ナラシムルト云フコトモ、一ツノ方法デアルト思フノデアリマス、兎ニ角日本ニ於テ政府ガ熱心ニナッテ女子ノ高等教育ヲ振興スルコト云フコトハ、國際上ニモ大ニ意味ノアルコトデアルト思フノデアリマス、國際上ヨリ論ズルトキニハ二ツノ點ガアルト思ヒマス、第一ノ點ハ日本ニ於ケル女子ノ教育ハ明治ノ初年ヨリ歐米ノ基督教ノ宣教師ノ手ヲ煩シテ居リタルデアリマス。ガ、國力ガ充實セザル時ニ當リテ、又國民ノ自覺モ甚ダ發達シナカッタ時ニ於ケルマシテハ、是モ亦已ムヲ得ナカッタノデアリマス。ケレドモ、既ニ日本ガ世界ノ三大強國ノ一トナリ、或ハ五大強國ノ一二數ヘラルル今日ニ至リマシテハ、國民ノ體面トシテモ日本ノ女子ノ高等教育ハ國家自ラ其責任ニ任ゼナケレバナラナイト思フノデアリマス、第二ノ點ハ今日日本ノ教育ハ、先程石川君モ述ベラレタ「スエズ」以東第一ノ教育國デアリマス。ガ故ニ、我國

ノ教育ハ東亞地方ノ中心トナッテ居ルノデアリマス、ソコデ我國ニ於テ教育アル所ノ婦人ガ多ク現ハレバ、或ハ朝鮮ニ行キ、或ハ支那ニ行キ、或ハ印度ニ行キ、或ハ滿洲、蒙古、西藏ニ參シテ、サウシテ教化ノ任ヲ盡スコトガ出来ルノデゴザイマス、現ニ暹羅ノ王室ニ聘セラレタル女子教育家アリ、或ハ蒙古西藏ニ行ッテ教育ノ任ヲ盡シタル健氣ナル婦人モアッタノデゴザイマス。カラ、斯ウ云フ要求ハ將來益々起ルコトデアルト思フノデアリマス、同時ニ國內ノ問題トシテハ我國ニ於ケル婦人労働者ノ數ハ頗ル多クナッテ參シテ居ルノデゴザイマシテ、工場及鑛山ニ關係シテ居ル所ノ婦人總數ダケデ、百四十六萬餘ニ達シテ居ルノデアリマス、是等ノ婦人ハ汗ミドロニナリマシテ我國ノ富ヲ造リツ、アル所ノ人々デアリマシテ、是等ノ婦人ヲ指導スル所ノ教育アリ、見識アル婦人ガ輩出シナケレバナラナイノデアリマス、斯ウ云フ理由ニ依リマシテ女子ノ高等教育ヲ振興スルコトハ、我國ニ於ケル集眉ノ急務デアルト思フノデアリマス、然ルニ金ガ無イト云フノデアリマス。ガ、併シ日本國民ノ中斯ル重大ナル問題ガ衆議院ニ依テ慎重ニ討議セラレ、國民ノ輿論ヲ代表シタル云フコトガ明ニナリマス。ルナラバ、民間ノ有志ノ中、必ズ資ヲ投ジテ此事業ヲ助ケル者ガアリト思フノデアリマス。ガ故ニ、ドウカ政府當局ハ斷々乎トシテ女子ノ高等教育ヲ振興ノ大旗ヲ翻シテ、國民ノ輿論ヲ動カスガ爲ニ努力セラレムコトヲ希望スルノデアリマス、吾々モ及バズナガラ驥尾ニ付シテ國民ノ間ニ輿論ヲ作ッテ、官民協力シテ理想ノ學校ヲ作ッテ、日本ノ女子ノ進歩發達ノ爲メニ貢獻スルコトヲ期スル者デアリマス、尙詳細ノ點ハ委員會ニ於テ十分述ベル積リデアリマス。カラシテ、政黨派ヲ超越シテ此案ニ御協賛アラムコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス

○井本常作君 本案ハ日程第十議案ノ委員ニ併セテ付託セラレムコトヲ望ミマス
○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第二十四婦人參政ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、提出者松本君平君
第二十四 婦人參政ニ關スル建議案
(松本君平君提出)
婦人參政ニ關スル建議案
婦人參政ニ關スル建議案
婦人ノ智識意思感情ヲ全然度外シタル政治ハ全社會全國家ノ幸福ト利益ヲ考慮シタル善良ナル政治ト謂フヘカラス婦人カ國ノ政治ヨリ遠サケラレ政治的要素トシテ認メラレサル間ハ遂ニ其ノ地位ヲ向上シ人格ヲ發達スル機會ヲ失ヒ長ク屈辱ト輕侮ヲ免ルル時ナシ從來婦人カ文明史上ニ重要ナル地位ヲ占ムルコト能ハサリシモノハ婦人ノ天賦ノ本質ノ然ラシムルニ非ス主トシテ教育及環境ノ結果ニ外ナラヌ女性トシテ人類社會國家ニ奉仕スル所ノ使命ハ固ヨリ男性ニ比シテ輕重貴賤ノ差異アルヘカラス婦人ヲシテ國家及法律ニ對シ男ト同等ノ權利ヲ保有セシメ婦人ニ對スル不合理ナル各種ノ制限ヲ撤廢シ男子ト均等ノ境遇ニ立タシムルハ正義ト人道ノ義シキ要求ニシテ女性ノ完成ニ缺クヘカラスノミナラヌ國家及民族ノ組織ヲ強大ナラシムル所以ナリ
世界大戰ニ依テ深刻ナル慘苦ヲ嘗メタル文明國民カ茲ニ覺醒スル所アリ婦人ノ參政權ヲ認容スルニ至リタルハ決シテ偶然ニ非ス健康ナル國家ト純真ナル文化ハ男女均等協力ノ基礎ト上ニ建設セラレサルヘカラス政府ハ速ニ我カ國婦人ニ對シテ參政權附與ノ制ヲ定メラレムコトヲ望ム
右建議ス
○副議長(小泉又次郎君) 都合ニ依ッテ時間ヲ延長スルコトヲ宣告シテ置キマス
(松本君平君登壇)
○松本君平君 本員ノ提出致シマシタル婦人參政ニ關スル建議案ノ趣旨ヲ極メテ簡單ニ説明致シタク思ヒマス、今日ハ最も容易ナラザル危期ニ直面シテ居ルコト考ヘルノデ

アリマス、我が民族ハ一切ノ困難ヲ打破シテ
舊弊ヲ擺脫シ、更始維新ノ大覺悟ヲ以テ新
シキ運命ヲ開拓シナケレバナラヌ時デア
ルト信ズルノデアリマス、而シテ國命民心ヲ
新タニスル所ノ方法ハ勿論有ラユル方面ニ
於テ重要ナル事柄デアリマス、就中我ガ國民
ノ全半數ヲ占ル所ノ、我ガ民族ノ全一半ヲ
有スル所ノ婦人ヲ解放シテ、其政治的、社
會的地位ヲ向上セシメル事ヲ計リ、ヨリ高
キ生活ニ此階級ヲ導クト云フコトハ、現代
ノ社會ノ施設、政治上ノ施設ニ於テ最も大
切ナル緊要ナ事柄ト信ズルノデアリマス、
其量ニ於テモ、亦其實ニ於テモ是程偉大ナ
ル幸福ヲ國民ノ上ニ齎シ、是程遠大ナル理
想ヲ實現スルモノハナイト思ヒマス、即チ
本案ヲ提出シタル所以デアリマス、諸君、
本員ハ第四十五議會ニ於テ本案ト同一ナル
建議案ヲ提出シマシテ諸君ノ御考慮ヲ煩
ハシタノデアリマス、再ビ此建議案ヲ本議
會ニ提出致シマシテ、更ニ賢明ナル諸君ノ
御考慮ヲ煩ハス所以ノモノハ、本年ノ議會
ハ御承知ノ通り二十年來ノ懸案デアアル所
ノ普選案ガ衆議院ヲ通過シタノデアリマス、
本議會ハ我が立憲政治ノ歴史ニ於テ最も記
憶スベキ、特筆大書スベキ所ノ立法議會デ
アリマス、此議會ニ於テ普選案ヲ通過シタ
ト云フコト即チ、普選ハ納稅資格ヲ撤廢シ
テ廣ク普ク民衆ニ參政權ヲ與ヘルト云フコ
トデアル、是ハ物質ヨリ精神ヘ、又財產主
義ヨリシテ更ニ人格ヲ尊重スル自由平等ノ
大ナル精神ヨリ出發シタルモノデアリマ
ス、此主張原則ヨリシテ行タナラバ、婦
人ニ參政權ヲ與ヘナケレバナラナイコト、
參政權ヲ拒ムコトノ出來ナイ理由ガ明カニ
ナルノデアリマス、何トナラバ婦人モ
亦人間トシテ人格ヲ持ツモノデアリ、又國
家トシテハ忠良ナル國民ヲ構成スルモノデ
アリマス、之ヲ拒ムト云フコトハ普通選舉
ノ根本ノ精神ヲ破壞スルモノデアリ、又之
ヲ拒ムト云フコトハ一大矛盾ト言ハナケレ
バナリマセヌ、カルガ故ニ此案ヲ提出シタ
ノデアル、此點ニ於テ本員ハ普通選舉ノ委
員會ニ於テ、屢、政府ノ意圖ヲ問ヒ、又委

員諸君ノ意圖ヲモ伺フタノデアリマスル、政
府當局ニ於キマシテモ原則トシテ主義トシ
テ婦人參政權ヲ認メラレテ居ルト云フコト
ハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、既ニ
此主義ガ認メラレルト云フコトデアラナラ
バ、海ニ本案ヲ提出スルト云フコトノ偶然
ナラザルコトヲ、諸君ノ御承知ヲ願フノデ
アリマス、本員ハ茲ニ男女兩性ノ體力、若
クハ智力ノ優劣ヲ論ズルト云フヤウナ愚ナ
議論ヲ茲ニシヤウトハ思ハナイノデアリ
マス、何トナレバ三千万人ノ男性ガ掛カ
テモ一人ノ婦人ノ力ニ及バナイコトモアリ
マス（笑聲起ル）、又本員ハ茲ニ政治ト云
フモノハ婦人ノ携ハベキモナリト云フヤ
ウナ狹隘ナル議論ニ付テ、茲ニ批評ヲシヤ
ウトモ思フモノデハナイ、何トナレバ人間
生活ノ原理トシテ、機會均等ノ主義ト云フ
モノガ眞ニ之ガ人間生活ノ原理デアラナラ
バ、婦人ヲシテ殊ニ政治ニ干與セシメナイ
ト云フ議論ハ立タナイノデアリマス（拍
手）又本員ハ婦人參政ハ家庭ヲ破壞スル
モノナリト云フヤウナ狹隘ナル議論ニ付テ
論議シヤウト考ヘル者デモアリマセヌ、何
トナレバ形式的ニ男性ガ、家庭ヲ代表スル
トシテモ、ソレハ決シテ圓滿ナル家庭ヲ發
達ヲ助長スルモノデハナイト信ズルカラデ
アリマス、男女兩性共各、其天分ヲ有シ、
人類トシテノ尊キ使命ヲ持テ居ルモノデ
アル、故ニ人間トシテノ價值ハ海ニ平等デ公平
デナケレバナラヌコトヲ本員ハ確信スルモノ
デアリマス（拍手）、唯一ツ私ハ諸君ニ懇ヘ
テ置カナケレバナラナイ問題ガ殘テ居ルハ、
ソレハ現代ノ婦人ハ政治的自覺ガ足ラナイ
ノデアル、或ハ參政權ニ對スル婦人ノ要求
ハマダ十分デナイト云フコトハ、屢、論ゼラ
レ且ツ唱ヘラレルノデアリマス、是ハ一種
ノ俗論デアリマス、（ノウ）西洋諸國ニ行
ハル、所ノ標語所謂、求メヨ然ラバ與ヘラ
レン、叩ケヨ然ラバ其門ハ開カレント云フ所
ノ、爭鬭主義——カノ爭ヒノ主義カラ來ル所
ノ議論デアリマス、私ハ信ズル、即チ女子

ニ參政權ヲ與ヘルト云フコトガ海ニ正シイ
道理デアラナラバ、是ハ求メズト雖モ之ヲ
與ヘナケレバナラナイ、叩カズト雖モ其門
ヲ開イテヤラナケレバナラナイト信ズルノ
デアル、（拍手）之ガ眞ノ正義ト公正ノ要求
デハナイカト信ズルノデアリマス、諸君ノ
御承知ノ如ク歐羅巴ニ於テ婦人參政權運動
ノ一派——彼ノ「パンクハースト」ノ一派ガ
極端ナル過激ナル獲得運動ヲ致シマシタ、
是ハ諸君ノ向ホ耳目ニ新ナル所デアリマス
ガ、斯様ナル極端ナル參政權獲得ノ運動
ハ、私ハ日本ニ於テ——我國ニ於テハ之ヲ
願ハシクナイト思フノデアリマス、何トナ
ラバ西洋ニ於テノ主義ハ、カノ爭ヒデア
ル強キ要求ヲ爲ス者ガ勝ツ「求メヨ然ラバ與
ヘラレン」叩ケヨ然ラバ其門ハ開カレント云
フコトノ主義ヨリ成テ居リマス、強キ要
求——力強キ要求ガアルニ於テ、初メハ權
利ガ與ヘラレルノデアアルガ、吾々ノ主義ハ
與フベキモノナラバ、假令ソレガ要求ガナ
クとも、或ハ要求ガ弱クとも、之ヲ與ヘナ
ケレバナラナイ、叩カズト雖モ若シ其事ガ
正義デアラナラバ、其門ヲ開イテ迎ヘテヤ
ラナケレバナラナイト云フ日本固有ノ主張
主義ニ立チタイト思フノデアリマス、諸君
ガ御承知ノ通り國會開設ノトキニ、ドレダ
ケ國民ガ此立憲政治ノ思想ニ於テ自覺ヲ
持テ居ラタデアリマセウカ、其當時ニ於テ
ル少數ノ知識階級ノ人ハ、國會開設ノ請願
ヲシタノデアアル、運動ヲシタノデアアルガ、
國民大多數ハ殆ト與ラナカッタトキニ於テ
此國會ガ開カレ、憲法ガ布カレテ而シテ茲
ニ三十有餘年、日本ハ立派ナル立憲代議制
度ノ政ヲ行テ居ルノデアリマス、故ニ一
世ヲ指導シテ而シテ世ノ新シキ政治組織ノ
改革ヲ爲ス所ノ先覺者タル者ハ、此社會ノ
要求ト時代ノ趨勢ヲ遠視シテ、サウシテ之
ニ與フベキモノハ與ヘ、正義公道ノ命ズル
所ニ從テヤラナケレバナラヌト云フコト
ヲ信ズルノデアリマス、我國家民族ノ遠キ
將來ヲ考ヘテ、新シキ運命ヲ開拓セントス
ルトキニハ、常ニ正義ト公平ノ公正ナル命
令ニ從テ、國家政治ノ指導原理トシナケ

レバナラヌコトヲ、深ク信ジテ疑ハナイ者
デアリマス、此意味ニ於テ此婦人參政權ニ
關スル建議案ヲ提出致シタノデアリマス、
公正ナル諸君ノ賢明ナル御判斷ト御同情ニ
依テ、此案ノ通過セラレントコトヲ切ニ希
望スルモノデアリマス
○副議長（小泉又次郎君） 本案ニ對シテ提
出者並政府ニ質疑ノ通告ガアリマス原惣兵
衛君
（原惣兵衛君登壇）
○原惣兵衛君 我ハ提案者松本君ニ對シテ
二三ニ付テ質疑ヲ致シテ見タイト思フノデ
アリマス、勿論我黨ニ於キマシテハ婦人
コトハ、世帯主ニ限リ參政權ヲ與ヘルト云
フニ、過般ニ於ケル所ノ修正案ニ於テ發
表シタ通りデアリマス、即チ松本君ノ言ハ
レルマデモナイ、我ガ政治史ニ於ケル所
ノ——本黨ハ婦人ニ參政權ヲ與ヘルト云
フ所ノ嚆矢デアリ、之ガ唯一ノ政黨の主張デ
アリマス、唯、松本君ニ一口御伺ヒシタイ
ノハ、若モ松本君ガ眞ニ婦人ニ參政權ヲ與
ルト云フ御考デアラナラバ、過般ニ於ケ
ル我黨ノ婦人ノ參政權ニ對シテ之ニ贊成ヲ
スルカ、サモナケレバ自分自身ガ普選ニ對
スル關係ノトキニ於テ、婦人參政權ニ對ス
ルコトヲ修正ニ入レテ行カケレバナラヌ
ノデアリマス（拍手）然ルニ松本君ハ其時
於テソレニ對シテ何等我黨ト同ジヤウナ關
係ニ立タナイデ、反對ヲシテサウシテ此普
選案ニ贊成ヲシテ、修正案ヲ出サズシテ居
テ、數日ナラズシテ今日婦人參政權ノ建議
案ヲ出スト云フコトハ、ソコニ何カ矛盾ガ
アリハシナイカト思フ（拍手）若モ松本君ガ
眞ニ心カラ婦人參政權ト云フモノニ御贊成
デアッタナラバ、斯ウ云フ矛盾ハナイト思
フノデアリマス、恐ラク松本君ハ此澤山ノ
婦人ヲ集メテ演說ヲ聽カス爲ニヤラレタ
デアラウト思フ（拍手）松本君ガ鼻眼鏡ヲ掛
ケテ金鎖ヲ附ケテ、今日ハ殊ニメカシテ居
ラレル、斯様ニシテ此壇上ニ來ラレテ演說
ヲセラレタノハ、其目的ハ婦人ニ其演說ヲ
聽カスト云フヨリ他ニ何等目的ハナイト吾
吾ハ見ナケレバナラヌ、全ク松本君ニシテ

若モサウデアアルトシタナラバ、我が帝國議會會ヲ愚弄スルモノデアルト吾々ハ言ハナケレバナラヌ、此點ニ付テ松本君ハドウ云フ御考ガアルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラモウツ松本君ニ御伺ヒセナケレバナラナイノハ、只今主意書ヲ見マス、人類天賦ノ權利ノ關係上、國家並ニ其法律ニ於テ婦人ニ權利ヲ得ルコトハ當然ノ要求デアルト云フガ如ク仰シヤイマスガ、吾々ハ此自然ノ立場カラ、單ニ文化上ノ思想カラ一國ノ國內ニ於ケル參政權ヲ與ヘルト云フヤウナ政治ノ權利ノ問題ト、人類ノ天賦ノ權利タル文化史上ノ權利思想トハ、別個ノモノト信スルデアリマス、唯、其點アルノミニ依テ男女平等デアアル、サウシテ之ニ權利ヲ與ヘナケレバナラヌト云フコトハ、生理學ノ一頁ヲモ知ラナイ者ト言ハナケレバナラヌ、ソレ故ニ唯、單ニ男女ハ平等デアアル、人類天賦ノ主張デアルト簡單ニ申サルナラバ、實ニ淺薄モ甚ダシイモノデアルト思フ、デアリマスカラ此點ニ於テ婦人ニ如何ナル程度ニ於テ參政權ヲ與ヘルカ、即チ一國國內ニ於テ食デアアルトカ浮浪人ニ權利ヲ與ヘナイト云フコトハ、何處カラ來タカト云フト、即チ國家ニ於ケル社會上ノ分子トシテ、獨立ノ經濟上ノ主體トシテ、何カ其一票ヲ投ズルコトニ依テ、即チ國民トシテ其一票ヲ投ズル所ノ效果ガ本人ニ歸屬シナケレバ、參政權ヲ與ヘテモ全く無意味デアリマス、其點ニ於テ乞食トカ浮浪人ニ與ヘナイノデアラフテ、若槻ザンノヤウニ單ニ國民ノ政治能力ガ發達シタカラ之ニ與ヘルト言フタナラバ、乞食ト雖モ必ズシモ能力ノ無イ者バカリデハナイ、有ルト言ハナケレバナラヌ、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ、本黨ノ普選案ニ對シテ婦人ヲ加ヘルト云フ此二點ニ、如何ナル御考ガアルカト云フコトヲ承リタイノデアリマス

○松本君平君(續) 本黨ハ婦人參政ノ先驅者デアルト云フヤウナコトヲ御話ニナリマシテ、何故ニ普選案ニ入レヌ、修正ヲ提出セヌカト云フ御質問デアラタト思ヒマス、之ニ付テ申上ゲマス、普選案ニ付テ婦人參政權ヲ入レルト云フコトハ固ヨリ私ノ積年ノ主張デアリマス、故ニ之ニ付テハ昨年ヨリ普選案ヲ作成スルトキニ於テモ、屢婦人ノ參政權ヲ普選案ニ入レルト云フコトハ、其當時ニ於テ有志諸君ニモ御諮リシタデアリマス、併ナガラ御承知ノ普通選舉ト云フモノト、婦人參政權ト云フモノハ別個ノ歷史ヲ持ツテ居ルモノデアリマシテ、普通選舉ト云フモノト、婦人參政權ト云フモノトハ、別個ノ問題ニナッテ居リマス、必シモ之ヲ一緒ニシテヤル必要ハナイト思ヒマス、原君ガ此歷史ヲ御調ベニナッタナラバ、更ニ明瞭ニ御分リニナルデアラウト思ヒマス、且ツ強テ此ノ問題ヲ普選案ニ入レルトスレバ却テ事端ヲ繁クシテ根本ノ普選案ヲ危フスル恐レガアタカラ混同スルコトヲ避ケタノデアリマス、又政友本黨ノ諸君ガ世帯主論ヲ唱ヘテ、婦人參政權ヘ之ニ依テ解決セラレタリト考ヘラレルコトハ、大ナル誤リデアリマス、(拍手)吾々ハ斯ノ如キ議論ニハ決シテ賛成スルモノデハナイノデアリマス、吾々ノ唱ヘル所ノ婦人參政權ハ、其年齡ノ程度ハ異ナリマス、或ハ英吉利ニ於ケル三十歳或ハ二十五歳ニ其年齡ノ程度ハ別問題ト致シマシテ、婦人ニモ亦男子ト同ジク平等ニ政治ニ參與スベキモノデアルト云フコトノ原則ヲ認メナケレバナラヌデアアル、然ルニ政友本黨ノ諸君ガ、世帯主ニ於テ婦人ノ權利ヲ認メタル云フコトハ、何等ノ意味ヲ成シテ居リマセヌ、決シテ是ハ婦人參政權ニ付テ解決ヲ與ヘルモノデハアリマセヌ、又只今モウツノ問題トシテ原君ノ御質問ハ、男女ガ天賦ニ於テ平等デアアルカラ、其平等ナルガ故ニト云フ、サウ云フ單純ナル議論ニ於テ參政權ヲ與ヘルト云フコトハ、反對デアルト云フヤウニ聽イタノデアリマス、國家構成ノ上ニ於テ婦人モ亦男子ト同ジク構成ノ分子デアリマス、忠良ナル臣民デアリマス、税モ

納メレバ又國家ニ對スル奉公モシテ居リマス、私ハ此點カラ國家構成ノ重大ナル要素——其全民族、全國家ノ半分ヲ有スル所ノ此婦人ヲ、政治ノ外ニ度外視スルコト云フコトノ最モ誤マレルト云フコトヲ信ズルデアリマス、勿論之ヲ生理的ニ考ヘ、生物學ノ上ヨリ之ヲ考ヘ、此婦人ト云フモノ、其力ハ男子ト少シモ異ナル所ハナイ、其爲ス所ノコト、其行フベキ所ニ於テハ色ニ違ヒマセウケレドモ、婦人ガ人類トシテ盡ス所ノ其尊敬スベキ地位、又男子ガ人類トシテ盡ス所ノ地位、是ハ必ズ平等デナケレバナラヌ、人間トシテ人類トシテ男女ハ平等デナケレバナラナイト云フコトハ、是ハ自明ノ理デアリマス、原君ノ如キ賢明ナル學者ニシテ之ガ御分リニナラヌコトハナイト思ヒマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 吉良元夫君(吉良元夫君登壇) 吉良元夫君 ○吉良元夫君 此婦人參政權ノ問題ニ付テ提案者タル松本君ニ質問ヲ致ス積リデアッタデアリマスガ、ソレハ只今原君ニ依リ御述ニナリマシタカラ、私ハ其點ヲ省キマス、私ハ此婦人參政權ノ問題ハ是ハ極メテ重要ナル問題ト心得ヘテ居ルデアリマス、今日我國ノ現狀ニ於キマシテハ婦人ニ參政權ヲ與ヘルノハマダ少シク早過ギルト云フヤウナ意見ヲ、首相ガ先日委員會ニ於テ御述ニナッタコトハ、其片鱗ヲ窺ウテ居ルノデアリマス、私ハ我が日本國民トシテ極メテ喜ブベキノハ、我が帝國ノ婦人ハ歐米先進國ノ婦人ヨリハ、餘程尊敬スベキ實質ガアルト思フデアリマス、勿論歐米先進國ノ婦人ハ、我が帝國ノ婦人ヨリカ知識ノ點ニ於テ優テ居ル感ガアルデアリマス、併ナガラ婦人ニ於テ最モ尊ブベキモノハ——知識ヨリ以上ニ尊ブベキモノハ淑德デアアル、所謂節操ヲ保ツコトノ堅固ナル點デアリマス、是ハ決シテ何人ト雖モ異論ナキ所デアラウト思ヒマス、私ノ知り得ル程度ニ於テハ、歐米ノ婦人ハ節操ノ點ニ於テ、實ニ下等動物ニ餘程似タ所ガ多イノデアラフテ(發言スル者多シ)似タ所ガアルト申

當年ノ三「ハイカラ」ト稱セラレ所謂此衆議院ニ於テハ最も好男子、在原業平見タイナ方デアル(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス、吉良君ニ御注意致シマス、同僚ニ對シテ衣服「スタイル」態度等ニ付テノ御批評ハ餘リ爲サラスコトヲ望ミマス

○吉良元夫君(續) (「無禮」ト呼フ者アリ) 無禮デハナイ——然ルニ此問題ニ於キマシテモ、先日既ニ此衆議院選舉法ノ改正ガアツタノデアリマス、即チ此議場ヲ通過シテ居ルノデアアル、此場合ニ至ラテ突如トシテ又婦人參政權建議案ヲ出サレルト云フコトハ、所謂六日ノ葛藤十ノ菊ト云フヤウナモノデ、大變ナハ唯、法ラシク爲ニ御提案ニナツタモノ、ヤウニ私ハ思フノデアアル、然ルニソレハ宜シイ、私ハ其事ハ最早申上ゲマセヌガ、内務當局ハ——此提案ハ私謹シテ拜見致シタノデアアル、サウシテ之ニ賛成サレテ居ル所ノ御方々ノ記名ヲ拜見シテモ、殆ド三派ニ互テ多數ノ御方ガ記名ヲ爲サツテ居ルノデアアル、然ルニ當局ニ於テハ之ヲ如何ニ見テ居ラル、ノデアアルカ、即チ是ハ取モ直サズ此案ハ委員會ヲ開イテ、委員會ノ議ニ上セルノデアアリマセウ、然ルニ屢、此憲法附屬ノ大典タル衆議院議員選舉法ト云フモノガ、サウ朝令暮改スルコトハ出来ナイ、ソレデアリマスカラシテ本日ノ松本君ノ提案ニ對シテハ當局ハ如何ニ之ヲ御考ニナツテ居ルカ、御同意デアアルノデアアルカ、或ハ不同意デアアルノデアアルカ、其大體ヲ承リタイト思フノデアリマス、尙ホ吾々ハ大ニ此點ニ付テハ眞面目ニ話シタイ事柄ガアルノデアリマスアレドモガ、頻ニ諸君ハ御厭息ノ模様デアアル、殊ニ田崎君ノ如キハ頗ル私ノ發言ニ付テ妨害ヲサレルノデアアル、ソレデ私ハ最早是レ以上論ズル必要ハ無イノデアリマスカラ、簡單ニ當局ノ御意見ヲ伺フテ此壇ヲ降リルノデアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 片岡政務次官

〔政府委員(片岡直溫君登壇) 只今土屋君ノ御

○政府委員(片岡直溫君) 只今土屋君ノ御

質問ニ御答シマス(吉良君「ト呼フ者アリ」) ア吉良君デゴザイマシタ、甚ダ失禮ヲ致シマシタ、本問題ハ極メテ重要ナ大切ナル事柄デアルト存ジマス、婦人參政權ト申シマスルコトハ、理論上カラ申シマシテ相當ノ事デアルト存ジマス、併ナガラ我國ノ實際ノ所ニ對照シテ考ヘレバ、極メテ慎重ニ考慮研究スベキ事柄デアルト存ジマス今現ニ普通選舉法ヲ議定シ、是ヨリ其實績ヲ見ントスル所デアリマス、此間ニ於テ徐ロニ研究ヲ致シテ態度ヲ決メベキモノト思ヒマス、今此案ニ對シテ直ニ賛否ヲ表スル譯ニハ參リマセヌ(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 質疑ハ終了致シマシタ——井本常作君

○井本常作君 本案ハ日程第十ノ委員ト同一委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマス、日程第二十五、市制及町村制改正ニ關スル建議案ニ致シ、提出者ノ趣旨詳明ヲ許シマス、提出者高橋熊次郎君

第二十五 市制及町村制改正ニ關スル建議案(高橋熊次郎君外四名提出)

市制及町村制改正ニ關スル建議案 市制及町村制改正ニ關スル建議案 時代ノ趨勢ヲ我カ國現在ノ文化ト鑑ミ

市町村ノ公民權ヲ擴張シテ之ヲ婦人ニ及ホスハ最必要ナリト信ス殊ニ小兒ノ教育及地方改善ニ關スル諸事業並社會政策ニ關スル幾多ノ公共事業ハ婦人ノ手ニ待ツモノ頗ル多シ且將來參政權ヲ婦人ニ及ホス階梯トシテ婦人ヲシテ政治的訓練ヲ爲サシムルハ最緊要ノ急務ナリ政府ハ速ニ市制及町村制ヲ改正シテ男子ト同一ノ條件ニ依リ婦人ニ公民權ヲ與ヘラレムコトヲ望ム

右建議案

○高橋熊次郎君 只今上程ニナツテ居リマスル市制及町村制改正ニ關スル建議案ニ對ス

ル趣旨ヲ、是ヨリ辯明致シタイト思フノデアリマス、本問題ハ御承知置ノ如ク、婦人參政權ニ關係スル問題デアリマシテ、只今松本君或ハ内ヶ崎博士ヨリ此問題ニ付テ十分論議ヲ盡サレタノデアリマス、其如何ナルモノデアアルカ、或ハ大勢ハドウデアアルカト云フ論議ハ、私ノ繰返ス必要ノ無イコト、思フノデアリマス、併ナガラ此問題ハ海ニ重大ナ問題デアリマシテ、其經濟上ノ意味ニ於テ、其政治上ノ意味ニ於テ、又婦人問題トシテハ法律上ノ問題ト致シマシテ、頗ル重要ナルモノデアアル、之ヲ滑稽化シ、或ハ眞面目ニ論議スルト云フコトハ洵ニ政治家トシテ其當ヲ得ザルモノト私ハ心得テ居ル、御承知置ノ通り議會ハ輿論ノ府デアアルノデアアル、議會ヲ通ジナケレバ輿論ト云フモノハ成立タヌノデアアル、而シテ婦人ハ此議會ニ議席ヲ持タナイ、即チ口ヲ持タナイノデアリマス、吾々男子ニ依リテ之ヲ論議セラル、ヨリ、今ヤ何等ノ問題ハナイノデアアル故ニ、吾々男子ハ其如何ナル地位ニ在ルカ、若イ者、老人ヲ論ゼズ、眞面目ニ此問題ヲ論議シナケレバナラヌト思フノデアリマス、此問題ヲ提ヘ來ル者ニ對シテ、徒ニ罵倒ヲ加ヘルガ如キハ、決シテ私ハ士君子ノ取ラサル所ナリト思フノデアリマス、此問題ハ法律ニ直接關係ノアル問題デアリマスカラシテ、御參考ノ爲ニ關係條文ヲ朗讀致シタイト思フノデアリマス、暫時御清聴ヲ煩ハシマス、即チ是ハ市制ノ第九條並ニ町村制ノ第七條ニ關係アル問題デアリマスガ、市制ト略、——市ト云フ文字ト町村ト云フ文字ガ異ナレバナラヌト思フマスカラ、市制第九條ノ第一項ヲ朗讀シテ見タイト思フノデアリマス、即チ「市住民ニシテ左ノ要件ヲ具備スル者ハ市公民トス、但シ貧困ノ爲公私ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者、及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此限ニ在ラス」、帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ニ、獨立ノ生計ヲ營ム者、三、二年以來其ノ市住民タル者四、二年以來其ノ市ノ直接市稅ヲ納ム

ル者」斯クアルノデアリマス、吾々ハ之ヲ改正致シテ婦人ニモ男子同様ノ選舉權ヲ、即チ公民權ヲ附與シタイト云フ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、若シ出來得ベクンバ此獨立ノ生計ト云フ以上ニ、相當ノ教育アル者、或ハ此公民權ヲ有スル男子ノ配偶者ト云フヤウナ、必要ナ人々ニモ此公民權ヲ與ヘラレタイト思フノデアリマシテ、少クトモ私ハ現行法ニ定メテアル所ノ男子ト同等タル公民權ヲ之ニ附與シタイト云フノガ其骨子デアリマス、前演說者ト重複スルノ嫌モアリマセウアレドモ、私ハ多少此問題ニ付テ論議ヲ致シタイト思フノデアリマス、我ガ國民ノ——先程松本君ノ言ハレタ通り半數ヲ占ムル婦人デアアル、此婦人ヲ將來ドウ取扱フカト云フコトハ、此特殊ノ家族制度ニ依リテ培ハレタ我國ノ婦人ノ社會的地位、殊ニ其法律、政治上ニ於ケル苛酷ナル待遇、之ヲ現狀ノ儘ニ放置スルコトガ哲學的、道德的論議ハ姑ク措キマス、是ハ松本君ニ盡サレテ居ル、實際問題トシテ我ガ國運ノ伸張ニ對シテ策ヲ得タルモノデアアルカドウカ、是ハ社會問題ト致シマシテモ政治問題ト致シマシテモ、先程申上ゲル通り十分慎重ニ審議シナケレバナラヌト思フノデアリマス、固ヨリ經濟上ハ私權上ニ於ケル所ノ性別待遇ノ撤廢デアルトカ、或ハ男女間ノ機會均等デアルト云フヤウナ問題ハ、私ハ此所ニ論ジナイノデアリマス、即チ普通選舉權ガ輿論トナツテ衆議院ヲ通過シテ將ニ實施ノ域ニ達セントスル今日ニ於テ、性ノ異ナルト云フダケノ故ヲ以テ、女子ノ前ニ參政權ハ全部門戸ガ開サレテアルト云フヤウナコトハ、此際ドウデアアルカ、是非共之ヲ打開致シマシテ、此方面ニ向フベキ鍵ヲ茲ニ拵ヘタイト云フノデアリマス、デ世ノ因襲ニ捉ハレテ、唯ニ深慮ニ立範テ男子ノ寄生物、之ガ婦人ノ本能デアラナドト思フテ居ルヤウナ婦人ハ兎モ角ト致シマシテ、現代ニ於テ目覺メタル婦人ハ、ソレト云フ問題ニ對シテ要求サレテ居ル、熱心ナル運動モサレテ居ルノデアリマス、併シ中ニハ不眞面目ナル遊戲氣分デ此問題

ヲ唱ヘテ居ル人モアリマセウ、先程本黨ノ諸君カラ論ゼラレタヤウナ人モアル、是ハ其問題其物ヲ減殺セシムルモノデハナイノデアリマス、勿論吾々ハ一部ノ都會ノ人士ノ、有階級、有階級ノ婦人ナドハ何等生産の仕事ヲ爲サズシテ、消費ノミ是レ事トシ、其消費モ下ラナイ愚ニモ付カナイヤウナ奢侈品ナドヲ用キテ、自分ノ手廻リノ仕事サヘ人ヲ煩シテ、子女ノ育成ト云フモノハ婦人ノ最大任務デアアルニ拘ラズ、コンナ事サヘモ自分デ願ミナイト云フヤウナ婦人ガアルノデアリマス、是等ノ婦人ト云フ者ハ、吾々ハ毫モ同情ノ値打ガナイ、寧ロ國家ノ害物デアアル、斯ウ云フ者ハ即チ國家ニ、或ハ社會ニ、寄生スル一ノ寄生動物デアルト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、私ハ男子ノ生血ヲ吸フテ居ルヤウカト考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ婦人ガ集テ男女同權デアルトカ、或ハ機會均等ト云フヤウナ事ヲ申スナラバ、吾々ハ毫モ之ニ顧ミル必要ハナカラウト思フノデアリマス、併ナガラスカル婦人バカリガ都會ニ居ラヌ、而シテ一タビ諸君ハ眼ヲ轉ジテ農村ヲ御覽ナサイ、農村ノ婦人ハドンナニ活動シテ居ルカ、農村ノ婦人ハ何等其勢力ニ於テ決シテ男子ト異ナル所ハ無イノデアリマス、是ハ決シテ東京ナドニ在ル所ノ有階級ノ者デ、若物ノ若狂ヒヲシテ其裾ガ切レルト云フヤウナコトモ困ラナイヤウナ、自動車バカリ飛バシテ他ノ人ヲ羨マシタリ、困ラシタリスルト云フヤウナコトハヤテ居ラヌ、我國ハ雪ノ國デアアル、隨テ「モンベイ」ト云フ袴ニ似タヤウナモノヲ穿キマシテ、朝カラ晩マデ家デ稼イデ、男子ト同ジク山稼モ致シマス、畑ニモ出ルコトハ無論デアリマス、其暇ニ家事ノ整理モスル、病人ノ世話モスルノデアリマス、近頃東京邊カラブラート青年トカ少女トカ、肺病患者ニナテ歸テ來ルノデアリマス、斯ウ云フ者モ能ク面倒ヲ見テ居ルノデアリマス、醫者ハ少イシ藥屋ハ遠イト云フ、此間ノ農村婦人ノ苦心ト云フモノハ頗

ル慘憺タルモノガアルノデアリマス、併ナガラ斯ナ間ニ農村婦女ハ何ヲシテ居ルカ、諸君ハ御承知ノ通り日本輸出ノ大宗タルモノハ生絲デアアル、生絲ノ本タル養蠶業ハ誰ノ手ニ依テ營マレテ居ルカト云フコトヲ諸君考ヘテ御覽ナサイ、是ハ農村婦人ヲ中樞トシテ營ンデ居ル、農村婦人デナケレバ養蠶業ハ到底行ハレ得ナイト云フコトヲ私ハ斷言シテ憚ラヌノデアリマス、其他ニ於テモ蠶絲工業——武藤サンアタリノ御關係ニナテ居ル蠶絲工業ノ如キモ、工女ト云フモノヲ取去タナラバ何處ガ出來ルカト云フコトヲ言ヒタイノデアリマス、斯ウ云フヤウナ人ニ、其他ノ職業婦人ト云フヤウナモノアル、交通機關ノ電話、或ハ小學校カラ女教員ヲ取去タナラバ、教育ハドウナルカト云フヤウナコトヲ考ヘマシコトハ、此婦人ヲ現狀ノ儘ニ置クト云フコトハ、是ハ國家トシテ大イニ考ヘナケレバ目ナ問題デアアル(拍手)、併ナガラ物ニハ順序モアリマセウ、又哲學上ノ議論ヤ人論ト云フヤウナ道徳論ノミヲ、之ヲ直グ様捉ヘテ之ヲ規範トシテ法律ノ改廢ヲスルト云フコトハ、吾々モ直ニ同意出來ヌノデアリマス、併ナガラ既ニ農村ニ於テハ此婦人ノ努力、婦人ノ力ト云フモノヲ信認致シマシテ、之ニ農會ニ參與スル權利ヲ與ヘタザヤアリマセウカ、農會員トシテ、農會役員トシテ、男子ト婦人トハ毫モ差別ハ今日無イノデアリマス、ソレハ十一年三月四十五議會ニ現ハレテ諸君ガ協賛サレタノデアラ、諸君ノ御記憶ニ新タナル所デアリマス、農村農政ニ於テ婦人ガ參政權ヲ持ツタ、農村ニ於ケル問題ハ何デアリマセウ、教育問題デアリマセウ、衛生問題デセウ、大ナルモノト云フモノハ土木ナドモアリマスケレドモ、併ナガラ是等ノ問題ハ男子ノ手ヨリハ多クハ婦人ニ交渉アル問題デアアル、農政ニ參與セシメタル所ノ我國ガ教育ヤ衛生ノ問題ニ女子ヲ煩ハシテイカヌト云フ道理ガ何處ニアリマスカ、是ニ於テ吾々ハ先ヅ町村制ヲ改正致シマシテ、而シテ茲ニ婦人ニ公民

權ヲ與ヘ、地方自治體ニ婦人ヲ參與致サシメ、而シテハ一ハ以テ有階級拔アタリノブラー(シテ居ル婦人ヲ自覺セシメ、其餘タル努力、或ハ餘タル資力ヲ社會公共事業ノ爲ニ使ハセル、自分ノ子ハ可愛イノデアル、其人々モ人手ニハ委セルケレドモ、其之ヲ育テラレル所ノ其土地ノ爲ニ、又自分ノ住ンデ居ル此土地ノ爲ニ大ニ力ヲ致サセルト云フコトハ、所謂禍ヲ轉ジテ福ト爲サシムル方法デアラウト斯ウ考ヘルノデアリマス、延テ何時カハ松本君ノ高唱サレルガ如ク、本黨ノ諸君ノ言ハル、如ク、多少意味ハ違ヒマスガ、併ナガラ斯ウ云フ問題ハ早晚解決セラレナケレバナラヌ、ソレニ於テソレ——政治的訓練ヲ爲サシメ、之ヲ嚮テハ參政權ヲ得セシムル階梯ト致スト云フコトハ、洵ニ當然ノ事グラウト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)、此故ニ市制並ニ町村制ノ改正ヲ致シマシテ、婦人地方自治體ニ於ケル公務ニ參與セシムル、即チ公民權ヲ有セシメタイト云フノガ本案ノ大體ノ趣旨デアリマス、其詳細ニ至リマシテハ委員會ニ於テ十分ニ陳述ヲ致シタイト思フノデアリマス、ドウカ諸君ニ於カレマシテソレ——御審議ノ上ト御協賛アラントヲ偏ニ費フ次第デアリマス(拍手)

○井本常作君 本案ハ日程第十議案ト同一委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、是ニテ全部日程ハ終了致シマシタ、諮問事項ガアリマス、細梅三郎君ハ事故ノ爲三月十日ヨリ三月二十日マデ請假ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナケレバ許可致シマス、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ之ニテ散會致シマス

午後六時三十五分散會

- 衆議院議事速記第二十四號 五七五頁一段二五行ノ後ニ左ノ(參照)ヲ脱ス
- 〔治安維持法案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ投票者氏名〕
- 〔參照〕
- 第二讀會ヲ開クヘシトスル議員ノ氏名左ノ如シ
- | | |
|----------|----------|
| 一柳 仲次郎君 | 井本 常作君 |
| 石川 安次郎君 | 石塚 三郎君 |
| 石黒 次郎君 | 飯塚 春太郎君 |
| 早速 整衛君 | 服部 英明君 |
| 原 脩次郎君 | 橋本 喜造君 |
| 戸田 由美君 | 大島 要三君 |
| 太田 信治郎君 | 小野 重行君 |
| 岡本 實太郎君 | 岡部 次郎君 |
| 奥村 千藏君 | 片岡 直郎君 |
| 川崎 安之助君 | 河波 荒次郎君 |
| 加藤 六藏君 | 金澤 安之助君 |
| 神谷 彌平君 | 神部 爲藏君 |
| 横山 勝太郎君 | 横山 金太郎君 |
| 横山 一格君 | 吉川 吉郎兵衛君 |
| 吉原 義雄君 | 賴母 木桂吉君 |
| 武内 作平君 | 田中 善立君 |
| 高木 益太郎君 | 高田 耘平君 |
| 高橋 元四郎君 | 谷口 宇右衛門君 |
| 建部 遷吾君 | 中原 徳太郎君 |
| 中村 貞吉君 | 中野 正剛君 |
| 村上 國吉君 | 村山 喜一郎君 |
| 宇田 友四郎君 | 野村 嘉六君 |
| 黒田 重兵衛君 | 栗延 敬太郎君 |
| 工藤 鐵男君 | 八並 武治君 |
| 山根 儀重君 | 山田 又司君 |
| 山田 助作君 | 山本 勝次君 |
| 松井 郡治君 | 丸山 五郎君 |
| 藤澤 義之輔君 | 深井 功君 |
| 福田 五郎君 | 小島 證作君 |
| 小寺 謙吉君 | 小山 松壽君 |
| 小西 和君 | 小池 仁郎君 |
| 木村 三四郎君 | 河野 正義君 |
| 河野 曉君 | 近藤 重三郎君 |
| 紺野 九右衛門君 | 寺島 權藏君 |

淺賀長兵衛君	淺川 浩君	阿由葉勝作君	荒井 建三君	荒川 五郎君	佐藤 耕逸君	佐藤 實君	齋藤 仁太郎君	齋藤 金吾君	澤田 利吉君	三好榮次郎君	下元鹿之助君	信太儀右衛門君	重松 重治君	平沼 亮三君	平野 光雄君	森田 茂君	關矢 孫一君	鈴木富士彌君	磯部 尚君	石井 謹吾君	今井 健彦君	生田 和平君	泰 豐助君	西方 利馬君	大竹 謙治君	岡崎 邦輔君	小野 義一君	兼松寅太郎君	吉田 眞策君	高井 商二君	高木 音藏君	武藤 金吉君	來栖 七郎君	熊谷 直太郎君	矢野 鉦吉君	山口 恒太郎君	山下 谷次君	松實喜代太君	藤川 清助君	木暮 正一君	青柳郁次郎君	東 武君	榊原 經武君	佐々木春作君
淺川 浩君	荒井 建三君	荒川 五郎君	佐藤 實君	齋藤 仁太郎君	齋藤 金吾君	澤田 利吉君	三好榮次郎君	下元鹿之助君	信太儀右衛門君	重松 重治君	平沼 亮三君	平野 光雄君	森田 茂君	關矢 孫一君	鈴木富士彌君	磯部 尚君	石井 謹吾君	今井 健彦君	生田 和平君	泰 豐助君	西方 利馬君	大竹 謙治君	岡崎 邦輔君	小野 義一君	兼松寅太郎君	吉田 眞策君	高井 商二君	高木 音藏君	武藤 金吉君	來栖 七郎君	熊谷 直太郎君	矢野 鉦吉君	山口 恒太郎君	山下 谷次君	松實喜代太君	藤川 清助君	木暮 正一君	青柳郁次郎君	東 武君	榊原 經武君	佐々木春作君			

坂井 大輔君	三善 清之君	廣瀬 爲久君	鈴木 隆君	板野 友造君	馬場 義興君	西村丹治郎君	土居 通憲君	大内 暢三君	高島 兵吉君	山本 芳治君	齋藤眞三郎君	砂田 重政君	原 惣兵衛君	富田 憲之助君	東郷 實君	陣 軍吉君	小野 寅吉君	川原 茂輔君	加藤 鑠五郎君	神村 吉郎君	吉木 陽君	丹下茂十郎君	土屋 興君	津崎 尙武君	中林 友信君	植場 平君	梅田 寛一君	野村治三郎君	藏園三四郎君	牧山 耕藏君	麓 純義君	吉良 元夫君	宣保 成晴君	志波安一郎君	平田民之助君	井上 孝哉君	石坂 豐一君	岡田 忠彦君	若宮 貞夫君	堤 清六君	山口 左一君
宮本 逸三君	志賀和多利君	瀨沼伊兵衛君	菅原 傳君	大養 毅君	濱田 國松君	土井 權大君	大口 喜六君	高草美代藏君	植原悦二郎君	秋田 清君	關 直彦君	石原正太郎君	原田藤次郎君	床次竹二郎君	千葉宮次郎君	小島 善作君	小園 榮三郎君	河崎 清君	柏田 忠一君	吉植庄一郎君	高見 通君	田中 隆三君	筒井民次郎君	中村 嘉壽君	中山 貞雄君	上埜安太郎君	則元 由庸君	熊谷五右衛門君	前田房之助君	松田 源治君	古林 新治君	岸本 賀昌君	三輪市太郎君	清水市太郎君	森 肇君	磯部 保次君	堀田義次郎君	小川郷太郎君	若尾 璋八君	浦山助太郎君	山本 眞平君

増田 義一君	小室 光雄君	多木久米次郎君	第二讀會ヲ開クヘカラストスル議員ノ氏名左ノ如シ	星島 二郎君	田崎 信藏君	湯淺 凡平君	坂東幸太郎君	畔田 明君	佐藤 潤象君	前野 芳造君	森田 金藏君	湛増 庸一君	松山兼三郎君	秋田寅之介君	太宰 孫九君	尾崎 行雄君	清瀬 一郎君	今里準太郎君	本田 義成君	山本 慎平君	武藤 山治君	古林喜代太君	猪野毛利榮君	菊池謙二郎君
五八〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五八〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
三	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
我ニ	マシテハ	ヤリ	アル	居ル	シテモ、又此	シタイノハ	本案ノ第二	本案ノ第三	何ガ此	安寧ノ秩序	賛成	何ガ故ニ此	何ガ此	安寧ノ秩序	賛成	何ガ故ニ此	何ガ此	安寧ノ秩序	賛成	何ガ故ニ此	何ガ此	安寧ノ秩序	賛成	